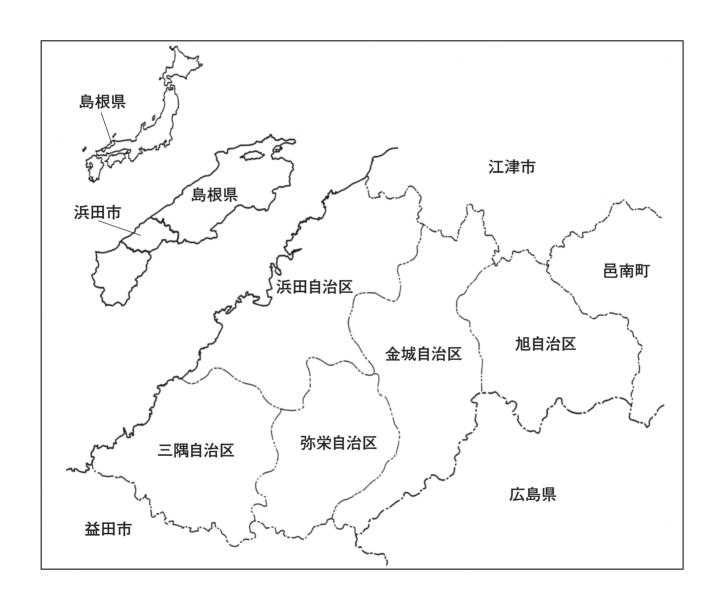
島根県浜田市遺跡地図皿(三隅自治区) 史跡 石見国分寺跡(塔東側の確認調査)

平成21年度 市内遺跡発掘調査報告書



2011年3月 島根県 浜田市教育委員会

浜田市教育委員会では市内の遺跡を確認するため、平成11年度から国庫補助事業を受けて市内遺跡の発掘調査を実施しています。平成18年度からは市町村合併に伴い、旧那賀郡(金城町・旭町・三隅町・弥栄村)も含めた新浜田市を対象として事業を実施しています。

本書は三隅自治区の遺跡位置を示した地図をまとめており、文化財保護のための基礎資料です。学校教育や生涯学習・開発事業との調整などひろく活用され、文化財保護思想の普及、地域史研究への一助となることを願っております。

おわりに、本書を刊行するにあたり御協力をいただきました地元の皆様、島根県教育委員会をはじめとした 関係者の皆様に厚くお礼を申し上げます。

平成23年3月

浜田市教育委員会

教育長 山 田 洋 夫

例 言

- 1. 本書は浜田市教育委員会が平成22年度に国庫補助を受けて実施した市内遺跡発掘調査事業の報告書である。事業は遺跡分布調査と台帳整理、試掘確認調査と関連遺物の整理作業を実施した。
- 2. 調査は以下の組織で行った。

調查主体 浜田市教育委員会教育長 山田洋夫

調査指導 倉井雄一 (浜田市文化財保護審議委員・平成21年度)

阿部志朗 (浜田高校教諭・元島根県歴史の道調査委員)

島根県教育委員会 文化財課

調查員 榊原博英(浜田市教育委員会 文化振興課 文化財係 主任主事)

藤田大輔(浜田市教育委員会 文化振興課 文化財係 主事・平成22年度)

事務局 浜田市教育委員会 文化振興課 文化財係

文化振興課長 山根 稔 (平成21年度) 岡本好明 (平成22年度)

文化財係長 原 裕司・専門企画員 岡本彰治(平成21年7月~平成22年3月)

主任主事 瀧山恵子 (~平成21年6月)・主事 宮脇 聖

3. 調査にあたり協力および従事していただいた方々は次のとおりである。

調査協力 金蔵寺、小早川淳、田中義昭、島根県立八雲立つ風土記の丘資料館、島根県埋蔵文化財調査 センター

調査参加 坪倉ひとみ、中田貴子、中田洋子、原田勝義、半場利定、吉田安男

4. 遺物実測図は軒瓦と土器・石器類が1/4スケール、丸・平瓦が1/5スケール、土器底部の回転糸切りは記号で示している。

出土遺物、実測図及び写真、台帳類の記録は浜田市教育委員会に保管してある。

5. 本書の執筆は調査員が分担して行い、文責を目次に示した。全体の編集は榊原が行なった。

本文目次

第1草	事業の経過(榊原)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・
第2章	三隅自治区遺跡地図
	(遺跡分布図・遺跡一覧・指定文化財一覧・参考文献) 2
第3章	埋蔵文化財の事務手続きフロー
第4章	三隅自治区の埋蔵文化財について(榊原・藤田) 63
第5章	史跡 石見国分寺跡(塔東側)の確認調査 75
	第1節 調査の経過 (榊原) 75
	第2節 層序と遺構 (榊原) 75
	第3節 遺 物 (藤田)
	第 4 節 終 括 (榊原) 85

第1章 事業の経過

浜田市教育委員会では国庫補助事業を受けて市内遺跡の試堀確認調査を平成11年度より実施している。平成17 (2005) 年10月1日の市町村合併により、那賀郡 (金城町・旭町・三隅町・弥栄村) を含めた新浜田市の範囲を対象とする事業となった。

これまでの調査結果については、以下の報告書を刊行している。

『浜田市遺跡詳細分布調査―国府地区 I ―』浜田市教育委員会 平成14年3月

『史跡 石見国分寺跡·県史跡 石見国分尼寺跡』浜田市教育委員会 平成18年3月

『浜田市遺跡詳細分布調査―周布地区 I ―』浜田市教育委員会 平成19年3月

『史跡 周布古墳・蔵地宅後古墳・市史跡 金田1号墳』浜田市教育委員会 平成20年3月

『島根県浜田市遺跡地図 I (浜田自治区)・仕切遺跡』浜田市教育委員会 平成21年3月

『島根県浜田市遺跡地図Ⅱ (金城自治区)・七渡瀬Ⅱ遺跡』浜田市教育委員会 平成22年3月

本報告書に収録した内容は、平成21年度に実施した史跡 石見国分寺跡の確認調査と市内分布調査・ 台帳整理に基づく三隅自治区の遺跡地図である。

第2章 三隅自治区遺跡地図

島根県教育委員会2002『島根県遺跡地図Ⅱ(石見編)』に基づき、O1から一連番号を付した。なお、市町村合併以前に付けられた三隅町の遺跡には、石碑や隨道など現在の埋蔵文化財として取り扱う範囲としては検討を要するものが多く含まれている。

指定文化財には別番号(史跡:国史、県史、市史・天然記念物:国天、県天、市天・登録文化財:国 登)を付した。このため、埋蔵文化財と史跡の番号は二重になっており、史跡指定範囲(一点鎖線)と 埋蔵文化財の範囲は異なっている。

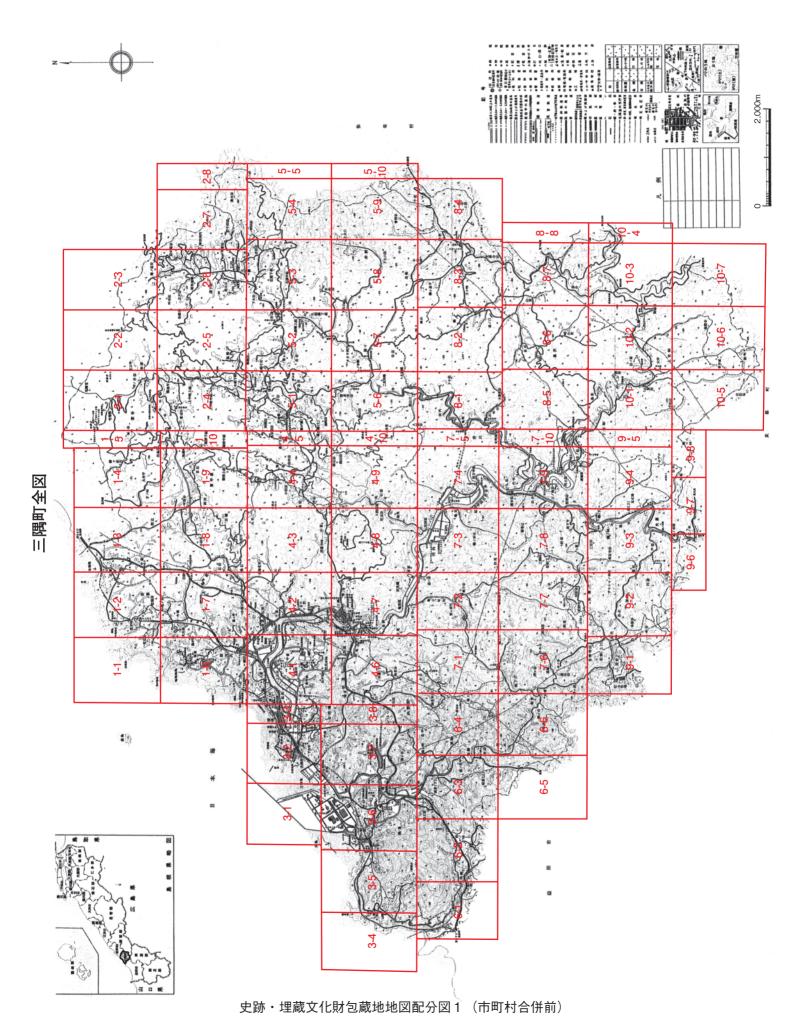
遺跡は種別によって下記のとおり分け、赤色の記号であらわした。種類が複数になるものは主なもので代表させている。遺跡の範囲が明確なものは塗りつぶし、不明確なものは白抜きで示した。

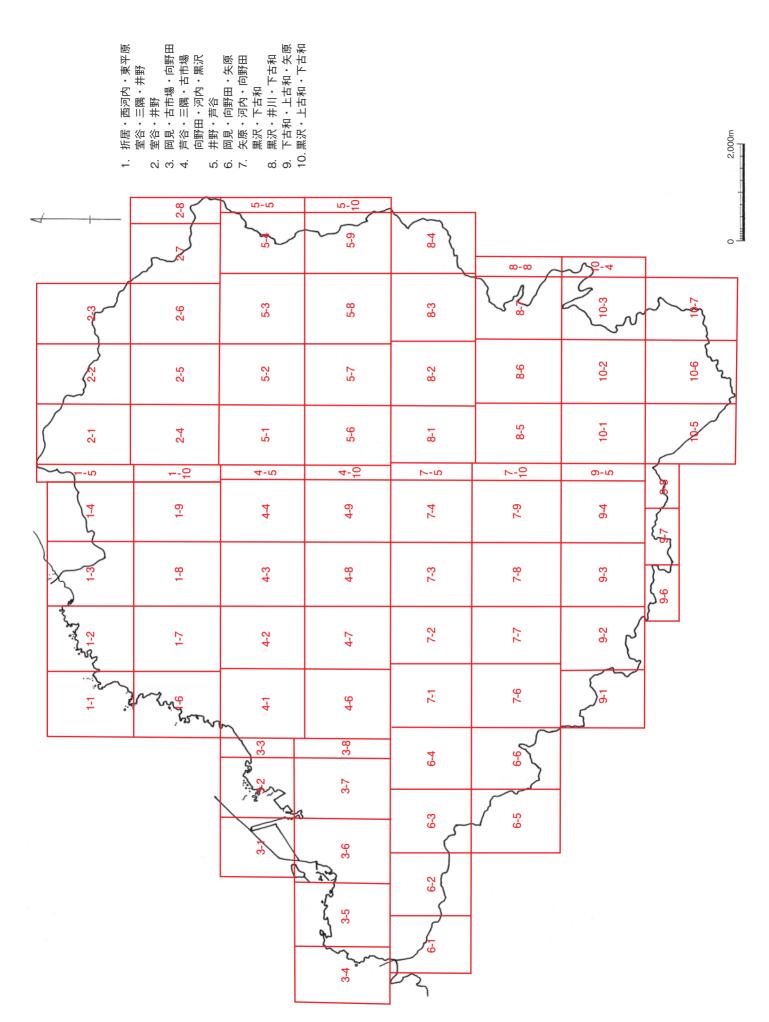
街道跡は島根県歴史の道調査報告書とその後の調査委員の補足を反映したものである。およそ江戸時代後期から近代にかけてのものである。

遺跡 \bigcirc 遺跡 (不明確) · · · · · 遺跡範囲(不明確) 遺跡範囲 古墳・墳墓 \bigcirc 古墳・墳墓(不明確) 古墓・石碑など石造物 古墓・石碑など石造物(不明確) 1 П \triangle 窯業関係遺跡 \wedge 窯業関係遺跡 (不明確) ∇ 製鉄関係遺跡(不明確) 製鉄関係遺跡 卍 寺院跡 \bigcirc その他の遺跡 凸 城館跡 П 調査実施地点・遺跡確認 調査実施地点・遺跡なし 指定範囲(史跡・登録文化財) ф 天然記念物(樹木) ★ 天然記念物(樹木以外)

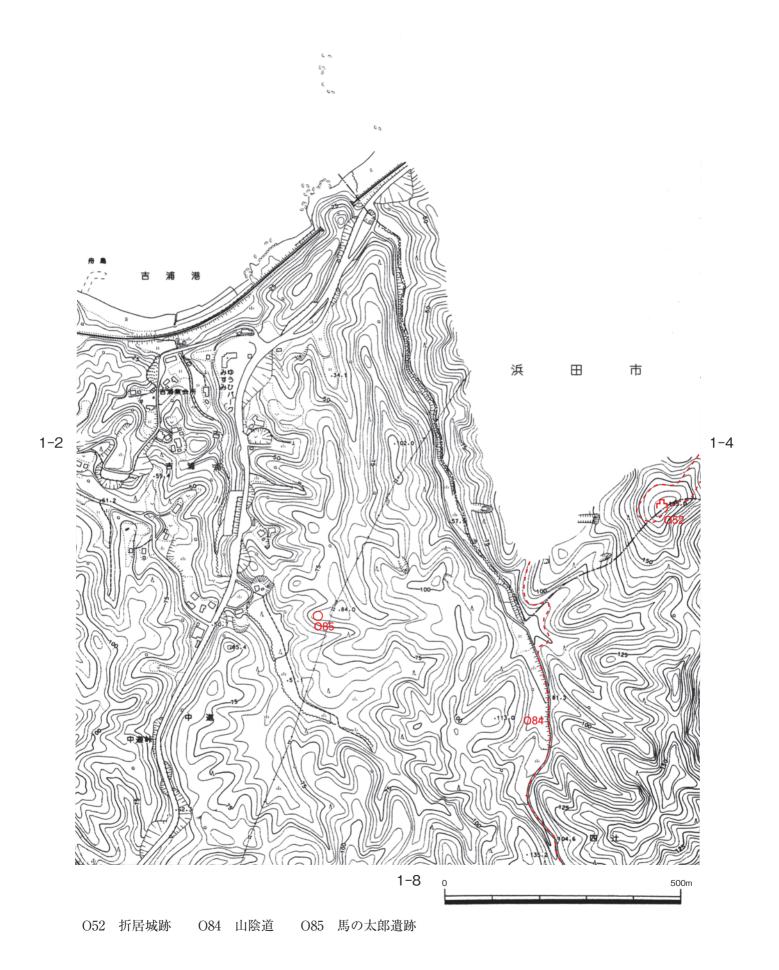
地図上に示した遺跡は、現段階で確認できたものを掲載しています。図示されていない地点にも遺跡が存在する可能性があるため、現地確認などの予備調査(分布調査・試掘調査など)が必要になります。 開発行為を計画する場合は浜田市教育委員会に照会していただきたい。

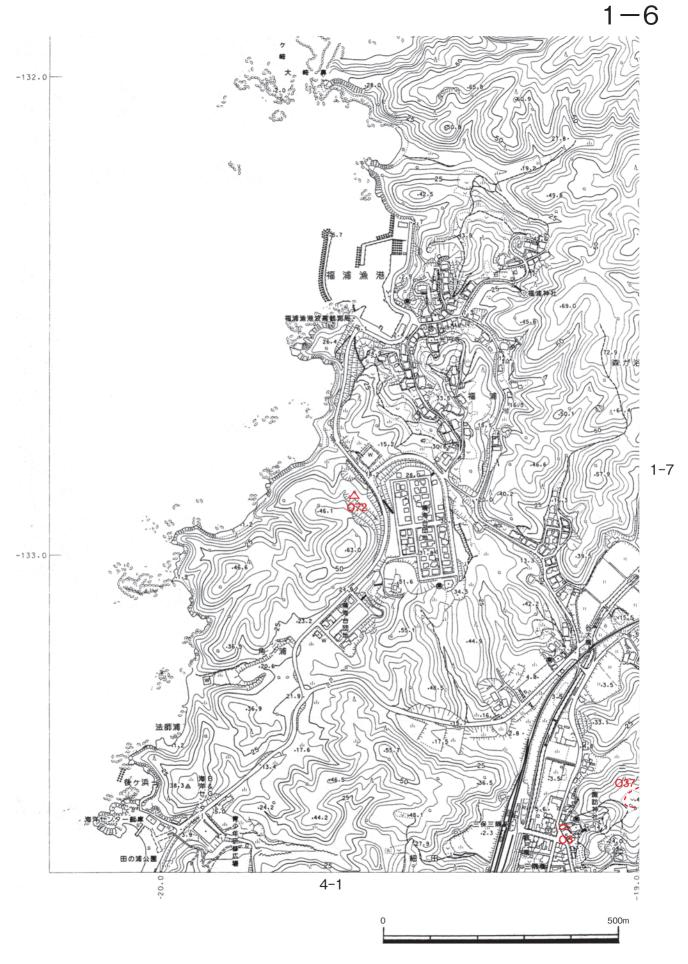
掲載した地図(1/80,000、1/8,000)は、浜田市三隅支所で保管している1/50,000の三隅町管内図・1/5,000の都市計画図(平成4年9月測図)を使用した。平成17年の市町村合併以前のものである。



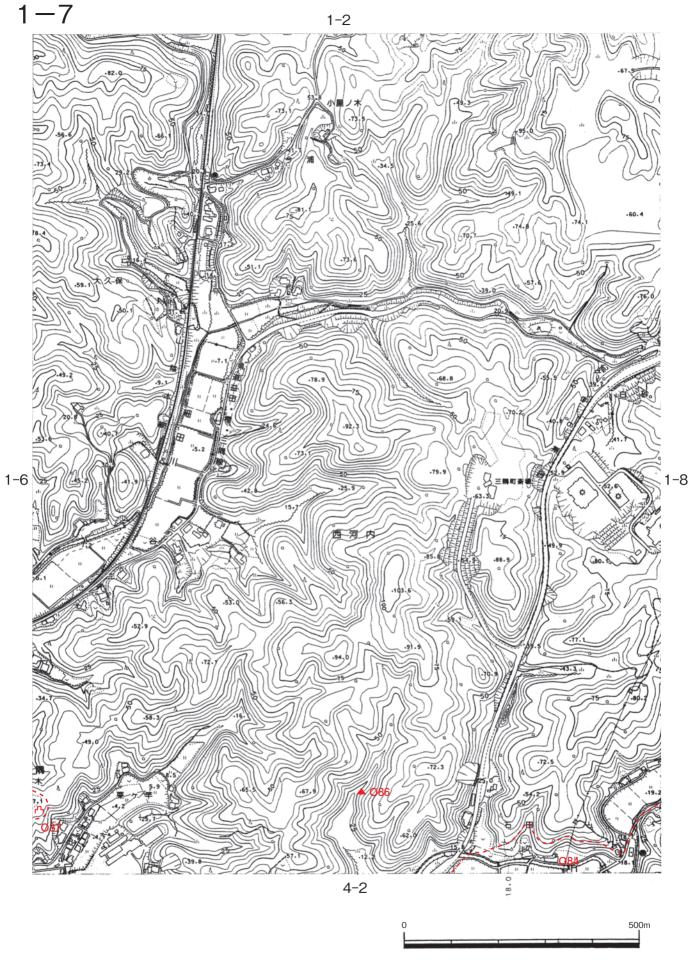


史跡・埋蔵文化財包蔵地地図配分図2

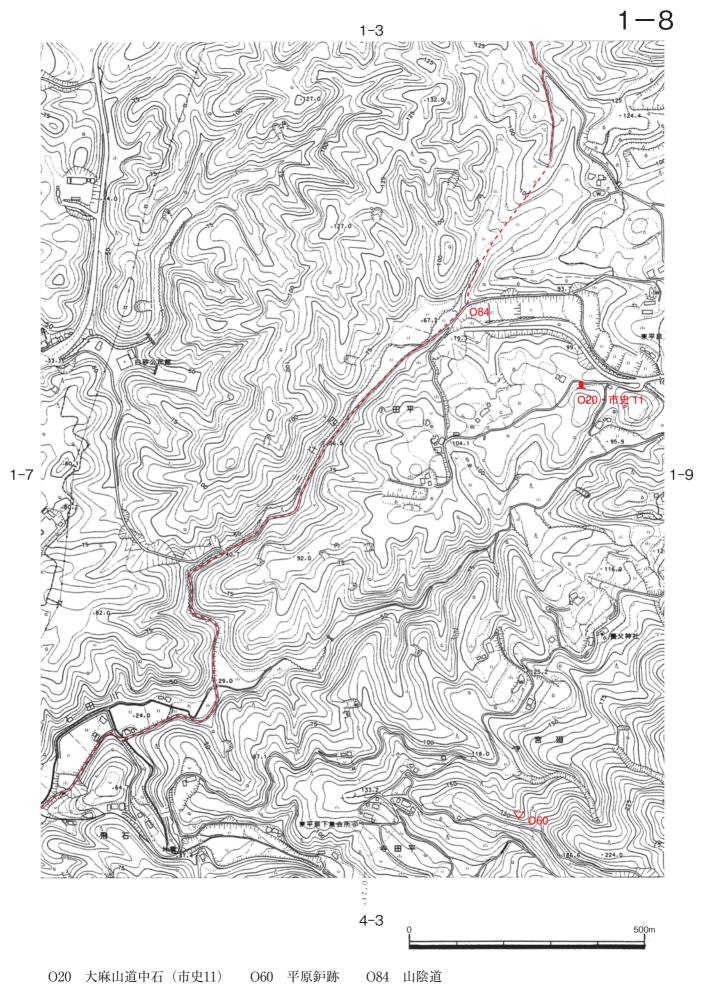


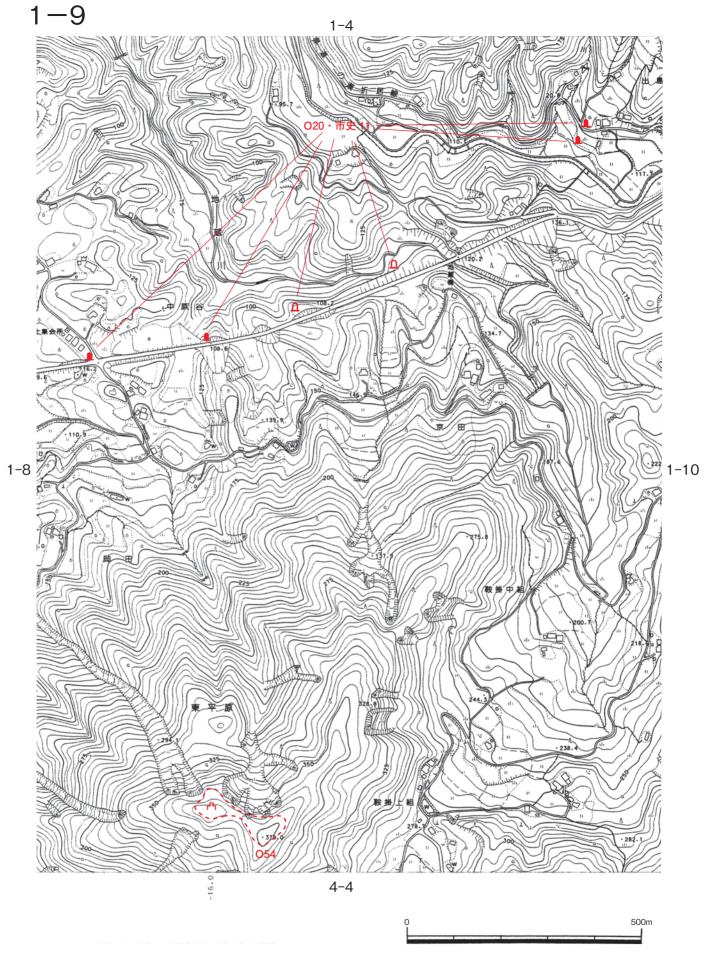


O3 鉢の木古墳 O37 八ノ木砦跡 O72 角浦石見焼窯跡

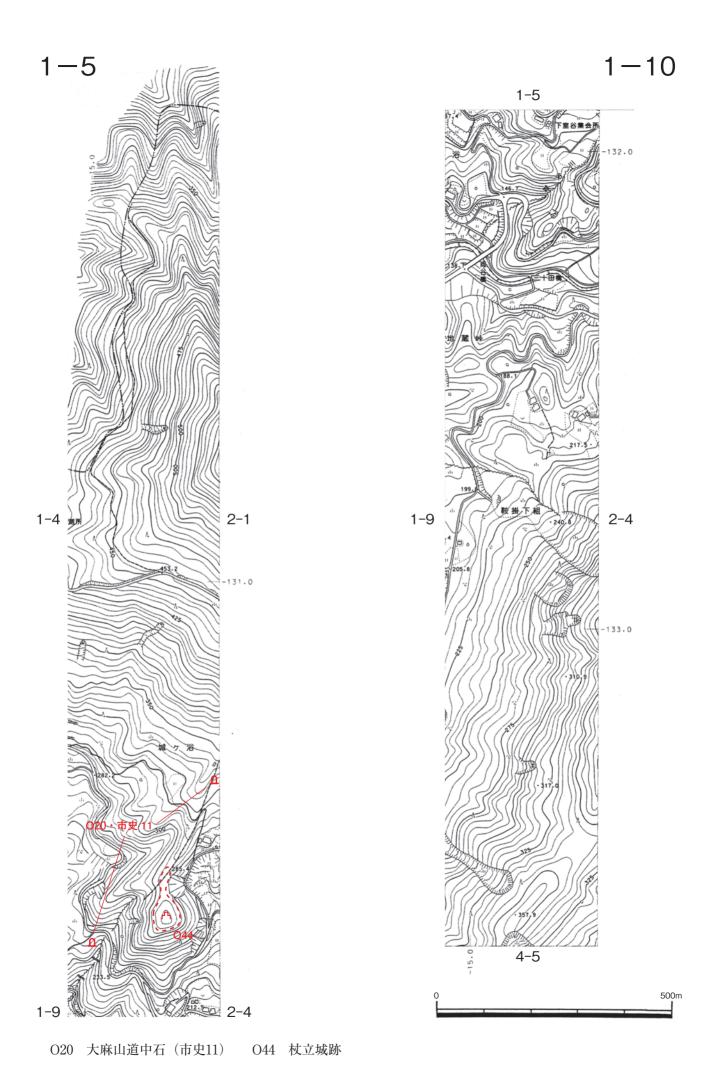


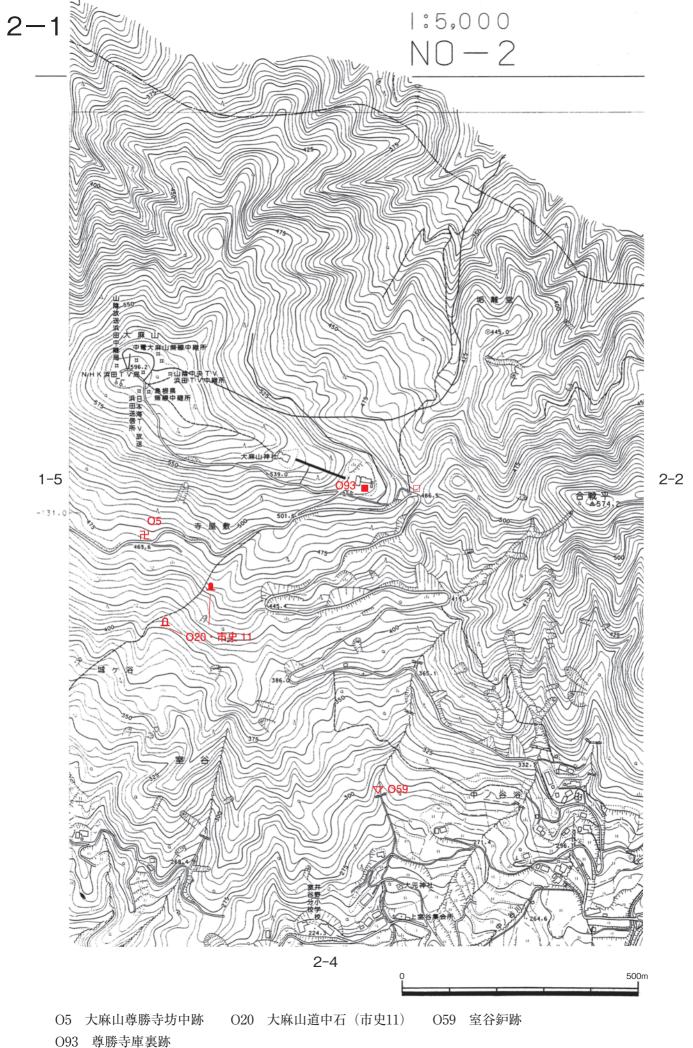
O37 八ノ木砦跡 O84 山陰道 O86 北ヶ迫遺跡





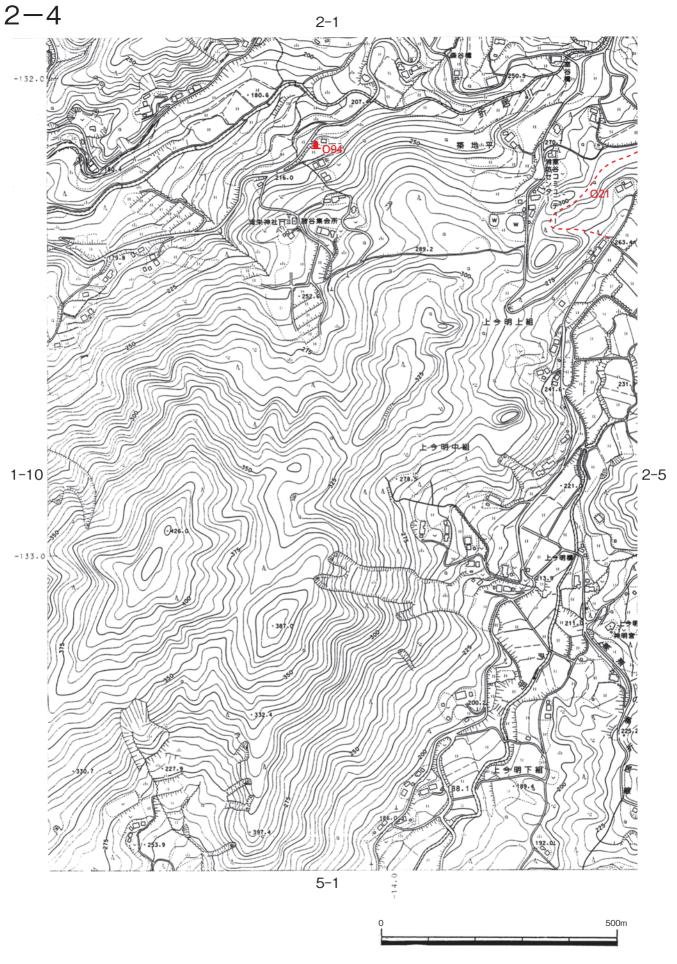
O20 大麻山道中石(市史11) O54 岳城跡



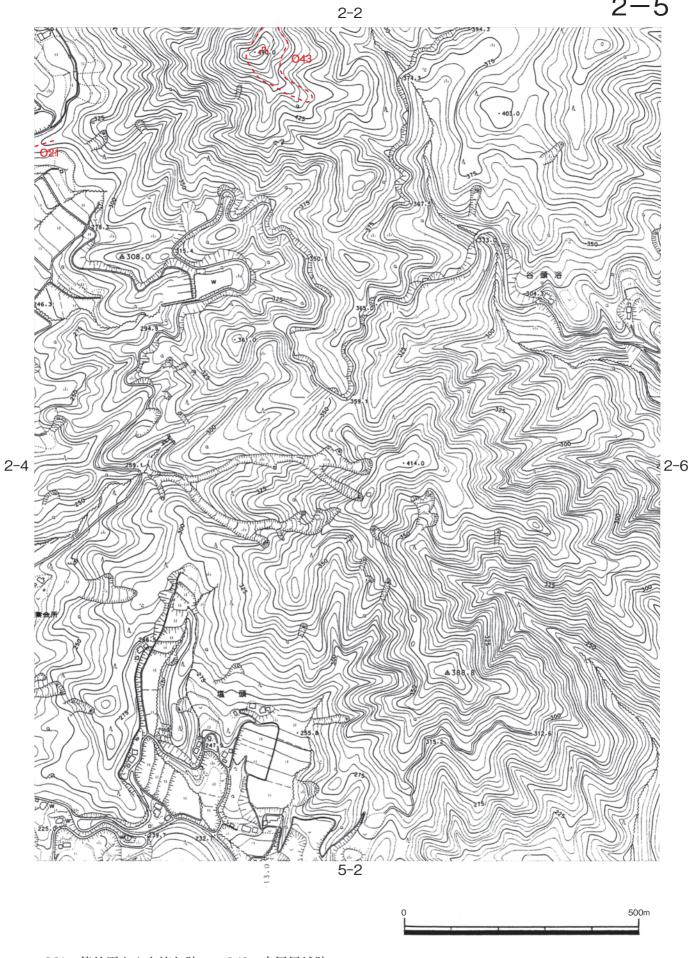


-11-

2-1 2-3 2-5 O43 鳥屋尾城跡

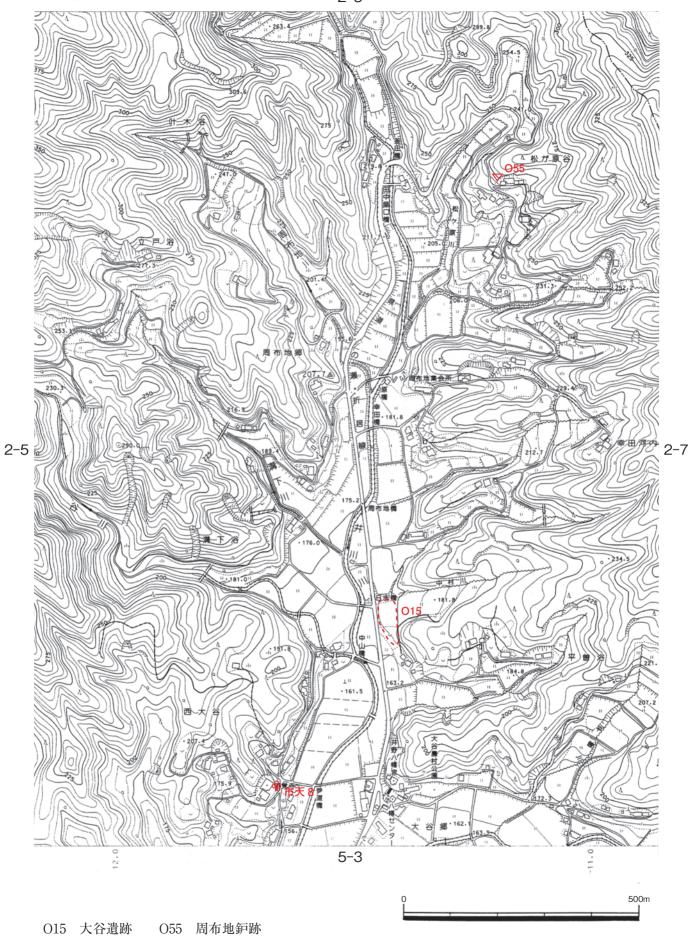


O21 築地平かんな流し跡 O94 室谷古墓



O21 築地平かんな流し跡 O43 鳥屋尾城跡

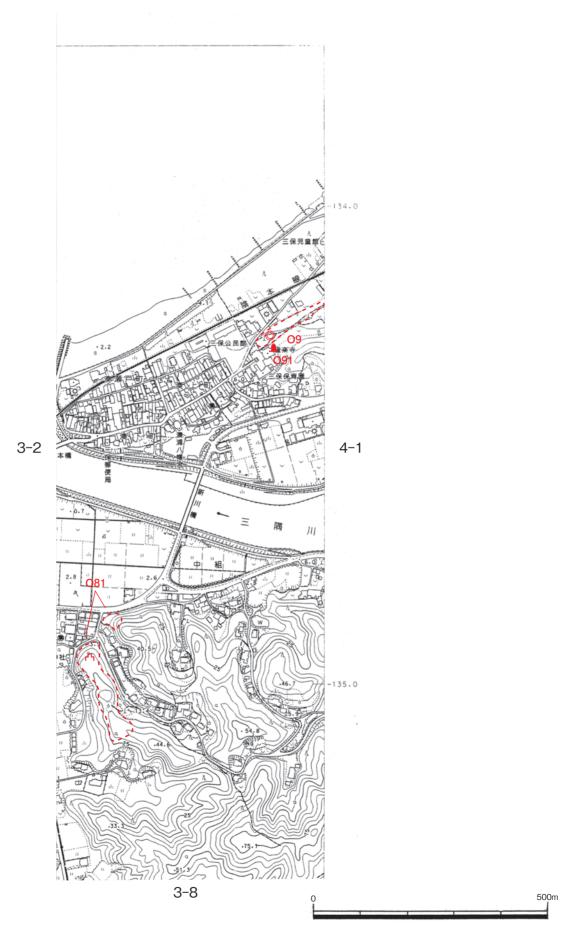
2-6



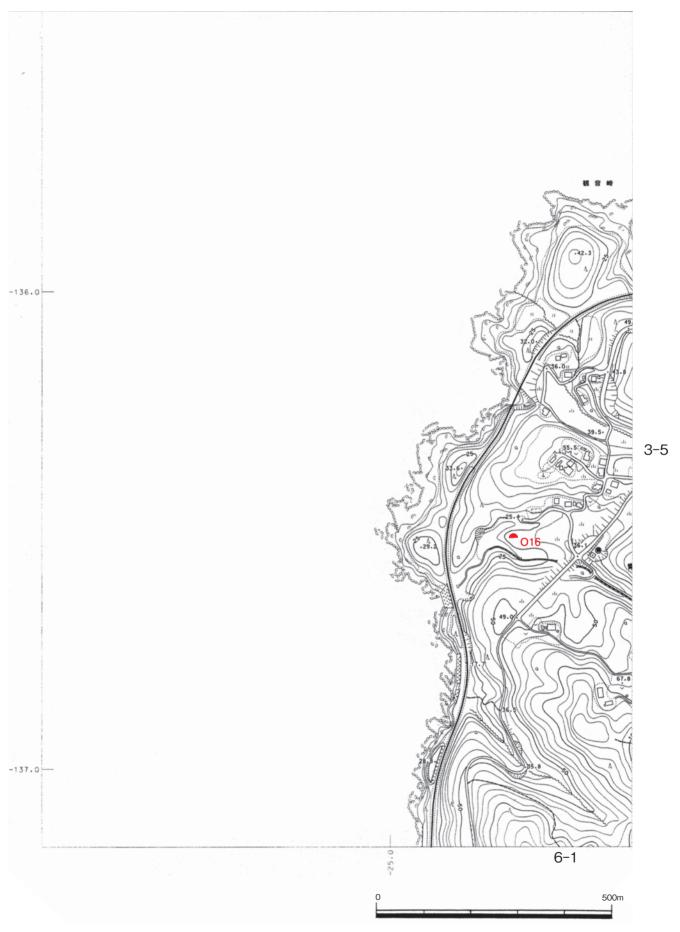
O15大谷遺跡O55周布地鈩跡市天8お葉付き銀杏



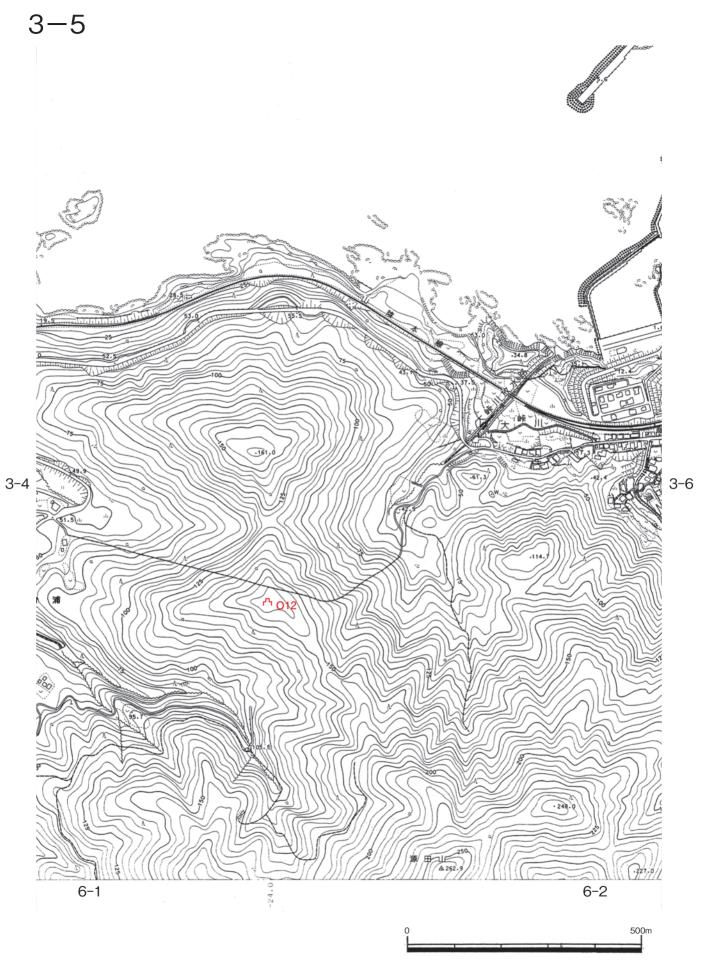
O10 針藻城跡(七櫓・鐘尾針藻城跡) O73 松原遺跡



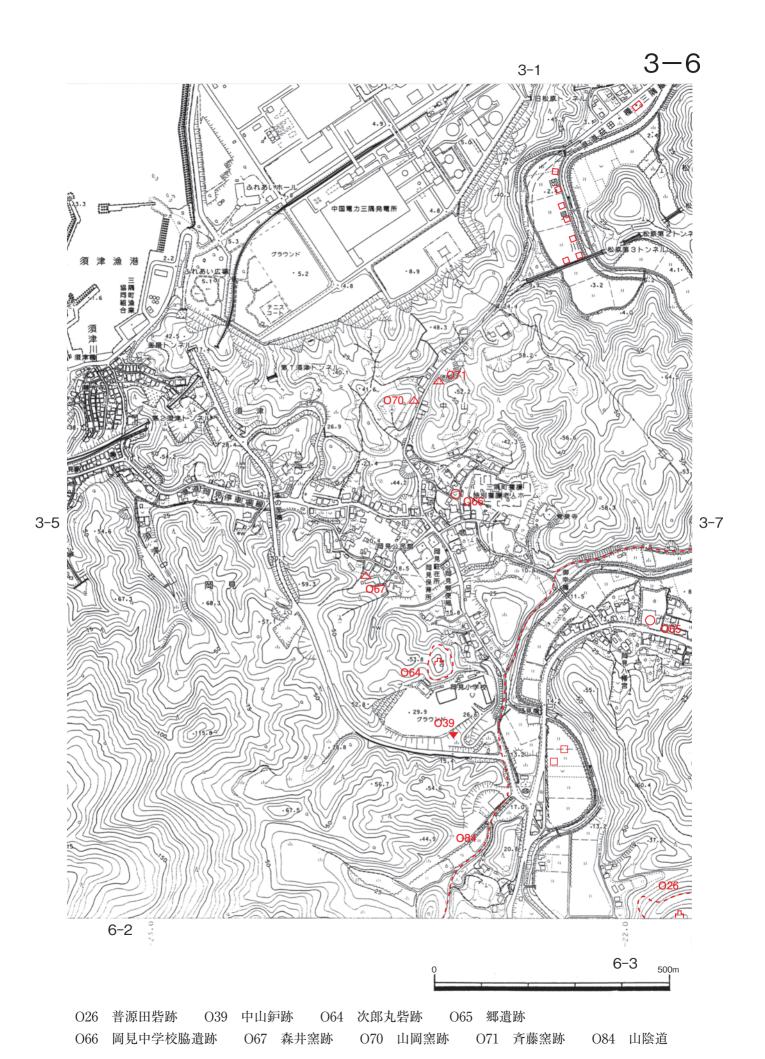
O9 三隅石塁 O81 小金町城跡 O91 極楽寺横古墓

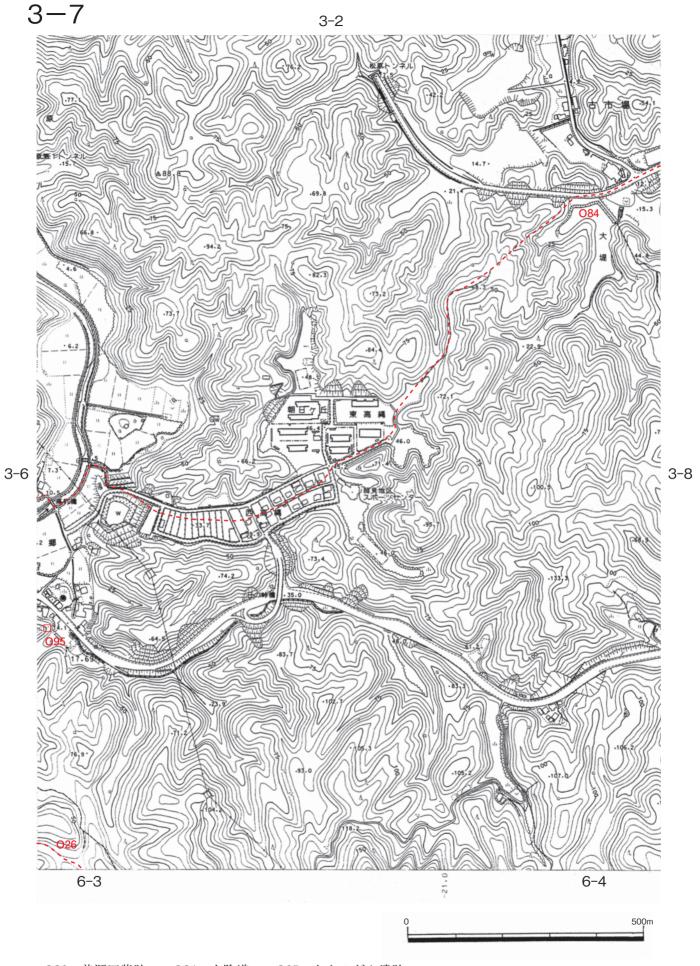


O16 青浦古墳

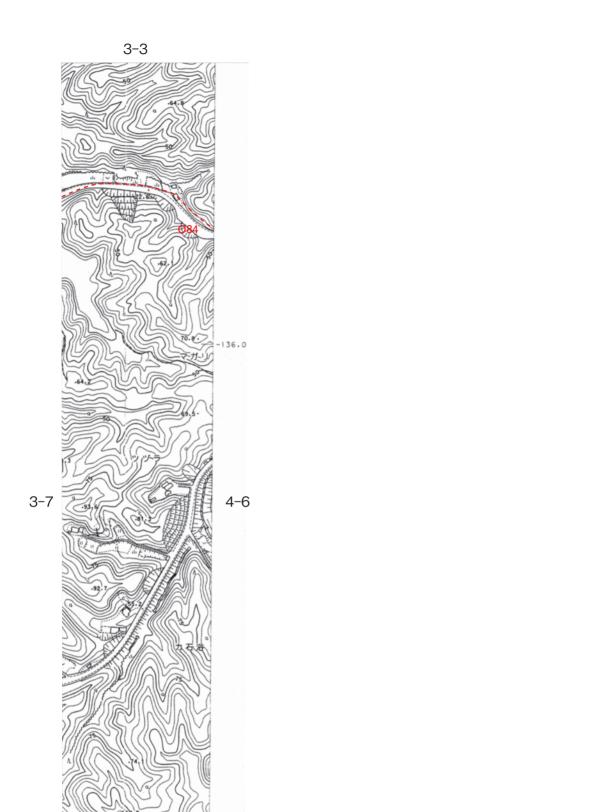


O12 大多和外城跡





O26 普源田砦跡 O84 山陰道 O95 たかのだん遺跡



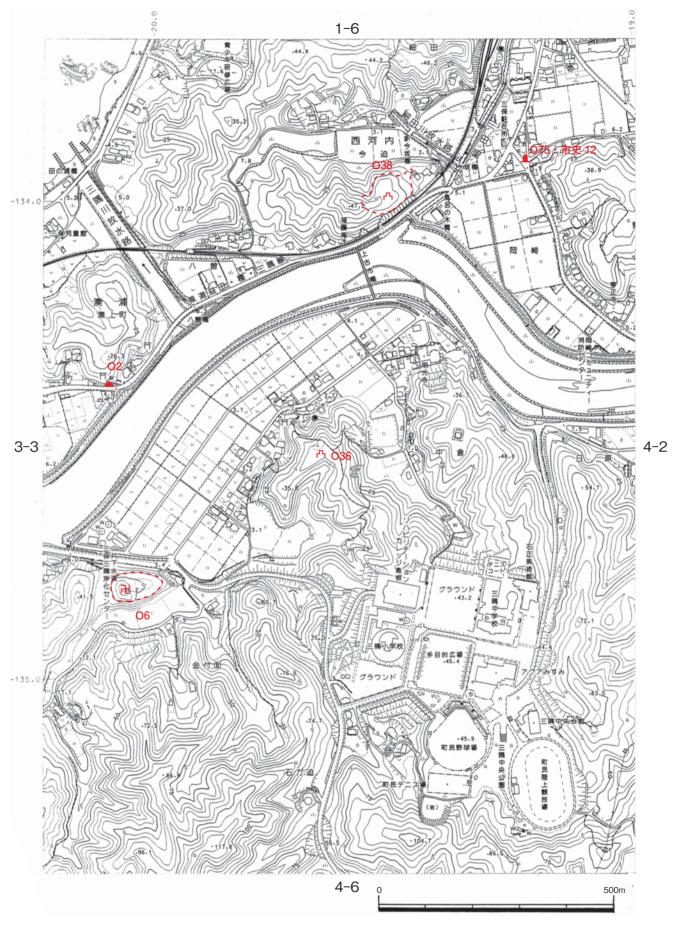


3-8

O84 山陰道

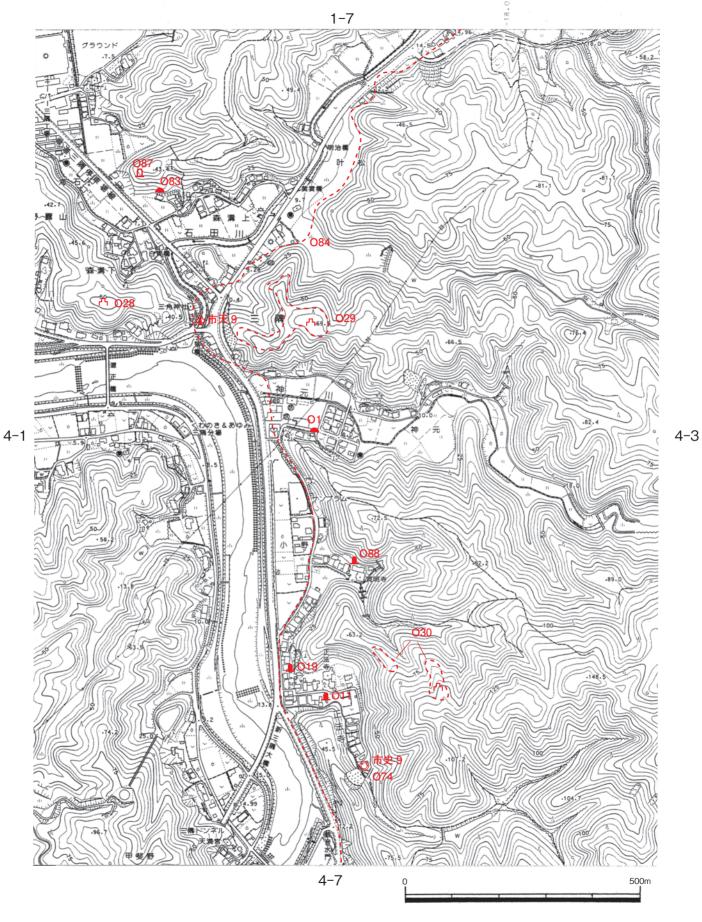
6-4

4-1



 O2
 高田横穴群
 O6
 安穏寺跡
 O36
 古市城跡
 O38
 風呂ノ木砦跡

 O75
 成田郷三角田記念碑(市史12)



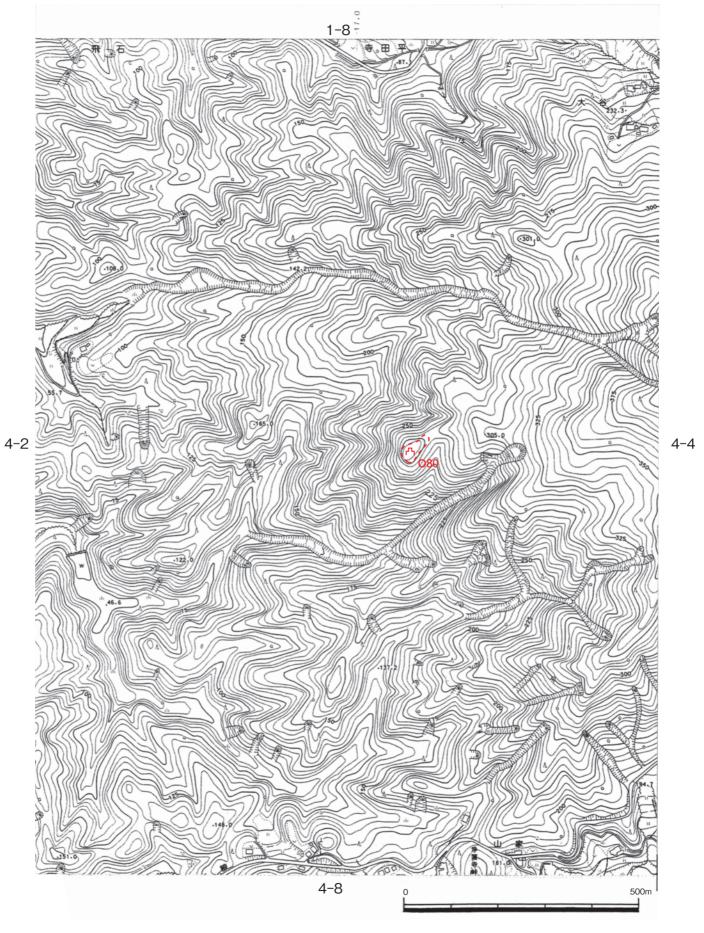
 O1 小野古墳
 O11 伝三隅兼連墓
 O19 伝三隅悪五郎墓
 O28 梅ヶ城跡 (野露山城跡)

 O29 石田城跡
 O30 鐘尾城跡
 O74 正法寺奥の院 (市史9)
 O83 苅立横穴

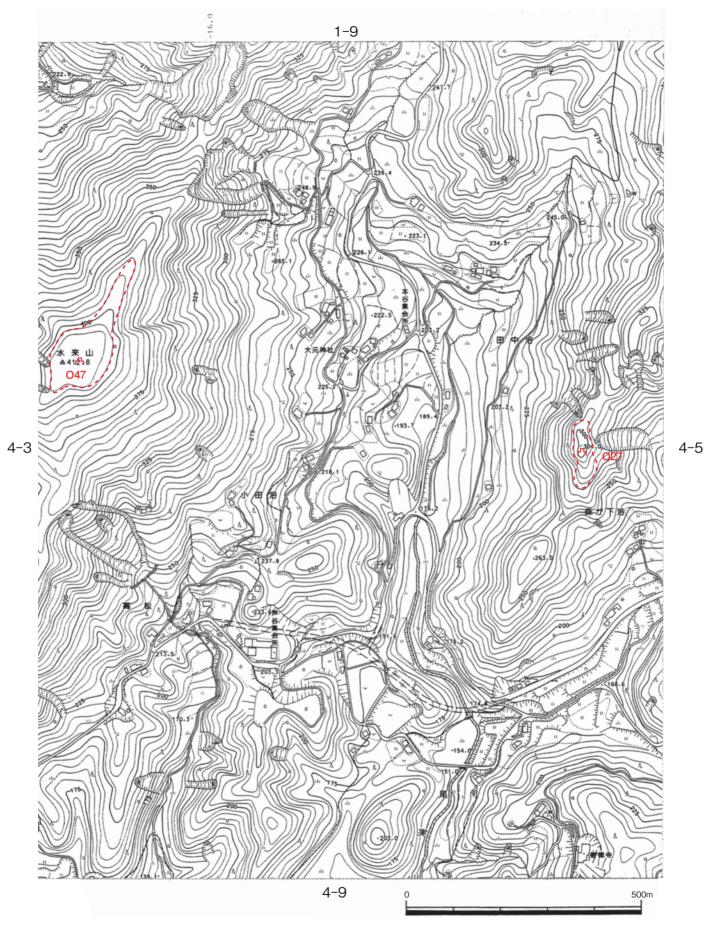
 O84 山陰道
 O87 海石遺跡
 O88 洞明寺古墓群

 市天9 佐々木桜
 O87 海石遺跡
 O87 高石遺跡

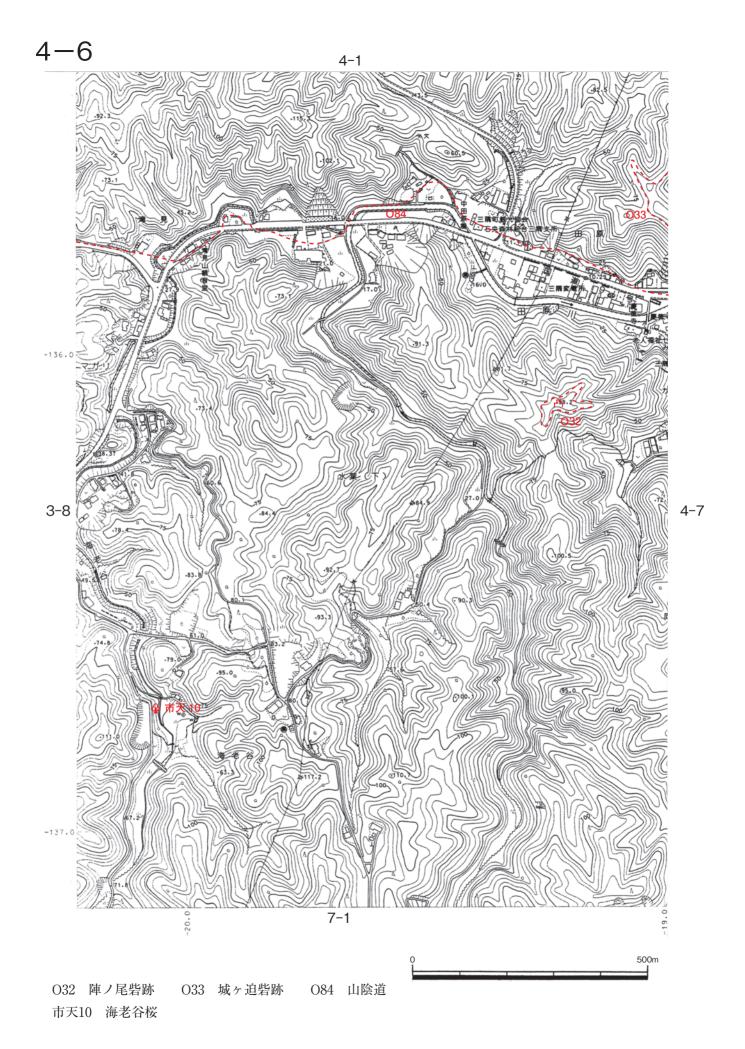
-24-



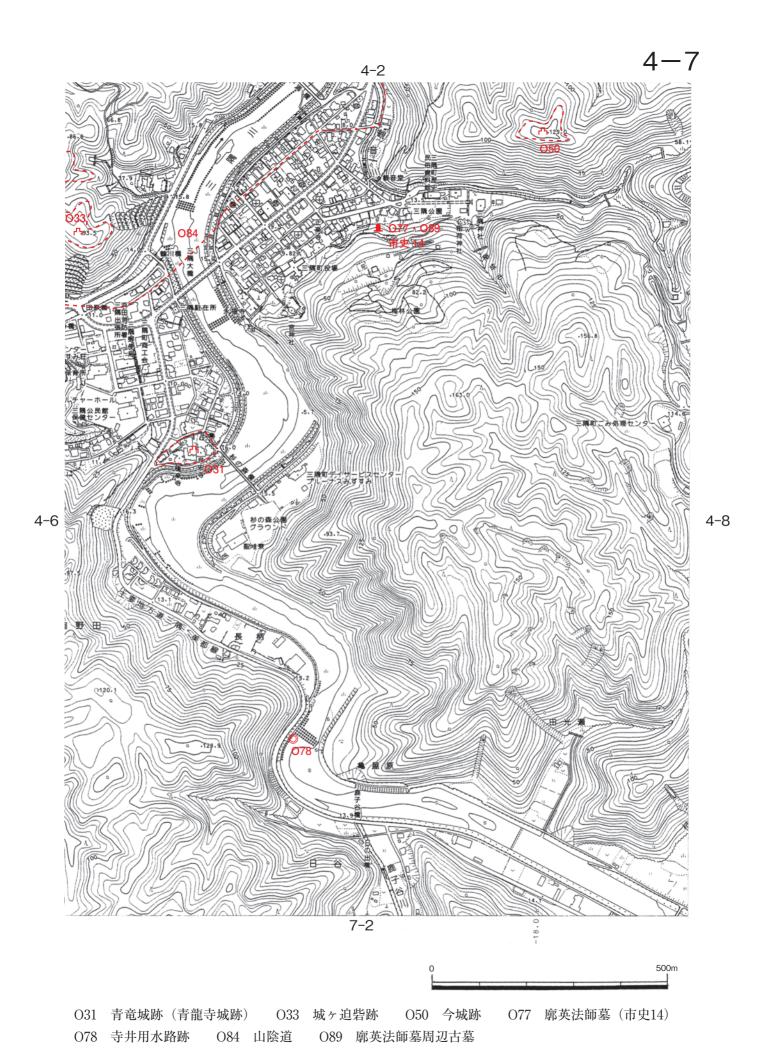
O80 三本松城跡



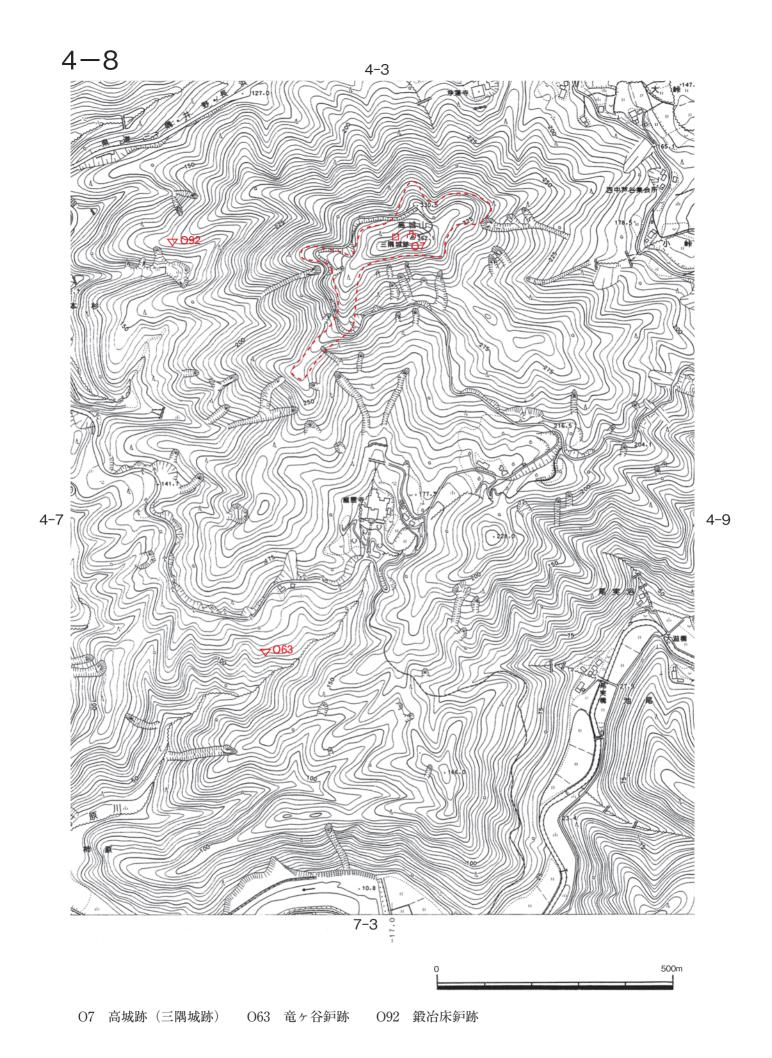
O27 芦谷城跡 O47 水来城跡(西山城跡)



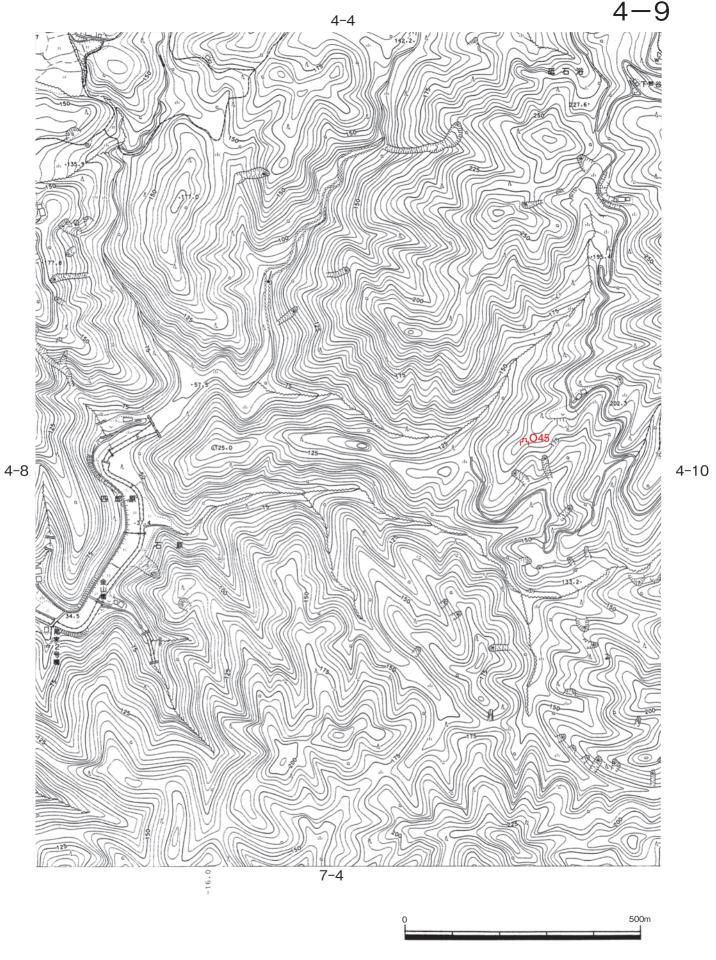
-27 -



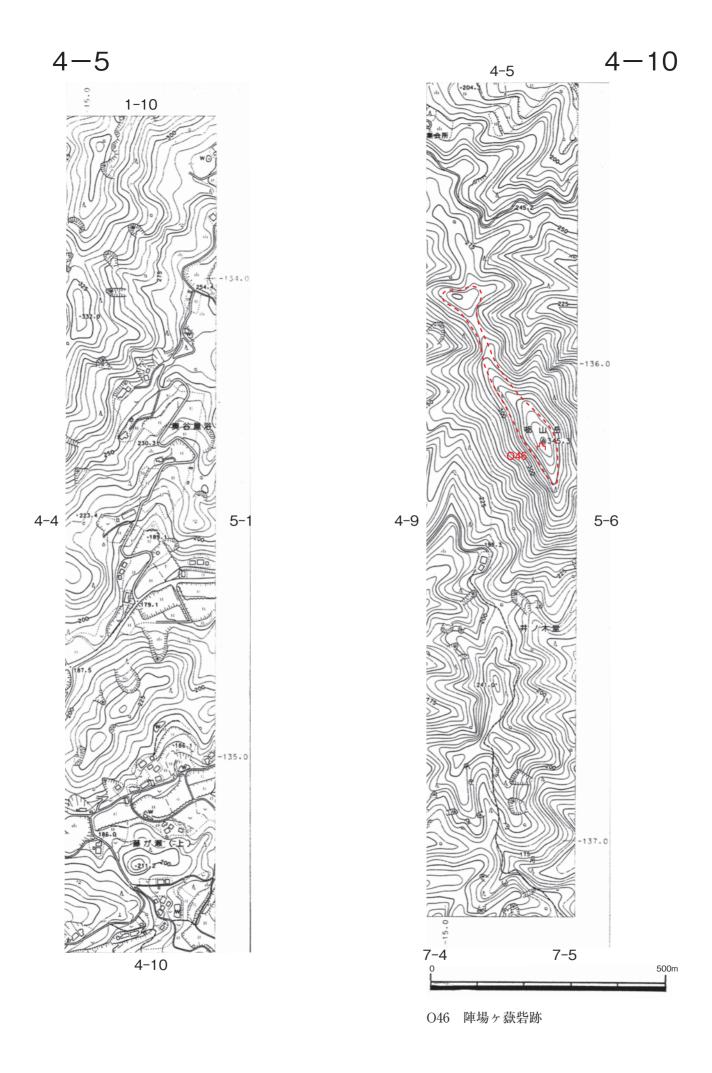
-28 -

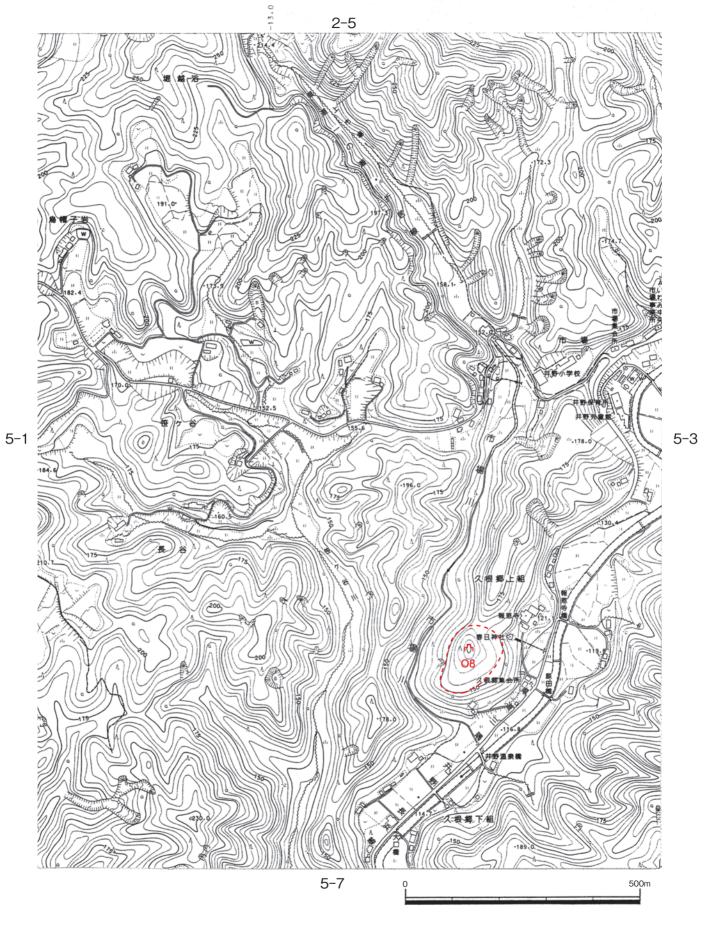


-29-

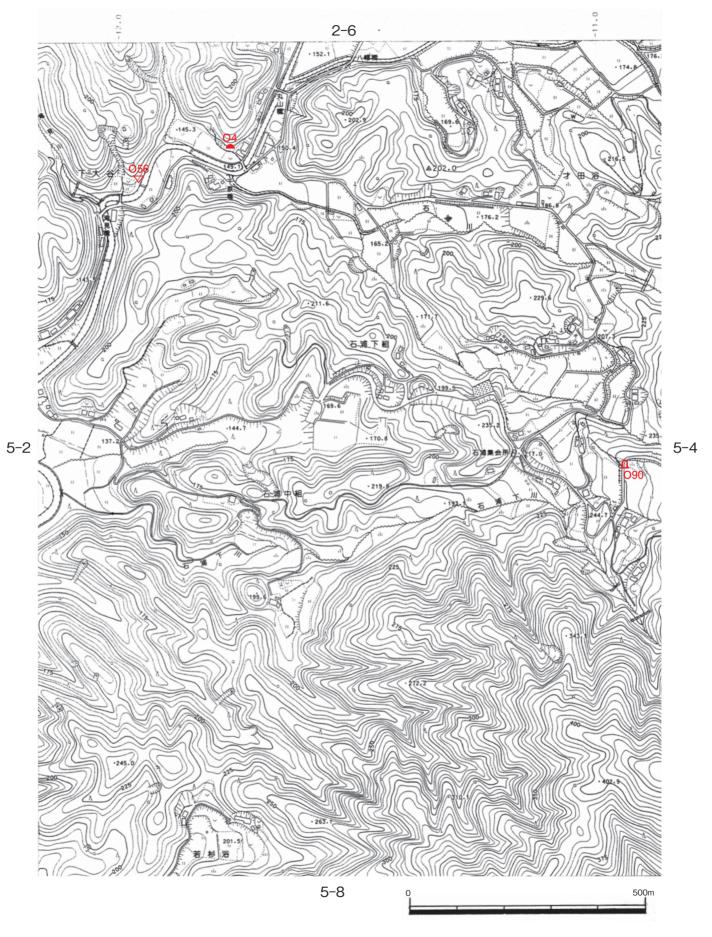


O45 草井城跡

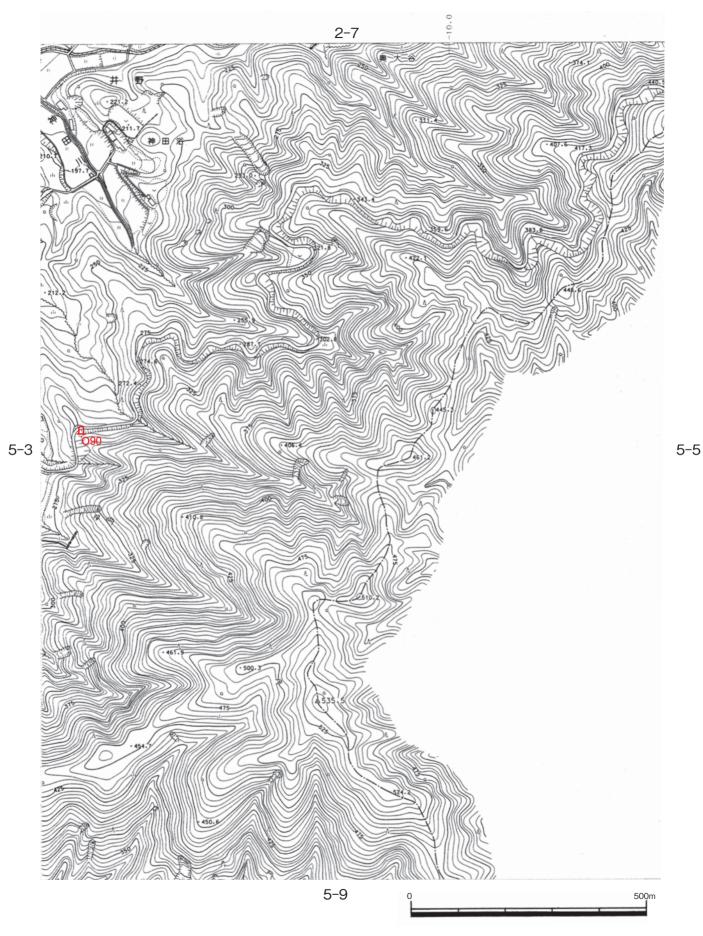




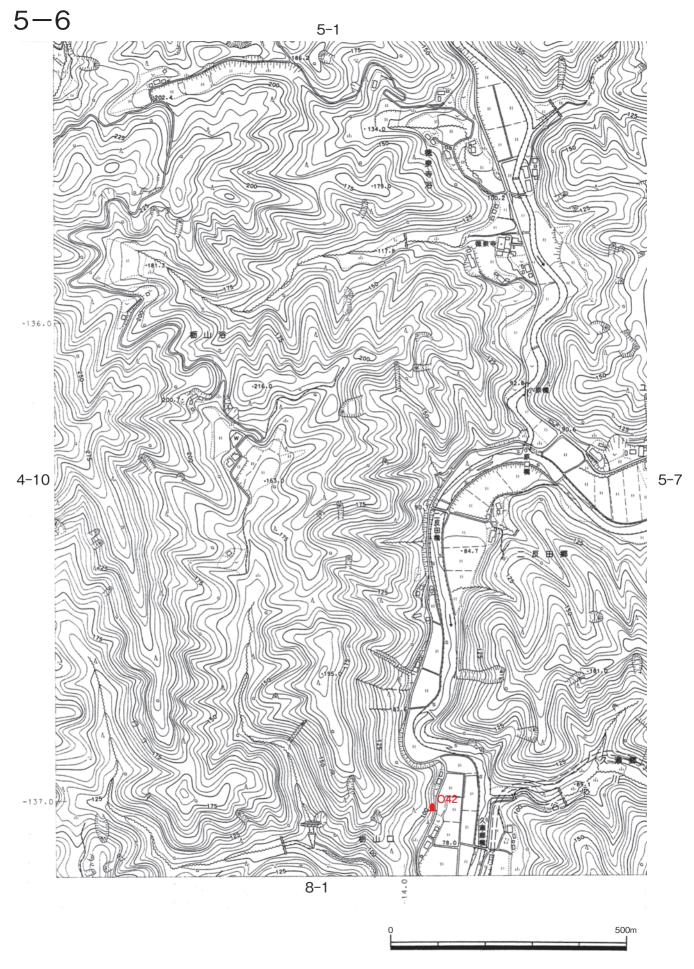
O8 井野城跡(井村城跡)



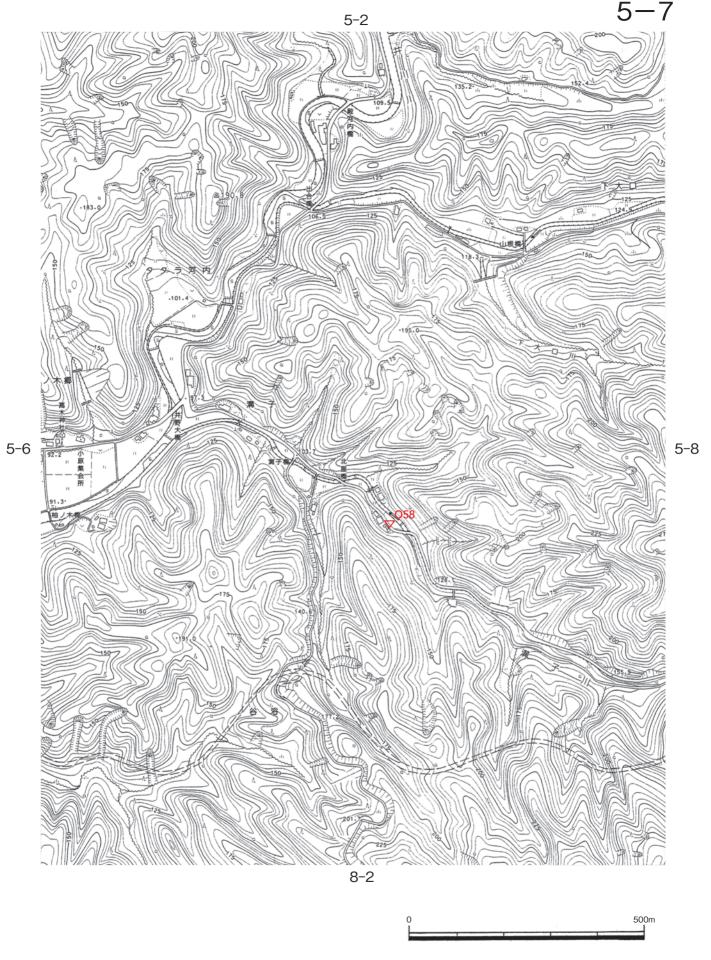
O4 大谷古墳 O56 石佛鈩跡 O90 茶屋ヶ垰古墓群・五代上古墓



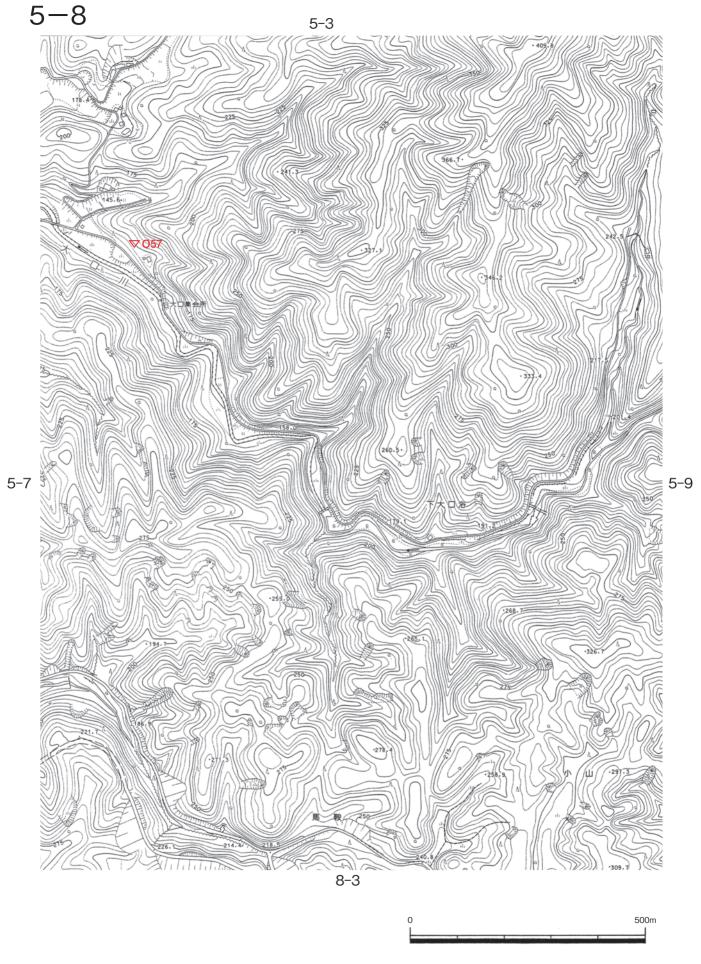
O90 茶屋ヶ垰古墓群・五代上古墓



O42 久瀬遺跡



O58 溝子鈩跡

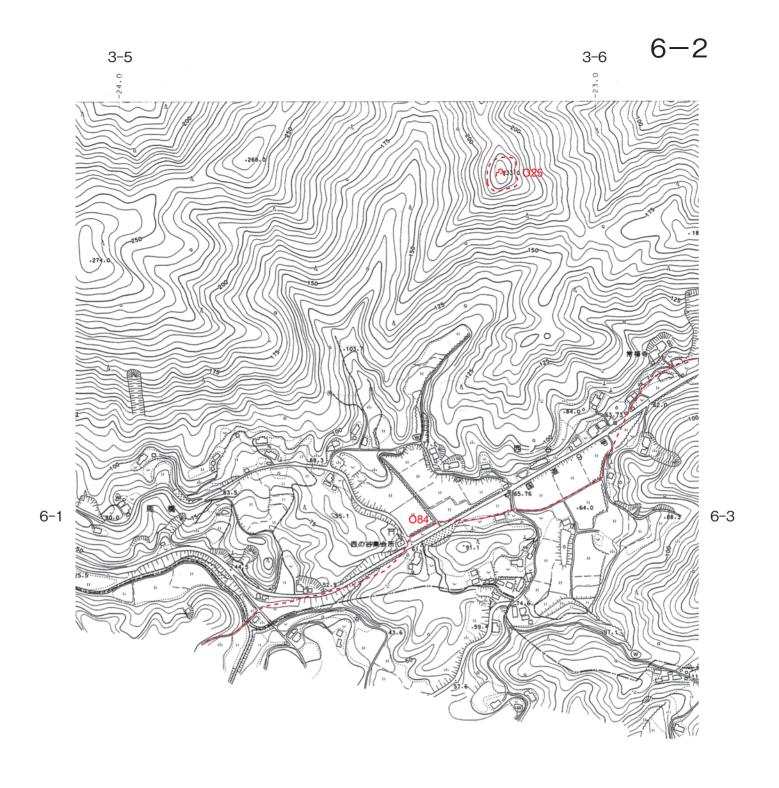


O57 大口鈩跡



O41 鷹泊城跡

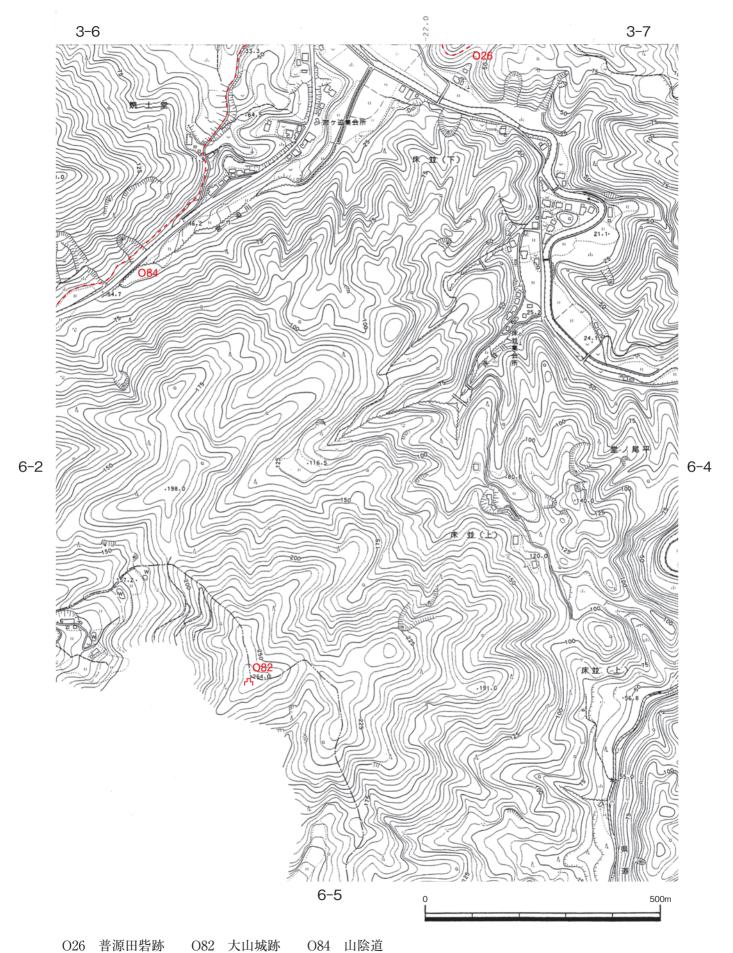


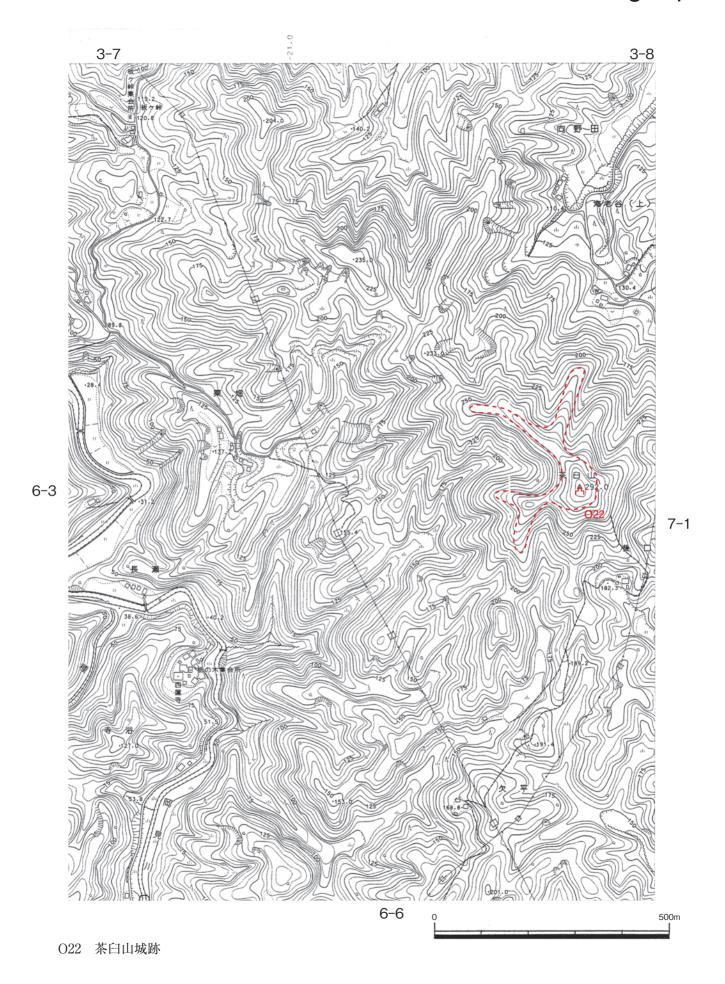


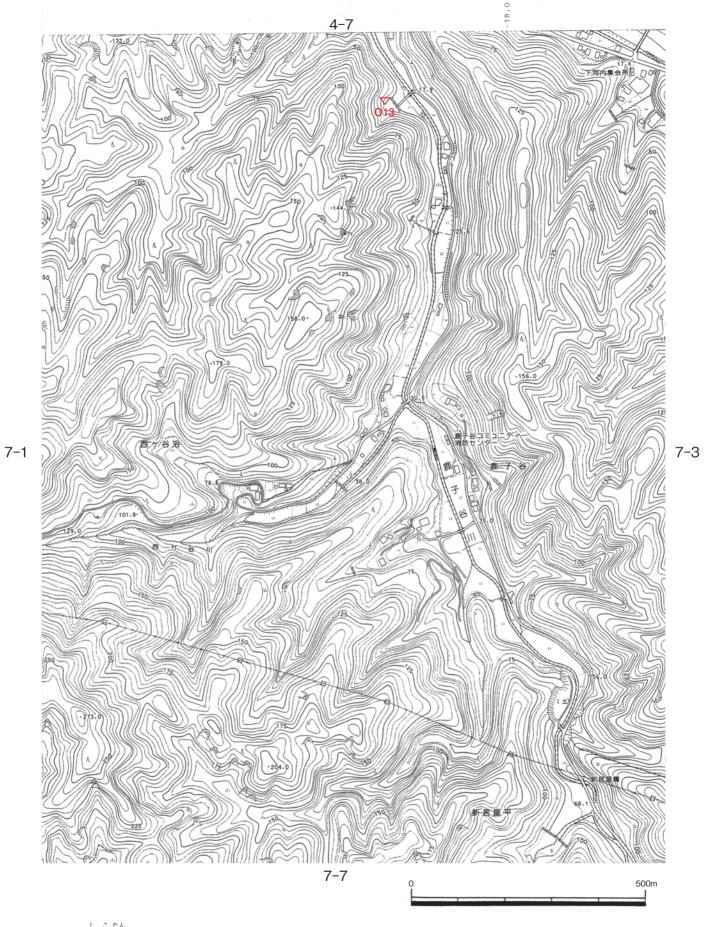


O25 碇石城跡 O84 山陰道

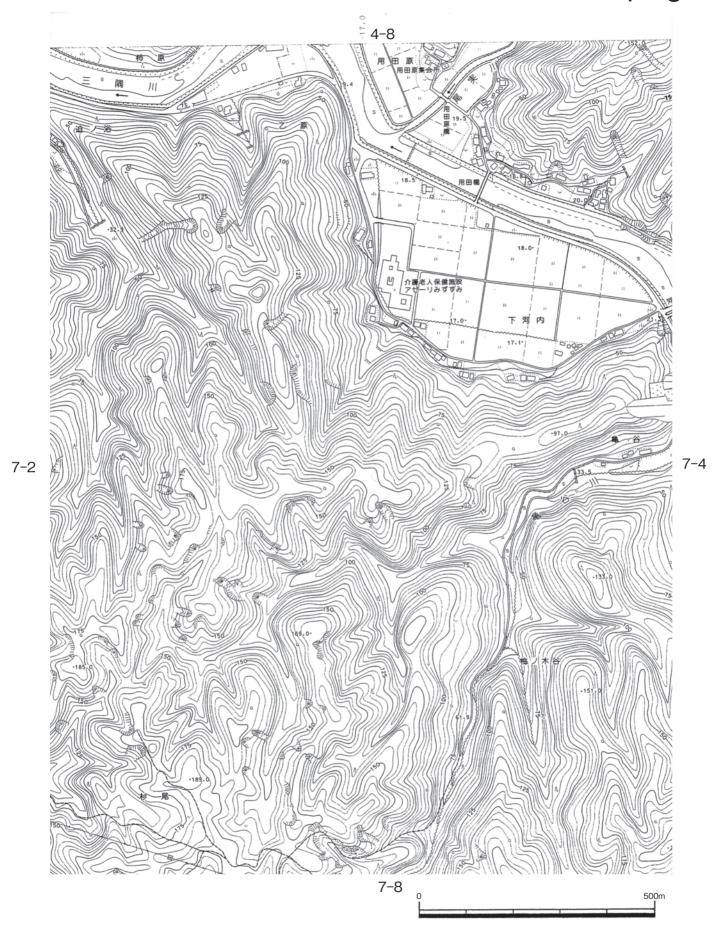




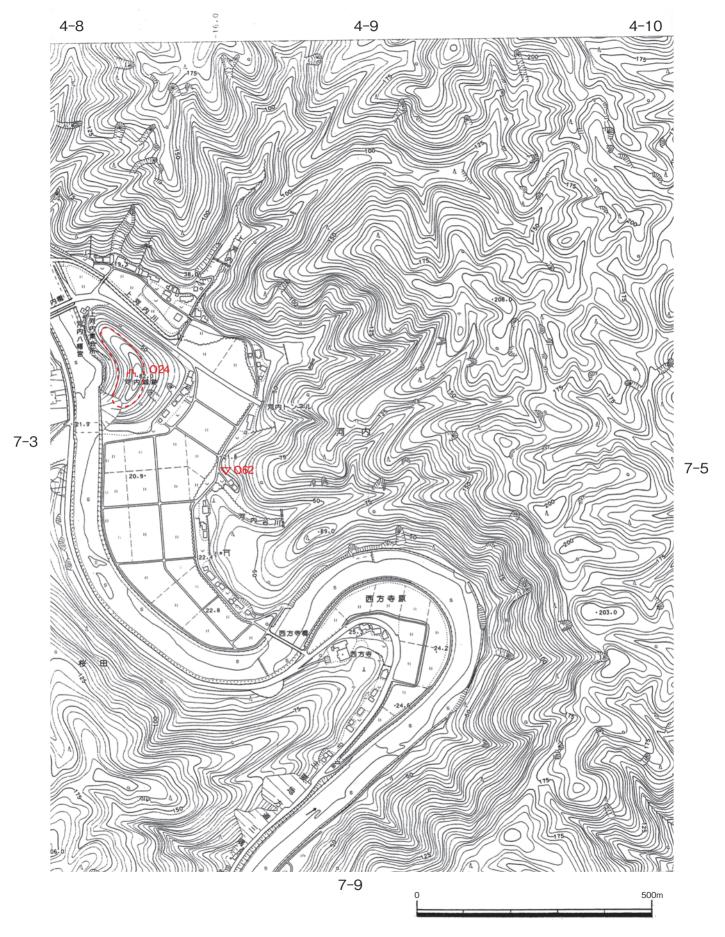




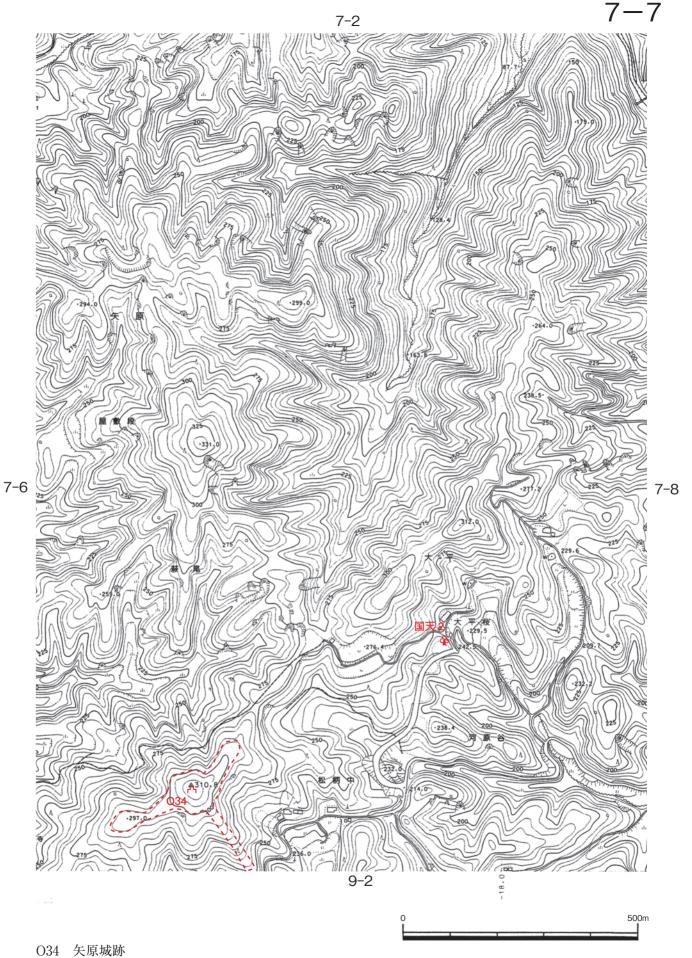
O13 鹿子谷鈩跡



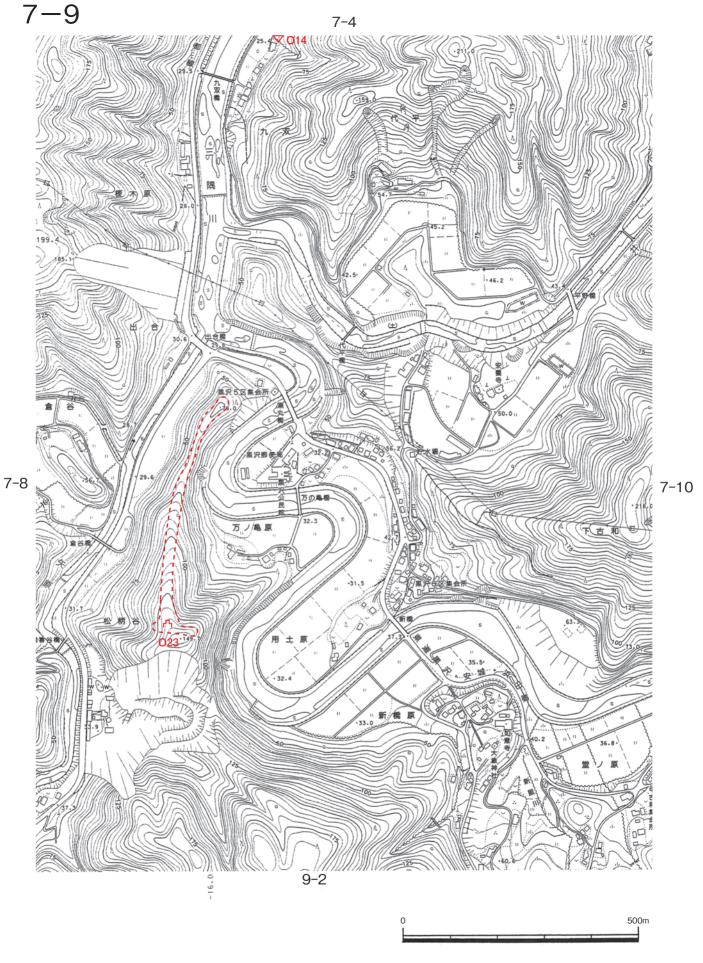




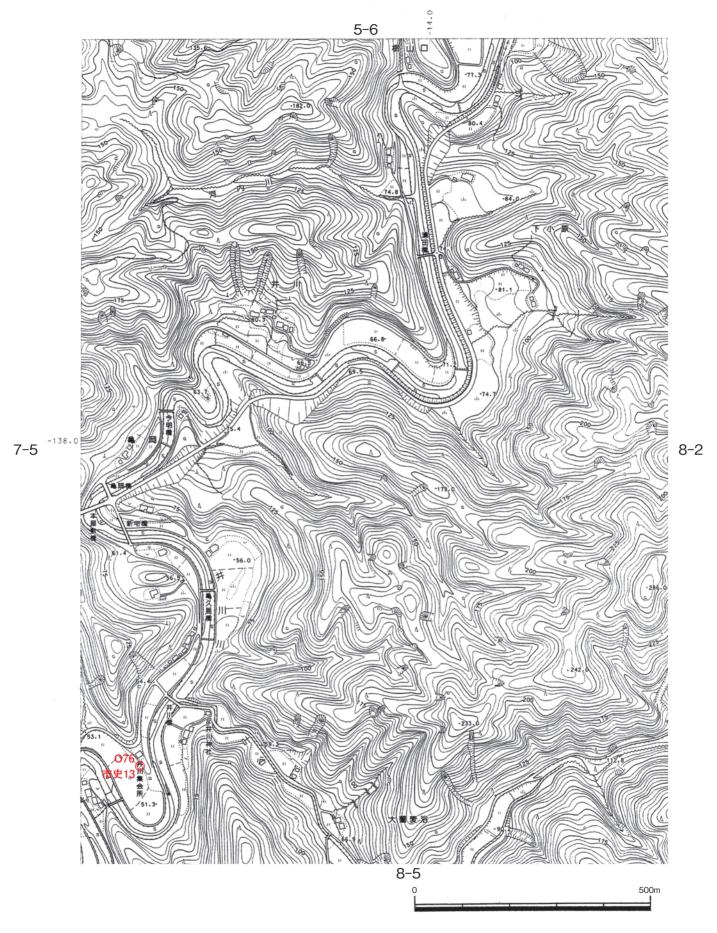
O24 河内城跡 O62 井手山鈩跡



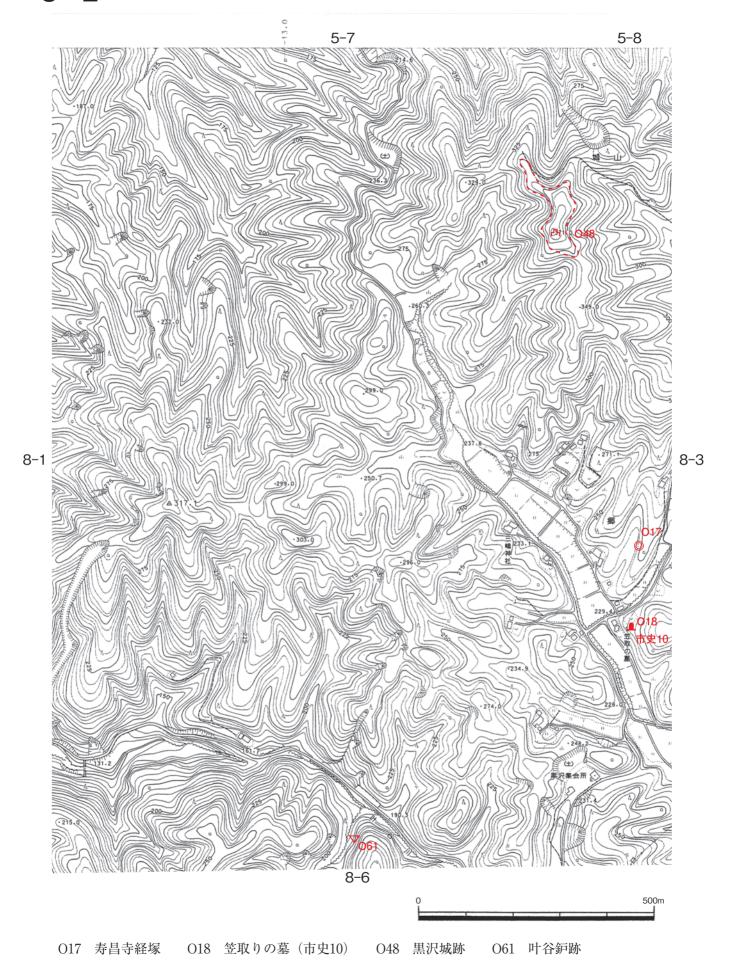
O34 矢原城跡 国天2 三隅大平桜



O14 九艘原鈩跡 O23 下古和城跡 (万の亀城跡)

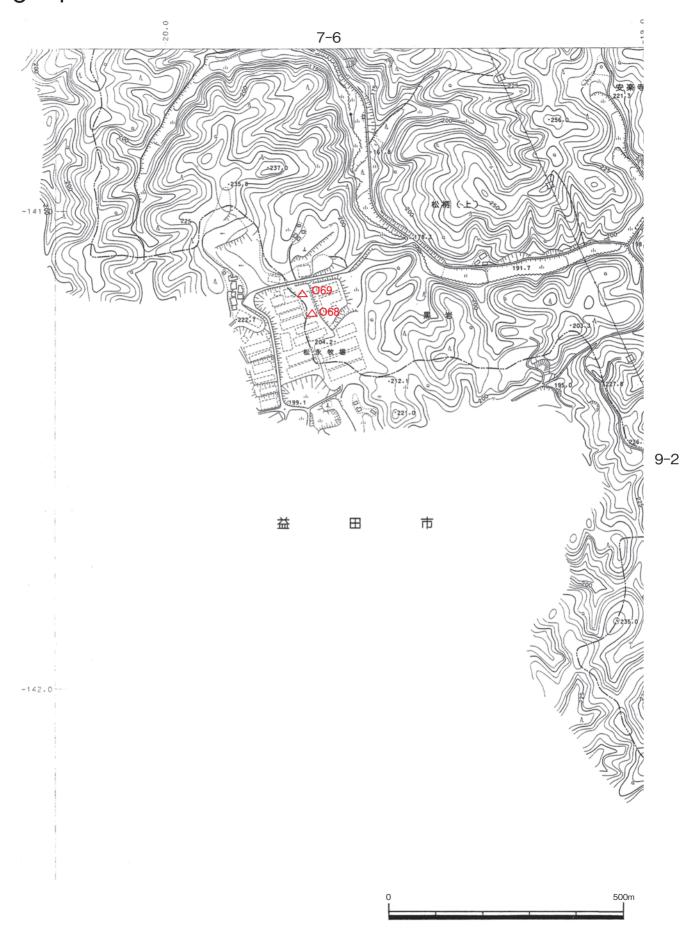


O76 寺尾用水隧道(市史13)

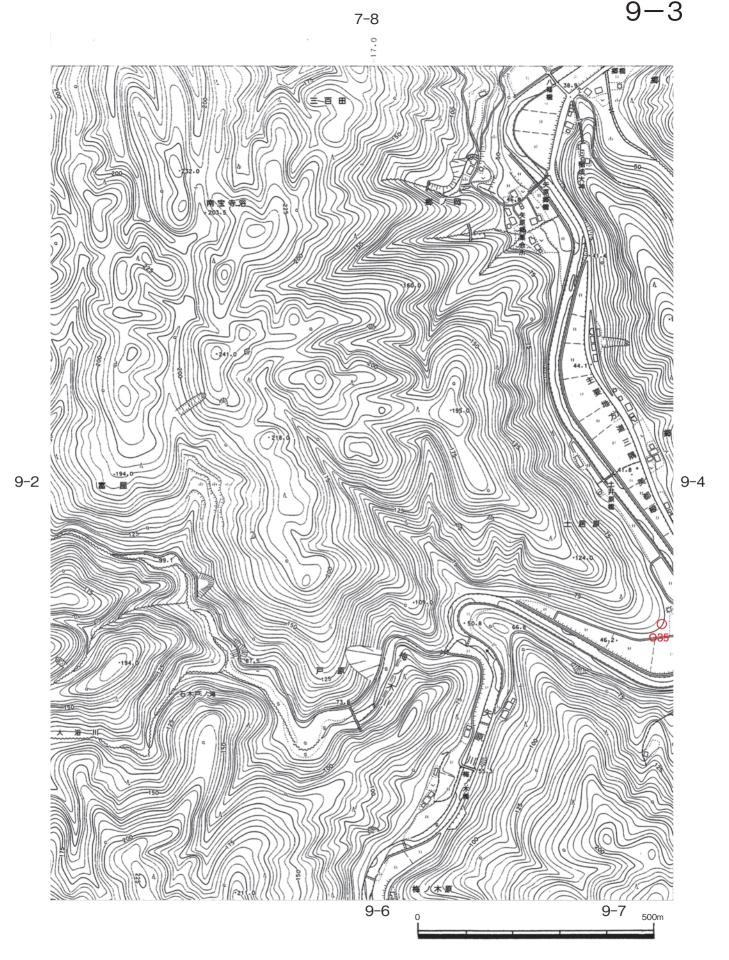




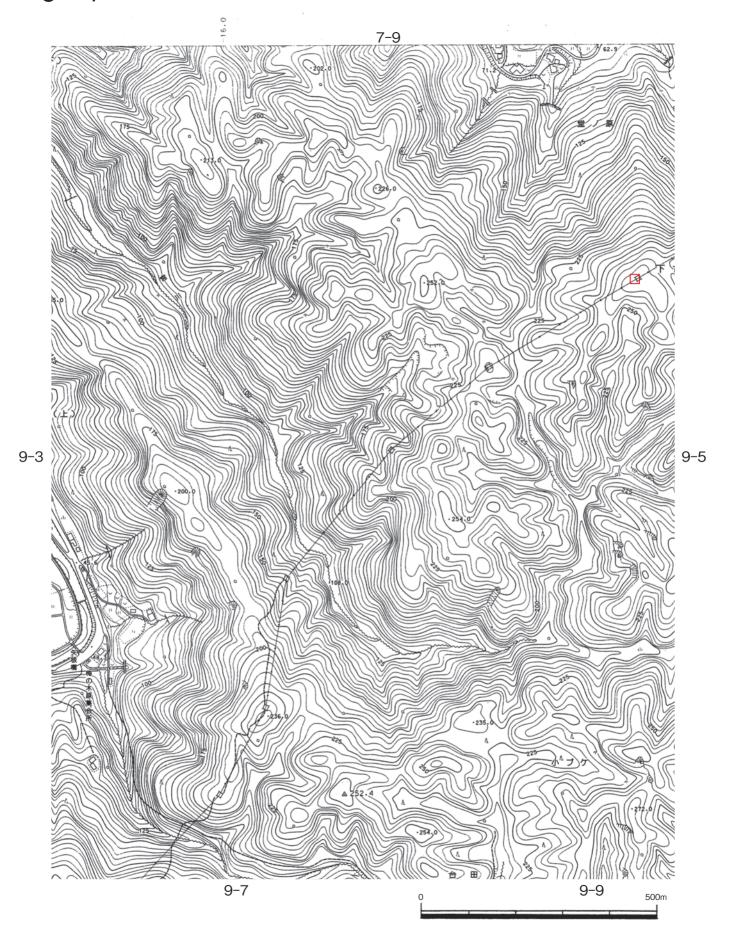
O49 白狐城跡

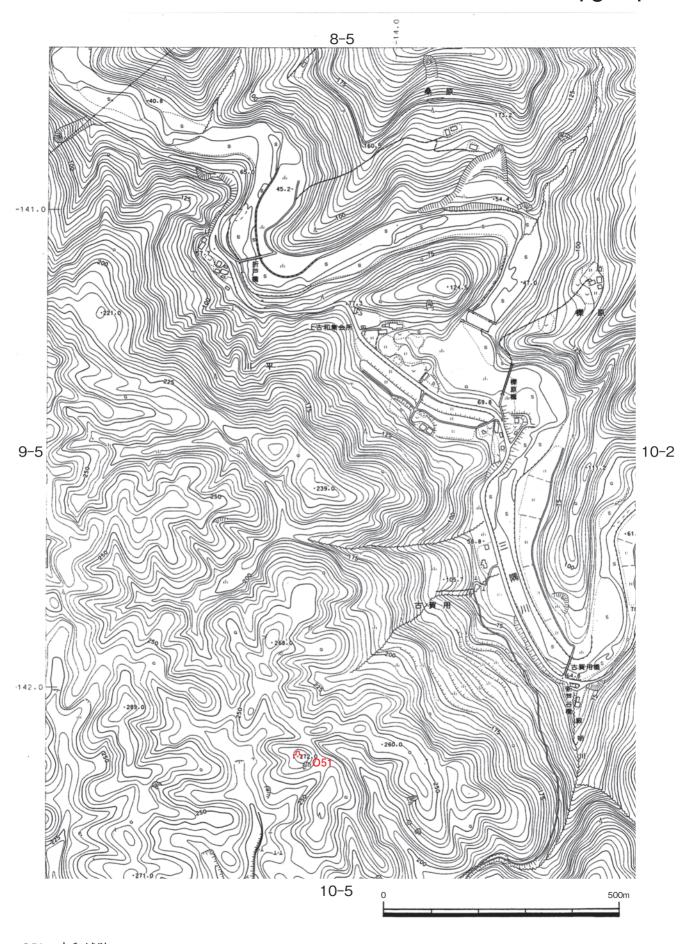


O68 亀山字三郎窯跡 O69 三浦兼治窯跡

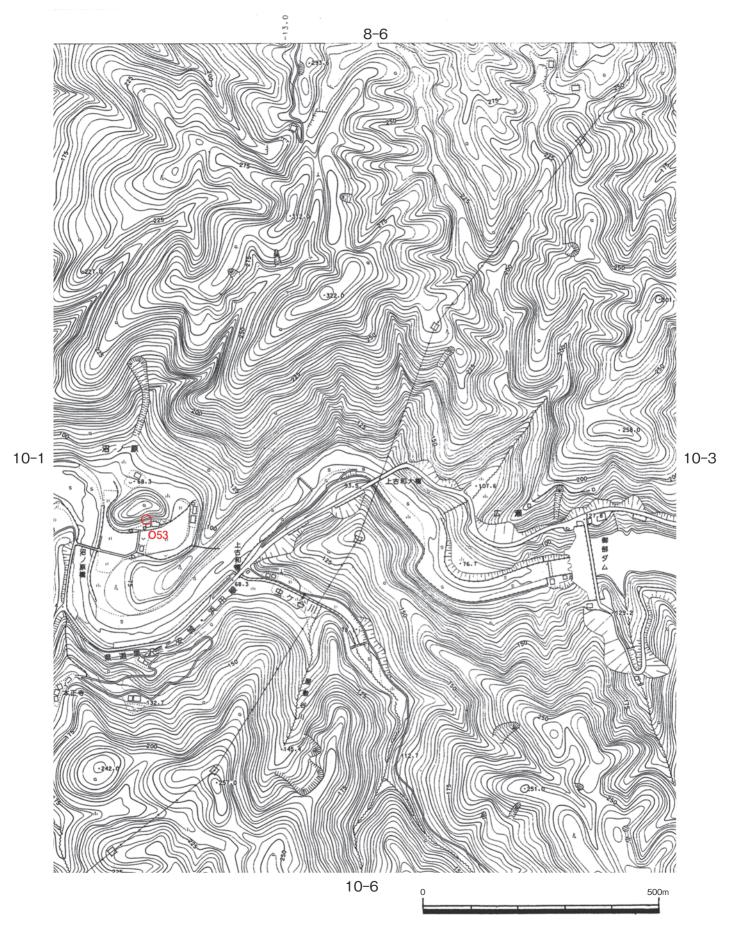


O35 矢原遺跡





O51 古和城跡



O53 上古和沼原遺跡

三隅 O

二阀	0					
番号	名称	種別	所在地	概要	備考	地図番号
	小野古墳	古墳	三隅 小野	横穴式石室	消滅	4-2
	高田横穴群	横穴			1110%	4-1
			湊浦 高田	須恵器・大刀等	NA P	
	鉢の木古墳	古墳	西河内		消滅	1-6
4	大谷古墳	古墳	井野 大谷	円墳、横穴式石室		5-3
5	大麻山尊勝寺坊中跡	寺院跡	室谷	経塔、銅瓦		2-1
6	安隠寺跡	寺院跡	古市場	礎石、墓石		4-1
7	高城跡	城跡	三隅	山城、本丸、石垣	三隅城跡	4-8
	井野城跡	城跡	井野 殿河内	山城、本丸	井村城跡	5-2
	三隅石塁	その他	湊浦	H941 7774	71.11 <i>49</i> 4191.	3-3
					1.抽 体口/1 故地址	3-3
	針藻城跡	城跡	古市場 古湊		七櫓・鐘尾針藻城跡	
	伝三隅兼連墓	古墓	三隅 小野	五輪塔		4-2
12	大多和外城跡	城跡	岡見 青浦	砦跡、石垣		3-5
13	鹿子谷鈩跡	製鉄遺跡	河内 鹿子谷	鉄滓		7-2
14	九艘原鈩跡	製鉄遺跡	黒沢	鉄滓		7-9
15	大谷遺跡	散布地	井野 大谷	弥生土器、土師器、須恵器、砥石		2-6
_	青浦古墳	古墳	岡見 青浦	横穴式石室		3-4
	寿昌寺経塚	-		(サババイ主)		8-2
		経塚			I. He de	
_	笠取りの墓	古墓	黒沢 郷	五輪塔	市指定	8-2
19	伝三隅悪五郎墓	古墓	三隅 小野	五輪塔		4-2
20	土 麻山送山石		市亚區 党公	T.T.19世	士化公	1-8 · 1-9 ·
20	大麻山道中石	道標	東平原 室谷	丁石12基	市指定	1-5 · 2-1
21	築地平かんな流し跡	製鉄遺跡	井野 上今明			2-4
-	茶臼山城跡	城跡	岡見 栗畑	山城		6-4
	下古和城跡	城跡	下古和	山城	万の亀城跡	7-9
					刀叼电规助	
-	河内城跡	城跡	河内	山城、本丸		7-4
-	碇石城跡	城跡	岡見	山城	王山城跡	6-2
26	普源田砦跡	城跡	岡見 宮ヶ迫	砦		3-7 · 6-3
27	芦谷城跡	城跡	芦谷	山城		4-4
28	梅之城跡	城跡	三隅		野露山城跡	4-2
	石田城跡	城跡	三隅			4-2
	鐘尾城跡	城跡	三隅		鐘ノ尾砦跡	4-2
					理/ 尼石跡	
	青竜城跡	城跡	向野田			4-7
	陣ノ尾砦跡	城跡	向野田			4-6
33	城ヶ迫砦跡	城跡	向野田			4-6 · 4-7
34	矢原城跡	城跡	矢原	山城	徳屋城跡	7-7
35	矢原遺跡	散布地	矢原 岩ヶ原	須恵器		9-3
	古市城跡	城跡	古市場 上古市	, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,		4-1
	八ノ木砦跡	城跡	西河内 八ノ木			1-6 · 1-7
	風呂ノ木砦跡	城跡	西河内 八曽			4-1
	中山鈩跡	製鉄遺跡	岡見		消滅	3-6
40	猪股城跡	城跡	井野 大谷			5-5
41	鷹泊城跡	城跡	井野 石浦	山城	P36と同じ	5-9
42	久瀬遺跡	古墓	井野	壺・古銭・五輪塔・宝篋印塔		5-6
	鳥屋尾城跡	城跡	井野 上今朝	山城、土居		2-2 · 2-5
	杖立城跡	城跡	室谷	D/A) 1/4		1-5
		城跡				
	草井城跡		芦谷			4-9
	陣場ヶ獄砦跡	城跡	芦谷			4-10
	水来城跡	城跡	芦谷	山城	西山城跡	4-4
48	黒沢城跡	城跡	黒沢			8-2
49	白狐城跡	城跡	黒沢 的野	郭	P37と同じ	8-4
_	今城跡	城跡	三隅			4-7
	古和城跡	城跡	上古和			10-1
				11144	1 010 と 目 1*	
	折居城跡	城跡 #/	東平原	山城	L218と同じ	1-3
	上古和沼原遺跡	散布地	上古和	土師器片		10-2
	岳城跡	城跡	東平原			1-9
55	周布地鈩跡	製鉄遺跡	井野 周布地	鉄滓		2-6
56	石佛鈩跡	製鉄遺跡	井野 大谷	鉄滓		5-3
	大口鈩跡	製鉄遺跡	井野 大口			5-8
	溝子鈩跡	製鉄遺跡	井野 小原	鉄滓		5-7
		1		3/(I+		2-1
	室谷鈩跡	製鉄遺跡	室谷 室谷			
-	平原鈩跡	製鉄遺跡	折居 平原			1-8
	叶谷鈩跡	製鉄遺跡	黒沢 叶谷			8-2
62	井手山鈩跡	製鉄遺跡	河内 上河内			7-4
63	竜ヶ谷鈩跡	製鉄遺跡	三隅	鉄滓		4-8
	次郎丸砦跡	城跡	岡見			3-6
		1.24-24	1	I	<u>I</u>	1

番号	名称	種別	所在地	概要	備考	地図番号
65	郷遺跡	散布地	岡見	須恵器		3-7
66	岡見中学校脇遺跡	散布地	岡見	土師器		3-6
67	森井窯跡	窯跡	岡見 中山西	丸物	消滅	3-6
68	亀山宇三郎窯跡	窯跡	矢原 松永牧場内	丸物	消滅	9-1
69	三浦兼治窯跡	窯跡	矢原 松永牧場内	丸物	消滅	9-1
70	山岡窯跡	窯跡	岡見 中山	瓦		3-6
71	斉藤窯跡	窯跡	岡見 中山	瓦		3-6
72	角浦石見焼窯跡	窯跡	西河内	石見焼瓦片、丸物		1-6
73	松原遺跡	集落跡	松原	須恵器		3-2
74	正法寺奥の院	その他	三隅 小野	2つの石室があり、伊勢神宮の内 宮・外宮が各々祭ってある	市指定	4-2
75	成田郷三角田記念碑	石碑	三隅 岡崎	境界石	市指定	4-1
76	寺尾用水隧道	その他	井川	1760(宝暦10)年	市指定	8-1
77	廓英法師墓	古墓	三隅	1781 (天明1) 年没	市指定	4-7
78	寺井用水路跡	その他	河内	17世紀後半		4-7
79	王城跡	城跡	井野	郭	猪股城跡、P35と同じ	5-5
80	三本松城跡	城跡	芦谷	郭、腰郭	水来城跡	4-3
81	小金町城跡	城跡	古市場	郭、带郭、腰郭		3-3
82	大山城跡	城跡	岡見	山城	Q62と同じ	6-3
83	苅立横穴	横穴	三隅	須恵器・大刀・玉類・人骨等	消滅	4-2
84	山陰道	街道跡		近世街道跡		
85	馬の太郎遺跡	集落跡	折居		消滅	1-3
86	北ヶ迫遺跡	生産遺跡	三隅	炭窯	消滅	1-7
87	海石遺跡	墓地	三隅			4-2
88	洞明寺古墓群	古墓	三隅 岡崎	宝篋印塔		4-2
89	廓英法師墓周辺古墓	古墓	三隅	一石宝篋印塔		4-7
90	茶屋ヶ垰古墓群・五代 上古墓	古墓	井野	宝篋印塔・墓碑・銭貨・人骨等	消滅	5-3 · 5-4
91	極楽寺横古墓	古墓	湊浦	宝篋印塔		3-3
92	鍛冶床鈩跡	製鉄遺跡	三隅	鉄滓		4-8
93	尊勝寺庫裏跡	寺院跡	室谷	O5より移転、天保15 (1844) ~ 明治5 (1872) 年、礎石	O5から移転、一部発掘調 査	2-1
94	室谷古墓	古墓	室谷	五輪塔・宝篋印塔		2-4
95	たかのだん遺跡		岡見		消滅	3-7

主要参考文献

川原和人1970『石西の須恵器』

三隅町1971『三隅町誌』

八雲立つ風土記の丘資料館1978『古代の石見』

藤岡大拙他編1980『日本城郭大系』第14巻 鳥取・ 島根・山口 新人物往来社

山陰中央新報社1981『島根県大百科事典』上巻・下 巻

- 三隅町教育委員会1982『ふるさとの文化財』
- 三隅町教育委員会1983『中山たたら遺跡 緊急発掘調 香報告』

田中義昭1983「石西地方における横穴墓の形態と時期」『山陰文化研究紀要』23 島根大学

三隅町文化財愛護会1984『三隅町の人物誌』

廣田八穂1985『西石見の豪族と山城』

島根県教育委員会1986『島根県生産遺跡分布調査報告書』

島根県教育委員会1987『島根県製鉄遺跡分布調査報告書』

島根県那賀郡三隅町教育委員会1989『茶屋ヶ垰古墓 群・五代上古墓』

寺井毅1991「石見福屋氏の桜尾城・松山城・波佐ー 本松城跡の畝状竪堀群についての考察」『島根考古学会 誌』第8集 島根考古学会

松井豊治1993『三隅の歴史』

島根県三隅町教育委員会1993『三隅町の文化財―有 形文化財調査概要報告書―』

平凡社 1995『日本歴史地名大系33 島根県の地名』 間野大丞1996「三隅町の中世石造物」『八雲立つ風土 記の丘No140』島根県立八雲立つ風土記の丘

島根県教育委員会1997『島根県中近世城館分布調査 報告書<第1集>石見の城館跡』

島根県教育委員会1997『歴史の道調査報告書 山陰 道Ⅲ』島根県歴史の道調査報告書第五集

三隅町役場1997『みすみの彩り<三隅歳時記>』

今岡 稔1999「山陰の石塔二三について」『島根考古 学会誌』第16集 島根考古学会

斎藤俊也 2000「遺跡が語る古代の石見(71) 三隅の横穴墓」『山陰中央新報』 2000年 3 月 7 日山陰中央新報社

今岡利江2001「山陰の日引石製品についての一考察」 『来待石を中心とした日本海文化』石造物研究会・来待 ストーン客員研究員会

島根県教育委員会2002『島根県遺跡地図Ⅱ(石見編)』 島根県古代文化センター2005『価谷炉跡発掘調査報 告書』

樹林舎2006『定本 島根県の歴史街道』 樹林舎2006『島根県歴史街道地図』 郷土出版社2009『石見ふるさと大百科』

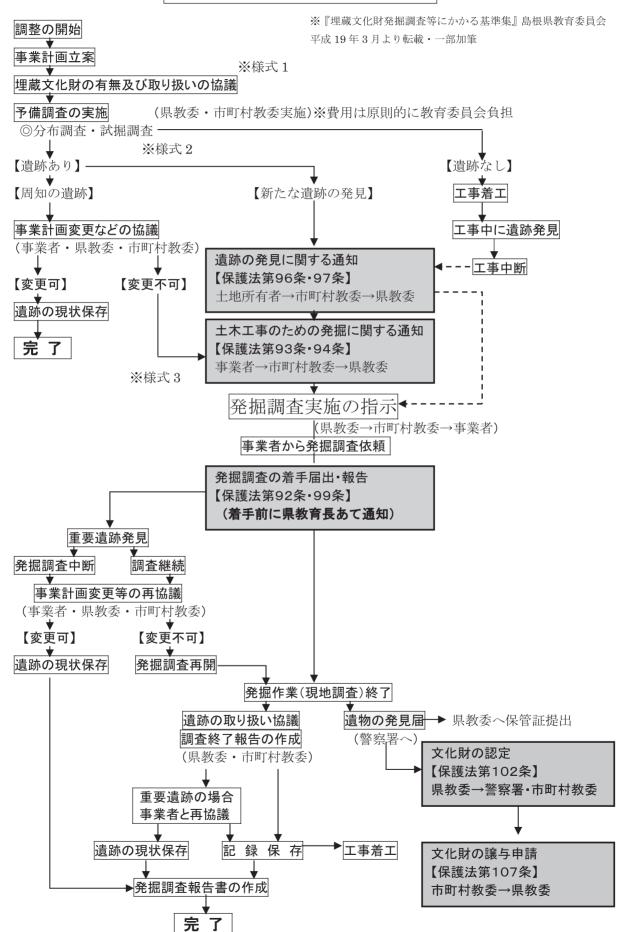
浜田市内指定文化財一覧(地図番号は浜田・金城・三隅自治区)

地図	遺跡	T	一覧(地図番号は			3C-4-1h	正去老 但社会
番号	番号	番号	区分	指定年月日	名 称	所在地	所有者・保持者
【国指定文	文化財】		Imeria	1	I consider the constant	Liabana	Lymen
		1	彫刻	大 9. 4.15	木造阿弥陀如来立像	松原町	心覚院
		2	工芸技術	昭44. 4.15	石州半紙	三隅町古市場	石州半紙技術者会
国史1	L 6	3	有形民俗文化財 史跡	昭46.12.15 大10. 3. 3	波佐の山村生産用具 石見国分寺跡	金城町波佐 国分町402-4 (道), 1524-1, 1526, 1527, 1527 続1, 1528-1, 1528-2, 1528-4, 1530, 1531,	西中国山地民具を守る会 金蔵寺
H-1- 0	* 40	_	ala HI.	mitat to to	ITT I . Liste	1534-1, 1534-2, 1548-1,	les I
国史2	L49 L13	5 6	史跡	昭11.12.16 昭12. 6.15	周布古墳 下府廃寺塔跡	治和町口1009-1 下府町632-4	個人 浜田市
国天1	LIS	7	天然記念物	昭 7. 3.25	石見畳ヶ浦	国分町1187-1, 1979-1, 1982-1, 1982-2, 1983, 1984, 1985-1, 1985-2, 1986, 1987, 1988, 1989-1, 1989-2, 1989-3, 1989-4, 2207-1, 2207-2, 2208, 2209-1, 2209-2, 2209-3, 2209-4, 2210-1, 2210-2, 2210-3, 2210-4, 210-5, 2210-6, 2210-7, 2210-8, 2210-9, 2210-10, 2210-11, 2210-12, 2210-13	国・市・民
国天2	le sta Ta Ha	8	天然記念物	昭10. 4.11	三隅大平桜	三隅町矢原1262, 2746-1	個人
【島根県打	旨定文化		AA ==	HT 45 500	AA Ja H TE VE W. L. No. L. AE 40		1.00.1.44.41
		9	絵画 彫刻	昭47. 7.28 昭37. 6.12	絵本墨画淡彩大麻山縁起 木造雨宝童子立像	三隅町室谷	大麻山神社 正法寺
		10	彫刻	昭42. 5.30	木造天部像群	三隅町三隅 生湯町	多陀寺
		12	彫刻	昭43. 6. 7	木造薬師如来坐像	三隅町三隅	正法寺
		13	書跡	昭37. 6.12	紙本墨書大般若経	三隅町芦谷	龍雲寺
		14	古文書	平12. 3.28	紙本著色石見国絵図	黒川町 浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		15	考古資料	昭35. 9.30	めんぐろ古墳出土品	治和町	個人
		16	有形民俗文化財	昭47. 7.28	波佐の山村生活用具	金城町波佐	西中国山地民具を守る会
		17	無形民俗文化財	昭37. 6.12	井野神楽	三隅町井野	井野神楽保持者会
		18	無形民俗文化財	昭39. 5.26	有福神楽	下有福町	有福神楽保持者会
		19	無形民俗文化財	昭40. 4. 1	黒沢囃子田	三隅町黒沢	黒沢囃子田保存会
県史1	L7	20	史跡	昭33. 8. 1	石見国分尼寺跡	国分町216, 217, 225-5, 1898-1, 1898-2, 1898-3	国分寺
県史2	L27	21	史跡	昭37. 6.12	浜田城跡	殿町123-1, 123-6, 123-10, 131-1, 131-4	浜田市
県史3	L 5	22	史跡	昭42. 5.30	石見国分寺瓦窯跡	国分町408-1	浜田市
水人 3	LJ	22	文 助	ндч2. <i>5.</i> 50	4元四万寸九羔奶	長浜町276-1	個人
県天1		23	天然記念物	昭41. 5.31	黄長石霞石玄武岩	熱田町1319-1	個人
N/C1		- 20	Carrier 187	рд 11. 0.01	· 风风有数有五数有	内田町625内 1	個人
							八幡宮(波佐常盤山
県天2		24	天然記念物	昭47. 3.31	常盤山の杉	金城町波佐	八幡宮)
		25	天然記念物	昭47. 3.31	長安本郷の八幡宮並木杉	弥栄町長安本郷	八幡宮(長安八幡宮)
【浜田市井	旨定文化	_	1				T
		26	絵画	昭44.11. 3	板絵著色瀬戸ヶ島捕鯨図	瀬戸ヶ島町	厳島神社
		27	絵画	昭48. 5. 1	網本著色石門源義頂相	清水町	洞泉寺
		28	絵画	昭48. 5. 1	網本著色仏涅槃図	周布町	净琳寺
		29	絵画	昭48. 5. 1	「無題」森脇 忠筆油絵麻布	黒川町	浜田高等学校同窓会
		30	絵画	昭48. 5. 1	「無題」小林萬吾筆油絵麻布	野原町 浜田市世界こども美術館	浜田市
		31	絵画	昭56. 3.28	伝空海筆十三佛画幅	三隅町芦谷	龍雲寺
		32	絵画	平14. 2.22	紙本著色仏涅槃図	田町	龍泉寺
		33	絵画	平14. 2.22	船絵馬	瀬戸ヶ島町	厳島神社
		34	彫刻	昭51. 3.25	木造北白川宮能久親王殿下立像	黒川町 浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		35	彫刻	平 7. 3.28	木造阿弥陀如来坐像	三隅町芦谷	龍雲寺
		36	彫刻 エ#ロ	平 7. 3.28	木造阿弥陀如来立像	三隅町湊浦	極楽寺
		37	工芸品	昭44.11. 3	脇差	久代町	石見安達美術館
		38	工芸品	昭44.11. 3	太刀	久代町	石見安達美術館
		39	工芸品工芸品	昭48. 5. 1	太刀 刀 4 口	殿町 久代町	浜田護国神社 万里安達美術館
		40	工芸品工芸品	昭51. 3.25	古和三尊仏	三隅町上古和	石見安達美術館 個人
		41	工芸品	昭56. 3.28 平14. 2.22	和船模型	瀬戸ヶ島町	厳島神社
		42	工芸品	平14. 2.22 平14. 2.22	和船快型	野原町 世界こども美術館	
		43	工芸品	平14. 2.22	如来形懸仏	金城町今福	安楽寺
		45	書跡	昭48. 5. 1	紙本墨書大般若経	大辻町	宝福寺
		46	書跡	昭56. 3.28		三隅町芦谷	龍雲寺
		47	典籍	昭44.11. 3	紙本墨書藤井宗雄著書	治和町	個人
		48	古文書	昭56. 3.28	送り場古文書	三隅町岡見	個人
		49	古文書	昭56. 3.28	二宮神社古文書	三隅町三隅	二宮神社
		50	古文書	平 7. 3.28	諸国御客船帳	外ノ浦町	個人
		51	古文書	平 9. 7.11	石見国藩領絵図	高佐町	個人
		52	古文書	平 9. 7.11	浜田城下町鳥瞰絵図	高佐町	個人
		53	古文書	平 9. 7.11	浜田城下町方絵図	蛭子町	個人
		54	古文書	平 9. 7.11	自唐鐘浦至長浜浦海岸絵図	外ノ浦町	個人
		55	古文書	平14. 2.22	諸国御客船帳	外ノ浦町	個人
		56	古文書	平14. 2.22	紙本墨書神楽台本	周布町	個人
				<u> </u>			安楽寺
		57	古文書	平20. 7.23	吉川元春・元長連署安堵状	金城町今福	

		58	考古資料	昭58.12.26	金田1号墳出土品	金城町 浜田市金城歴史民俗資料館	浜田市
		59	考古資料	平 7. 3.28	鰐石遺跡出土品	黒川町 浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		60	考古資料	平 7. 3.28	銅造誕生釈迦仏立像	黒川町 浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		61	歴史資料	平 9. 7.11	石見国天保国絵図懸紙改切絵図	黒川町 浜田市浜田郷土資料館	浜田市
		62	歴史資料	平20. 7.23	能海寬関係資料	金城町 浜田市金城歴史民俗資料館	個人
		63	有形民俗文化財 有形民俗文化財	昭48. 5. 1 昭48. 5. 1	獅子頭 獅子頭	片庭町 日脚町	個人 天上岡八幡宮
		04	有形式俗文化的	四40. 3. 1	神丁敦	下有福町	有福神楽保持者会
						上府町	石見神代神楽上府社中
						佐野町	石見神楽佐野神楽社中
						長浜町	石見神楽長浜社中
		65	有形民俗文化財	平14. 2.22	神楽木彫面	日脚町	日脚神代神楽社中
						内村町	個人
						田橋町	石見神楽美川西神楽保存会
						鍋石町	鍋石神楽社中
市史1	L10	66	史跡	昭44.11. 3	片山古墳	下府町1930	個人
						周布町口527, 527内1, 537-1, 537-2, 538, 538内1	個人
市史2	L43	67	史跡	昭44.11. 3	鳶巣城跡	周布町口92続1, 92-3, 528, 529, 531, 532, 533, 536, 536内1, 537内1, 537-3, 537-4, 537-5, 537-6	個人
市史3		68	史跡	昭51. 3.25	東海篠先生之墓	真光町63	観音寺
市史4	L26	69	史跡	昭51. 3.25	日和山方角石	外ノ浦町1489-2	浜田市
市史9	O74	70	史跡	昭56. 3.28	正法寺奥の院	三隅町三隅1722-3	正法寺
市史10	O18	71	史跡	昭56. 3.28	笠取りの墓	三隅町黒沢	個人
市史11	O20	72	史跡	昭56. 3.28	大麻山神社道中石	三隅町東平原、三隅町室谷	個人
市史12	O75	73	史跡	昭56. 3.28	成田郷三角田記念碑	三隅町三隅407-10	浜田市
市史13	O76	74	史跡	昭56. 3.28	寺尾用水隧道	三隅町井川	個人
市史14	O77	75	史跡	昭56. 3.28	廓英法師墓	三隅町三隅	個人
市史15	N5-1	76	史跡	昭58.12.26	金田1号噴	金城町下来原1334-3	個人
市史16	N71	77	史跡	昭58.12.26	笠松峠の石畳路	金城町波佐	個人
市史8	N 8	78	史跡	昭62.12.18	波佐一本松城跡及び関連施設	金城町波佐	個人 大歳神社
市史5	L22	79	史跡	平14. 2.22	上条遺跡(城山銅鐸出土地)	上府町ィ2214-5	個人
市天1		80	天然記念物	昭44.11. 3	ビロードシダ及び群生地	河内町	個人
							個人
市天2		81	天然記念物	昭44.11. 3	多陀寺のクスノキ	生湯町1767	多陀寺
市天3		82	天然記念物	昭44.11. 3	多陀寺のヒノキ	生湯町1767	多陀寺
市天4		83	天然記念物	昭48. 5. 1	多陀寺のシイ・タブ林	生湯町1767	多陀寺
市天5		84 85	天然記念物	昭48. 5. 1 昭48. 5. 1	伊甘神社のイチョウ 伊甘神社のムクノキ	下府町935-2	伊甘神社
申入り		60	天然記念物	四40. 3. 1	金城町の巨樹・銘木	下府町935-2	1尹 日 7甲71.
市天7-1					大久佐川のシキミ群生	金城町今福1531	個人
市天7-2					大久佐川のネズミサシ	金城町今福1531	個人
市天7-3					大久佐川のヒヨクシバ	金城町今福406	個人
市天7-4					大久佐川のエノキ	金城町今福415	個人
市天7-5					山藤のクロマツ	金城町今福111	個人
市天7-6					下久佐のシキミ	金城町久佐イ1024-4	個人
市天7-7					大鏡神社のスダジイ及びエノキ巨樹群	金城町久佐イ1277	個人
市天7-8					新開のモッコク	金城町七条イ1035	新開町内会
市天7-9					伊木八幡宮の大フジ	金城町七条口415	伊木八幡宮
市天7-10					伊木八幡宮のイチイガシ	金城町七条口415	伊木八幡宮
市天7-11					上来原大元社のタブなど巨樹群	金城町上来原637-1	個人
市天7-12		86	天然記念物	平 5. 3.31	大谷のヤマガキ	金城町上来原628	個人
市天7-13					焼土峠のアベマキ 光超寺の大イチョウ	金城町上来原大草田 金城町小国ハ239-3	個人 光超寺
市天7-14					不豆喰のヤブツバキ群及びケヤキ巨樹群		個人
市天7-16					ででは、アンバス研及Uサイス巨例研 で訳の大モミ	金城町波佐イ1190	個人・平21.6.15 枯死
市天7-17					永昌寺の大スギ	金城町波佐イ1192-1	のため指定解除 永昌寺
市天7-18					千谷母屋の連理のモミジ	金城町波佐イ1202	個人
市天7-19					長田郷の大エノキ	金城町長田イ25	個人
市天7-20					東谷上の大ガシ	金城町長田イ399- 2	個人
市天7-21					浄蓮寺のハクモクレン	金城町長田イ359-4	個人
市天7-22					若生のケヤキ巨樹群	金城町波佐イ1310	個人
市天7-23					若生の大モミジ	金城町波佐イ1351-2	個人
市天7-24					鍋滝のカツラ	金城町波佐イ1319-41	個人
市天8		87	天然記念物	平 7. 3.28	お葉付き銀杏	三隅町井野ハ782	個人
市天9	-	88	天然記念物	平17. 9.22	佐々木桜	三隅町三隅696-3	個人
市天10	Latte 1	89	天然記念物	平17. 9.22	海老谷桜	三隅町向野田935-4	個人
【登録文化 国登1	上射】	90		平 9. 5. 7	浜田市立第一中学校屋内運動場 (旧歩兵第二十一連隊雨覆練兵場)	黒川町3745	浜田市
	1			1	 		
国登2		91		平 9. 5. 7	島根県立浜田高等学校第二体育館 (旧歩兵第二十一連隊雨覆練兵場)	黒川町3749	島根県

第3章 埋蔵文化財の事務手続きフロー

開発事業に伴う埋蔵文化財の取り扱い



※様式1

艇 田 神

平成 升 \mathbb{H}

浜田市教育委員会教育長 蕉

氏名 住所

=

(担当者)

文化財等の有無及び取扱いについて (協議)

無及び取扱いについて協議します。 このたび下記のとおり開発工事を計画していますので、文化財等の有

また、計画地立ち入りと予備調査(現地確認等)の協力に同意します。

- 開発事業名
- 0 開発計画場所
- ယ 施行面積 (m²)
- 4 開発予定時期
- その他 (回答希望時期など)

បា

添付書類

◎位置図 (1/25,000) · 計画図 (工事図面、地籍図など)

> 平成 件 ※様式 2 Ы

Ш

浜田市教育委員会教育長 蕉

土地所有者 住所

氏名

=

発掘調査承諾書

浜田市が実施する埋蔵文化財調査について、下記のとおり承諾します。

1,調查場所

浜田七

維地

뺍

平成 併 Ш 日~平成 # Ш Ш

2,

調査期間

ω, その他 埋蔵文化財に関する権利を放棄し、浜田市教育委員会に 一任する。

※ 様式 3

第2号様式

第 号

年月日

島根県教育委員会教育長 様

住 所

氏名等

<u>...</u>

埋蔵文化財発掘の[届出・通知]について

周知の埋蔵文化財包蔵地において土木工事等のための発掘を実施したいので、文化財保護法(昭和25年法律第214号)[第93条第1項・第94条第1項]、第184条第1項及び文化財保護法施行令(昭和50年政令第267号)第5条の規定により、下記の事項について、関係書類を添付し、別記のとおり[届出・通知]します。

닯

1. 土木工事等をしようとする土地の所在及び地番

2. 土木工事等をしようとする土地の面積

3. 土木工事等をしようとする土地の所有者の氏名又は名称及び住所

4. 土木工事等をしようとする土地に係る遺跡の種類、員数及び名称並びに現状

5. 当該土木工事等の目的、計画及び方法の概要

6. 当該土木工事等の主体となる者(当該土木工事等が請負契約等によりなされるときは、契約の両当事者)の氏名及び住所(法人その他の団体の場合は、その名称及び代表者の氏名並びに事務所の所在地)

7. 当該土木工事等の施工担当責任者の氏名及び住所

8. 当該土木工事等の着手の予定時期

9. 当該土木工事等の終了の予定時期

10. その他参考となるべき事項

【添付書類】

土木工事等をしようとする土地及びその付近の地図並びに当該土木工事等の概要を示す書類及び図面

別記

93条第1項・94条第1項 (○で囲むこと)

ш
H
争
- 4
無
県文書番号

1.	. 所 在 地	
2.	. 面 積	$ m m^2$
	. 土地所有者	住 所:
		氏名等:
4	. 遺跡の種類	散布地 集落跡 貝塚 官衙跡 城館跡 社寺跡 古墳
		横穴墓 その他の墓 生産遺跡 その他の遺跡(
	遺跡の名称	(県遺跡番号) 員 数
	遺跡の現状	宅地 水田 畑地 山林 道路 荒蕪地 原野 その他(
	遺跡の時代	旧石器 縄文 弥生 古墳 奈良 平安 中世 近世 その他 (
5.	. 工事の目的	道路 鉄道 空港 河川 港湾 ダム 学校建設 集合住宅 個人住宅
		工場 店舗 個人住宅兼工場又は店舗 その他建物 (
		宅地造成 土地区画整理 公園造成 ゴルフ場 観光開発
		ガス・電気・水道等 農業基盤整備事業 (農道等を含む)
		その他の農業関係事業 土砂採取 その他開発(
	工事の概要	
6.	. 工事主体者	住 所:
		氏名等:
7.	. 施行責任者	住 所:
		氏名等:
∞.	. 着手予定時期	年月日 9.終了予定時期 年月日
10.	. 参考事項	

)	
) 柳 (
20	
慎重工事	
工事立会	
発掘調査	
闽	
#	
勲	
菰	

[注意事項] ①太線内は届出・通知者が記入。②指導事項欄は県教育委員会で記入。

③遺跡の種類・現状・時代及び工事の目的欄は該当項目を○で囲み、該当項目のない場合は()内に記入。

第4章 三隅自治区の埋蔵文化財について

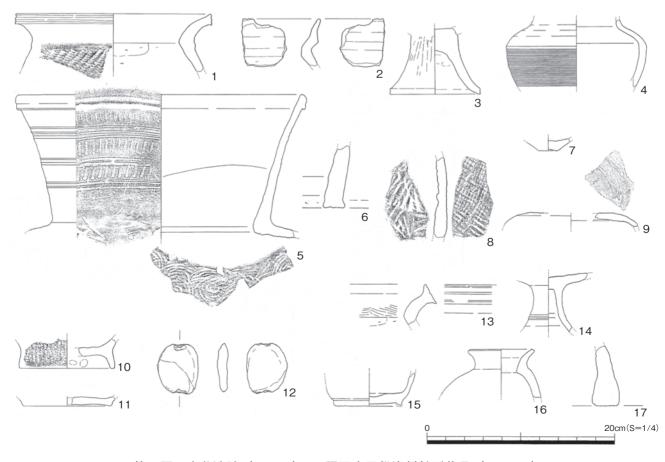
三隅自治区(市町村合併以前の那賀郡三隅町)では、三隅町誌や文化財関連書籍で一部の埋蔵文化財の写真等が掲載されるのみであった。今回の遺跡地図作成に伴う分布調査結果と1988(昭和63)年頃の島根県埋蔵文化財包蔵地調査カードを基に、主な埋蔵文化財の概要を時代順に紹介する。なお図面は掲載していないが、大麻山神社社務所横の駐車場整備に伴う調査で1844(天保15)~1872(明治5)年の尊勝寺庫裏の礎石が確認されている。

O15 大谷遺跡·三隅歷史民俗資料館所蔵品(第1図)

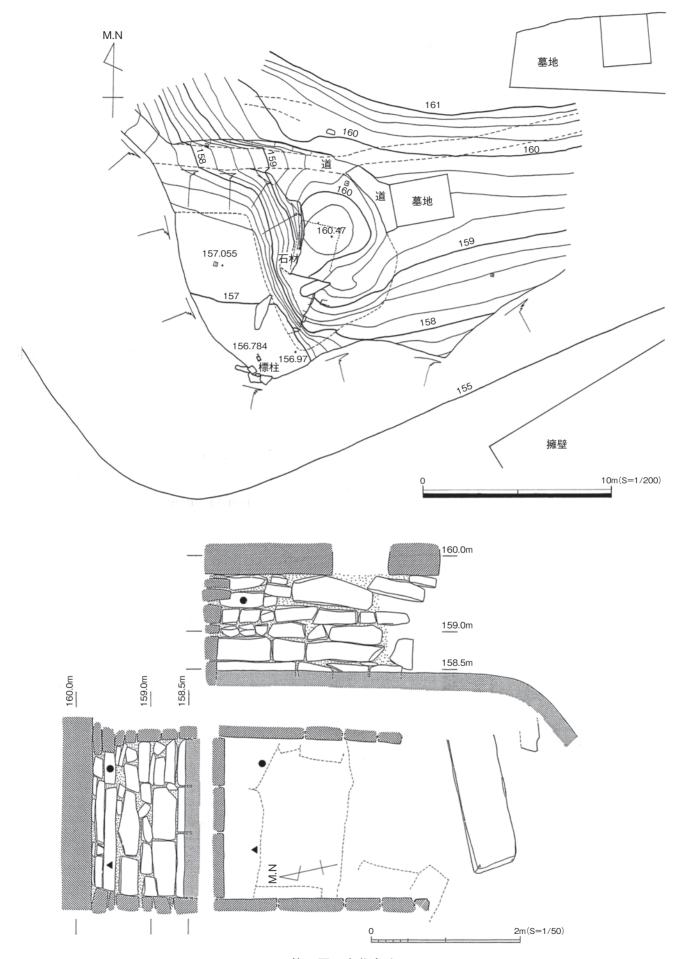
浜田市三隅町井野大谷に所在する。大谷盆地を流れる井川川左岸の丘陵端に立地する。1951(昭和26)年に井川川が氾濫した際、地表面に土器層が発見され、井野中学校の歴史研究クラブによって最初の調査がなされた。調査時の図面等は確認できないが、三隅町誌に土層図が載っている。調査地点は特定できないが、現地一帯では遺物が採取できる。弥生土器・土師器の混成層と須恵器出土層の2層が確認されている。当時の出土遺物は、弥生土器片、土師器片、須恵器片、砥石などがある。

現在、井野中学校から三隅歴史民俗資料館に移された遺物には注記がなく、大谷遺跡から確実に出土した遺物と断定できないものもある。三隅町誌には大谷地区でも他の場所から須恵器が採取されたことが記されている。また「鎌手」と注記された須恵器や波子遺跡の縄文土器と見られるものもあり、益田・江津周辺の遺物も混在している。縄文土器は混在した可能性があり、注記から確実な大谷遺跡の遺物を選ぶと弥生時代~古代の遺跡で、古墳時代の須恵器片が最も多い。

 $1\sim6$ は、土器の注記より昭和26年調査時の出土遺物と思われる。 1 は、弥生後期の甕である。口縁部外面に 2 条の凹線が施され、やや内傾気味に立ち上がる。胴部外面には刺突文が巡り、内面頸部以下には、ヘラケズリを施している。石見 V-1、2 様式にあたる(松本1992)。 2 は、弥生後期の甕である。口縁部が厚く、内面頸部以下にはヘラケズリを施す。 3 は、土師器高杯である。脚部外面は縦方向のミ



第1図 大谷遺跡 (1~9)、三隅歴史民俗資料館所蔵品 (10~17)



第2図 大谷古墳

ガキ調整である。4は、須恵器の短頸壺である。胴部下半にはカキメが巡る。5は、須恵器の大型甕である。復元口径は30cmを測る。6は移動式竈の脚部片で内面に粗いケズリが残る。

7~9は平成22年に現地で表採した遺物である。7は弥生土器の底部片で上げ底状を呈している。8 は須恵器片で外面は格子タタキ、内面には同心円タタキ痕が残る。9は須恵器の蓋である。

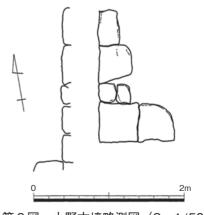
10~17は注記もなく大谷遺跡出土以外の遺物も含んでいると思われる。10は、縄文土器の鉢底部である。波子式(小都1996)。底部は高台状であり、外面には縄文を施している。復元底径は9.9cm。胎土は粗く1~2mm程度の砂粒を多く含んでいる。11は縄文土器の鉢底部片である。12は、石錘である。扁平な円礫の上下端を打ち欠いている。重量は40g。13は、弥生後期の甕か壺の口縁部片である。口縁内面には、粗いハケメが残り、頸部以下はヘラケズリを施している。14は、須恵器の高杯である。脚部外面には2条の沈線が巡る。15は、須恵器の處底部片である。底径は7.2cmを測り、高台を持つ。16は須恵器の提瓶、17は移動式竈の脚部である。

04 大谷古墳 (第2図)

浜田市三隅町井野大谷に所在する。標高約158m・平地からの比高約9mの井川川を臨む丘陵斜面に 立地する。丘陵突端にあり、平地からよく見える。墳丘はやや西側の後背に丘陵と墳丘を区画した平坦 地があり、幅1mの浅い弧状の溝が見られる。現状では直径約9~10m、高さ約2m程の円墳と見られる。 墳丘は昭和40年頃に西側を畑にするために大きく削ったため、横穴式石室西壁の玄室から羨道が大きく 破損し石室内もせり出した石が多い。玄室は残存長2.8m以上・奥壁幅2.1m・残存高1.25mで、平面形 はコの字状になる。主軸は磁北から11°西に振っている。羨道部に小型石が列状に見られるが、以前は 松が生えておりその横に石が並べられていたようで原位置ではない。羨道部にも玄室東壁と直線方向に 小口積みの石が埋没しており、石室東辺はほぼ直線になる可能性が高い。石室は奥壁幅・床面の高さと 地形からみると狭長な玄室ではなく、最大で全長5m程と見られる。西辺の袖石の有無も不明確である。 石材の組み合わせは、玄室は石の長辺を接地させて壁の横目地を比較的そろえ、壁表面は石の平坦面を 揃え方形に整った石も含まれる。奥壁から約2.5m先の西壁は小口積みで積まれており、玄室と羨道で 石の積み方が変わる可能性がある。現状で石室入口西側(向かって左)に小口積みの西壁が露出してい る。奥壁はやや大きめの石を横置きに積上げ、大型の一枚石は用いられていない。側壁は現在の床面か ら0.8~0.9mをやや斜めに積み、さらに上は奥壁と側壁の隅に斜めに石をかけわたす三角持ち送りによっ て壁の傾斜をつける。この石は奥壁側の中型石(●)と横長で扁平な大型石(▲)で、特に中型石は両 辺にかけわたしたことがよくわかる。天井付近の石2段分(高さ約0.35m・約3割)が三角持ち送りに より傾斜がつく高さになる。石室は古くから開口しており出土品は不明である。

O1 小野古墳(第3図)

浜田市三隅町小野に所在した古墳である。1947(昭和22)年に土地を開墾する際に発見された。1979(昭和54)年の区画整理により消滅したが、当時の写真から丘陵裾に三ツ石(三神の墓碑)と古墳(横穴式石室)があったことがわかる。三隅町誌に石室の東側の側壁と奥壁の一部が写った写真があり、略測図も残っている。長さ約2m・高さ1m程が残っていたようである。現在、三角神社に移設された三ツ石は小野古墳の石室天井石の可能性がある。



第3図 小野古墳略測図 (S=1/50)

O16 青浦古墳(第4図)

浜田市三隅町岡見青浦に所在し、1967(昭和42)年に三隅町地方史研究会により発見された。標高約25mの低丘陵北斜面に立地しており、250mで日本海に至る。発見当時、現地は水田化のため墳丘、横穴式石室とも大部分が破壊されていた。

現状では1987年時の石室実測後に奥壁側の天井石が2枚陥没し、右側壁の前に天井石が倒れている。 奥壁は一部観察できる。石室内は残存長2.8m・奥壁幅1.65m・残存高0.95mである。石室の主軸はN-42°-Wになる。左側壁は羨道部が大きく破壊されているが、玄門部らしい石も見られ、奥壁側が広く 平面形が羽子板状になる無袖形横穴式石室の可能性もある。各壁の基礎石はやや大きめの石を用いてい るようだが、下部が埋没しており高さは不明確である。基本的に石は長辺を接地させ、やや大型の基礎 石上に中型~小型の石を3段程度据えて壁をつくるが、壁面の持ち送り(傾斜)はあまり見られない。 周辺の畑に遺物もなく、墳丘は大幅に削平されている。

O2 高田横穴群 (第5·6図)

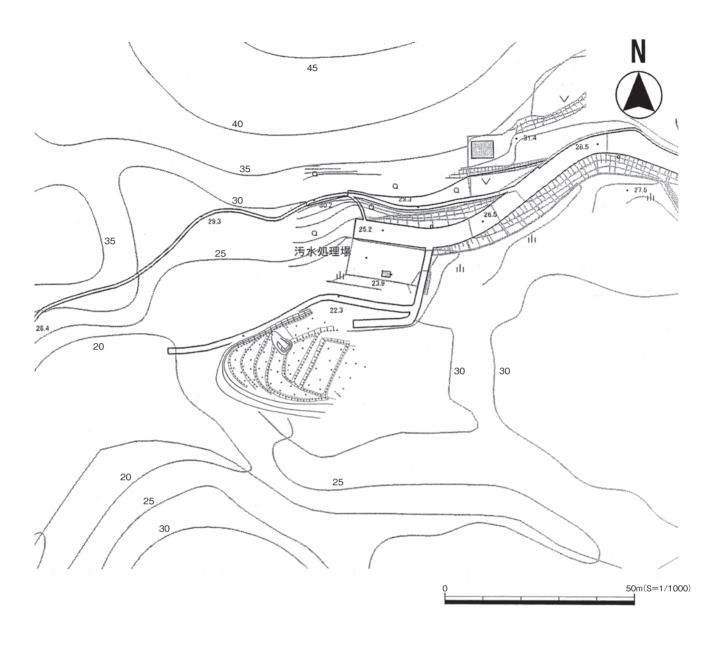
浜田市三隅町湊浦高田に所在する。寿仙寺山麓南側の丘陵裾に立地し、1943 (昭和18) 年の災害復旧工事の際に開口し発見された。1951 (昭和26) 年に出土した須恵器 (第5回・18) が浜田高校に所蔵されており、横穴からその後も遺物が採取されていたと見られる。1957 (昭和32) 年に3穴の横穴(高田T1~T3号)が実測され、その後発表されている (田中1983)。1961 (昭和36) 年の県道改修工事中には、A・B号穴の2つの横穴が三隅町地方史研究会により発掘された。須恵器や鉄鏃、大刀などが出土し、三隅歴史民俗資料館に展示されている (第4回16・第5回1~15、19~40)。

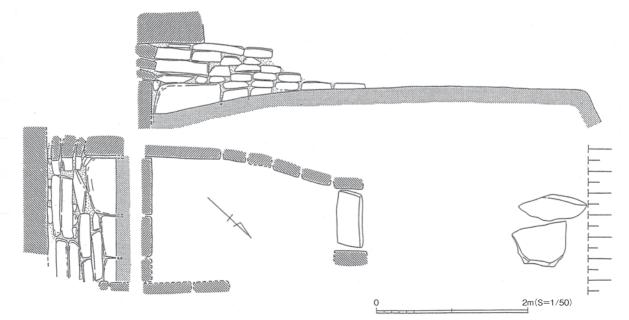
横穴は現段階で7穴が確認できる。現在の道路高あたりに2穴(A群)、約1.33m上に5穴(B群)が並ぶ。B群は2穴単位でわかれるようである。丘陵斜面の上方には地すべりによる段が2段あり、木根部分を横穴と誤認しやすい。新たに下段から順に番号をつけ、従来の名称とも対比した。1号穴が1957年実測の高田T1号、2号穴が1961年調査のB号穴、3号穴がA号穴、4号穴は高田T2号、5号穴は高田T3号と見られる。A群は三隅町誌に道路高に開口した状態の写真が載っているが、その後道路拡幅や災害で崩落したためか、現状ではほとんど残っていない。B群は崩落したり埋没したものもあるが、残りの良い穴がある。3号穴は玄室部分が残り、6号穴は羨道部が一部開口し玄室部分が奥行約2.2m残っている。実測図からわかる規模は1号穴(高田T1号)で玄室奥行き2.5m・幅1.5 m・高さ0.8m・玄門幅0.7 mである。

出土遺物は現在浜田高校($17\cdot18$)と三隅歴史民俗資料館($1\sim16$ 、 $19\sim40$)にある。他に実見できなかったが、須恵器の提瓶や短頸壷の写真が残っている(八雲立つ風土記の丘資料館1978)。現存する遺物よりやや古くなる須恵器(把手のつく提瓶など)も含まれており、横穴墓群は時期が遡る可能性もある。

1・2はかえりをもち天井部につまみをつける蓋である。1は乳頭状つまみをつけ、口径は10.5cmと小型である。石見6B期か。2は宝珠つまみをつける。石見6C期。3~5はかえりをもたない蓋である。いずれもボタンから宝珠状のつまみをつけ、口唇部は下垂する。石見7期。6~10は杯である。6は、高台を持たず、1の蓋と組み合う可能性がある。口縁端部はやや外反し底部に回転ヘラケズリを施す。石見6B期か。7~10は高台をもつ杯である。いずれも底部はヘラ切りで、やや高い高台をつける。11・12は高杯である。13は長頸壺である。胴部肩に2条の沈線を施し、その後に乱雑な矢羽状の刺突紋を施す。14は嘘で、穿孔時に刳り貫いた円筒状の粘土塊が器内にそのまま残っており土鈴のようになっている。15は横瓶の破片である。内面は同心円タタキ、外面は平行タタキとカキメが残る。16は提瓶である。突起状の貼付把手が2ヶ所に付く。17は短頸壺の蓋で平坦な天井部に欠損しているがつまみがつく可能性がある。18は1と同様の蓋だが、天井部にカキメが残る。

鉄器は1961 (昭和36) 年の調査後、そのまま保管されていたため、X線撮影による観察を行い、種類など概略を把握することができた。





第4図 青浦古墳

大刀は2振出土している。19は、刀身部と茎部の破片である。接合はしないが断面形等の観察から同一個体であろう。刀身部は切先に向かって傾いているが、本来のものか、経年変化によるものかは不明である。元幅3.1cm、厚さ1.0cmを測る。フクラ切先。両関式。茎部口幅は2.8cm。拵えは、足金具、責金具が残存し、鞘木も一部確認できる。足金具は幅0.4cm、厚さ0.2cmで断面長方形を呈し、刀身に斜交して配される。責金具は幅0.5cm、厚さ0.5cmで、茎との隙間に木質が確認できる。鞘に納められた状態で副葬されていたとみられる。20は、切先から茎部まで残り、残存長は85.9cm。刀身部は長さ80.5cm、元幅3.8cm、厚さ0.8cmを測る。フクラ切先で刃関部分は欠損している。茎部は口幅2.6cm、厚さ0.8cm。目釘孔が一つ確認できる。拵えは、鑞が茎部に残存している。幅2.2cm、厚さ0.2cmで筒状を呈する。半分は欠損している。

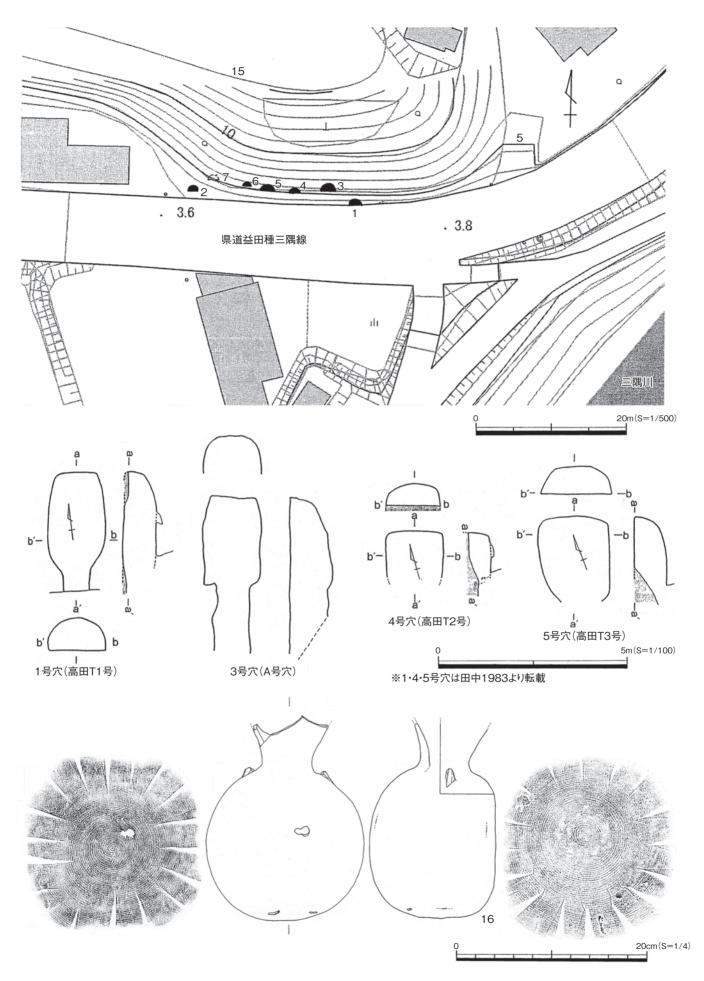
鉄鏃の鏃身部は5点あり、個体数は最低5本を数える。全て長頸鏃鑿箭式で鏃身関部が不明瞭である。 刃部断面形は錆によりはっきりしないが、片丸造であると思われる。21は完形であり、全長12.3cm。22 は茎先を欠き、残存長15.9cmを測る。茎部には樹皮が残っている。23は鏃身部から茎部までの破片であ る。残存長は9.8cmを測る。24、25は鏃身部片である。26、27は鉄鏃茎部片である。28、29は鉄釘である。 共に頭部を打って曲げている。28は完形であり、全長8.0cm。30は、L字状を呈している鉄製品である。 鉄釘か。31は刀子である。木製柄、柄縁金具が残る。明確な関は確認できない。32~40は、棒状鉄製品 破片である。鉄鏃か鉄釘であろう。

既に横穴墓の形は「徳利形」、「終末期の横穴墓」と指摘されている(田中1983)。全形がわかるものは少ないが、玄室平面形は長胴形で横幅に対し奥行きが長い。縦断・横断形も全体にまるみが多く、軒線・界線を入れた直線的な仕上げは見られない。横穴が掘られた岩盤は三群変成岩と見られ、縞状に細い節理があって割れやすい。このため大半の穴は天井など壁が崩落しており、横穴を掘って形態を維持することに適していないように見える。遺物から石見須恵器編年(榊原2010)の石見6B期~8期と見られるが、やや時期が遡る可能性も残る。

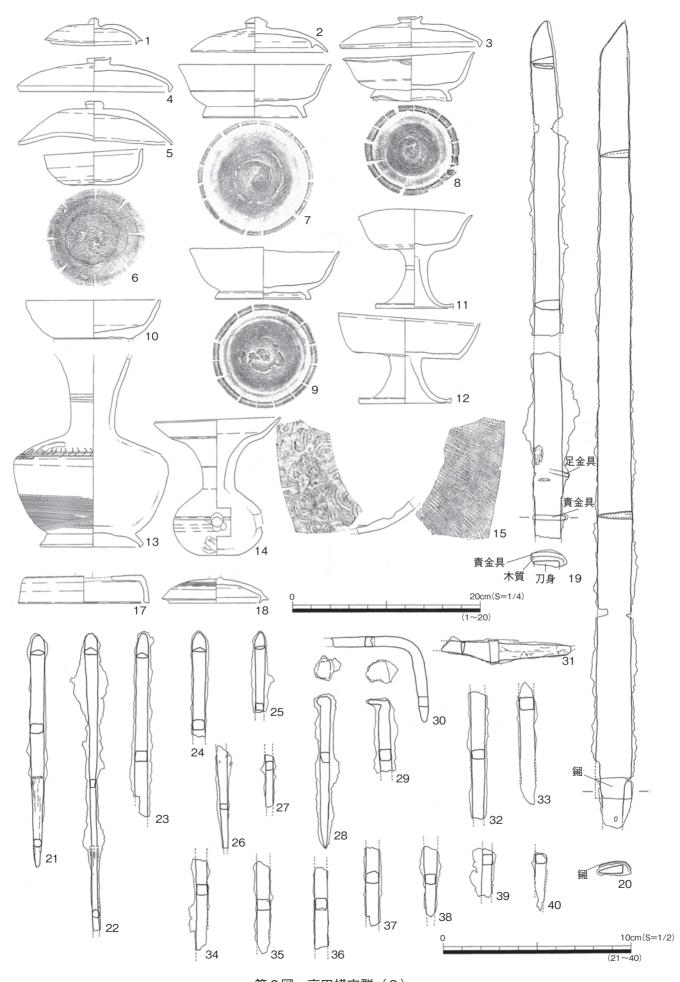
O83 苅立横穴(第7図)

浜田市三隅町三隅に所在する。1996 (平成8) 年に急傾斜地の工事中に発見され調査がおこなわれた。標高約10mの三群変成岩質の斜面に造られ、羨道部及び羨門部は破壊されていた。玄室天井部の大半は、剥落のため生きた稜線はほとんど残っていない。玄室は幅2.6m、高さ1m、奥行2.6mで平面形は各辺が直線ではないが正方形に近い。玄室内から人骨片多数、大刀4、須恵器約30、耳飾り5、切子玉5、鉄器など多くの副葬品が出土したが、人骨と大刀などは調査以前に動かされた形跡があった。人骨は鑑定によると、1体以上で内1体はかなり小柄な成人女性であると推定されている。耳飾り、玉類は左奥部に集中している。須恵器は、主に玄室の右奥部、左前部の2地点に集中し、ほとんど完形で残存していた。左前部は追葬に伴い整理されており、初葬の可能性がある。右奥部は長頸壷や有蓋高杯に逆転したものがあり、一回の追葬とは決めにくく、全部で2~3回の埋葬があったと見られる。初葬が石見6B~6C期、追葬が石見6C~7期と見られ、高田横穴群とほぼ同時期にあたる。須恵器の杯には美濃郡の本片子窯跡や後期古墳に見られる高台接地面が広い特徴的な杯(榊原2010)が1点みられる。

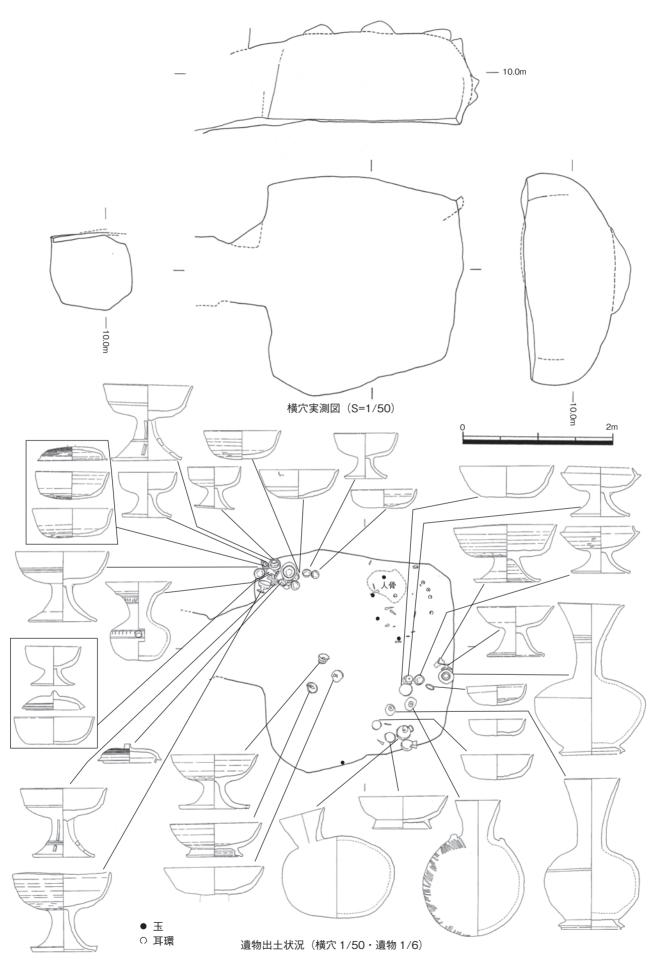
高田横穴群と苅立横穴は、同じ三隅川水系で約1.4kmしか離れていないが、形態に違いがある。那賀郡では現段階で確実に石見5・6 A期以前に遡る横穴墓は確認されておらず、石見の他地域では石見3期から横穴墓が造られる様相(島根県立八雲立つ風土記の丘1998)とは異なる。主に横穴式石室を持つ後期古墳が造られる中で、郡縁辺部(江津・旭・三隅)に新しい時期(石見6 B期以降)の横穴墓が散発的に造られている。今後はそれそれの系譜も含めた個々の検討が必要である。



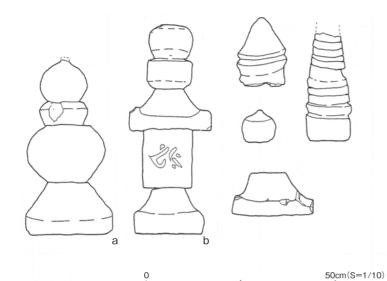
第5図 高田横穴群(1)



第6図 高田横穴群(2)



第7図 苅立横穴



銭貨名	国名	初鋳年	枚数	割合
1. 咸平元寶	北宋	998	1	0.07%
2. 景徳元寶	北宋	1004	4	0.28%
3. 祥符元寶	北宋	1009	105	7.46%
4. 祥符通寶	北宋	1009	138	9.81%
5. 天禧通寶	北宋	1017	49	3.48%
6. 天聖元寶	北宋	1023	6	0.43%
7. 治平元寶	北宋	1064	2	0.14%
8. 元豊通寶	北宋	1078	1	0.07%
9. 正隆□寶	金	1157	1	0.07%
10. 洪武通寶	明	1368	4	0.28%
判読不明	-	-	777	55.22%
小破片			319	22.67%
総計			1407	100%

総重量1.84kg

北宋銭		306	98.39%
金銭		1	0.32%
明銭	47 -	4	1.29%













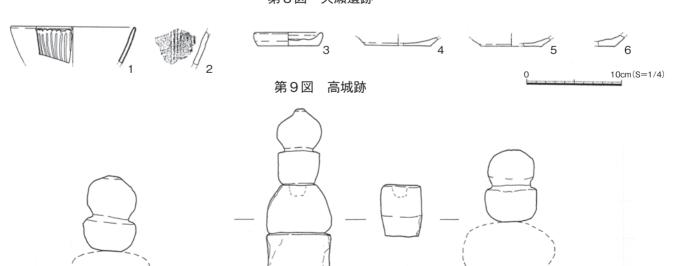




0 10cm(S=1/4)

50cm(S=1/10)

第8図 久瀬遺跡



第10図 笠取りの墓











高田横穴群出土遺物 (所在不明)



高田横穴群出土大刀



小野古墳(昭和54年撮影・左奥は三つ石)



小野古墳(昭和54年撮影・北より)



久瀬遺跡出土銭貨

042 久瀬遺跡 (第8図)

浜田市三隅町井野に所在する。1978 (昭和53) 年の市道拡張工事に伴い山裾を削った際に、石塔類 (宝篋印塔・五輪塔) と中国陶器の壺・銭貨が出土した。石塔類との上下関係、銭貨が壺に納められていたかは不明である。また遺跡の南には墓地があり、その中に五輪塔の水輪1、一石宝篋印塔の相輪上部2、一石宝篋印塔の基礎から笠までの部分1、基礎から塔身までの部分1基が確認された。

現在、壷と銭貨は三隅歴史民俗資料館におかれ、石塔類は現地に積み直されている。aは、上から五輪塔の空輪・風輪・水輪・火輪の順で積まれている。bは、上から五輪塔の空輪・風輪・火輪、宝篋印塔の塔身部の順で積まれている。空輪・風輪には、風化が激しいが梵字が確認できる。空輪は「キヤ」、風輪は「カ」であろう。宝篋印塔の塔身部の4面には、月輪等はなく素紋に梵字が刻まれている。表面に「タラーク」、右側面に「ウン」、裏面に「キリーク」、左側面に「アク」が配置される。その他に、宝篋印塔の上部1、宝珠部1、九輪部1、五輪塔の火輪1がある。

壺は中国産陶器無耳壺で器高18.9cm、口径6.8cm、底径5.7cmを測る。口縁部には砂目痕が付着し、内外面は施釉により黒茶色を呈している。口縁部は横に引き出し、胴上部に段をつけ頸部との境をつくる。底部外面はケズリとナデを施し、それ以外はロクロナデである。大宰府編年の壺V類で、13世紀後半~14世紀前半頃にあたる(大宰府市教委2000)。

銭貨は判読できるものが311枚あり、他は小破片が多くある。1 枚単位の分解確認は行なっていないが、総重量が1.84kg、1 枚 3 gと仮定すると約613枚となる。判読可能な銭貨でみると北宋銭が98.39%を占め、初鋳年が最も新しいのは洪武通寶(明・1368年)である。

07 高城跡・三隅城跡 (第9図)

浜田市三隅町三隅に所在する中世三隅氏の拠点になった山城である。史料では南北朝遺文・益田家文書などで1343(康永 2)~1562(永禄 5)の間に三隅高城・高城・三隅(角)城と記されている。現在の高城山山頂を中心に郭や掘が造られ、城の縄張図は既に島根県城館分布調査報告書などに掲載されている。災害による崩落など現地確認が困難な場所が多く、城の範囲や附属施設など伝承と遺跡の現状が整理されていない。現在の林道下に縦掘が広がる可能性もある。

山頂の平坦地(郭)で遺物が表採できる。中世後期(15世紀頃)の龍泉窯系青磁椀B3類(第9図・1・国立歴史民俗博物館編1993)や卸目のつく土師質のすり鉢(2)、陶器片(備前系・瓷器系)が数点あり、最も多いのは中世土師器皿(3)と杯(4~6)の細片である。

018 (市史10) 笠取りの墓 (第10図)

浜田市三隅町黒沢に所在し、1981(昭和56)年に三隅町指定文化財(現在は浜田市指定文化財)に指定されている。3基の五輪塔があり、1352(正平7)年5月11日、京都で北朝軍との戦いで戦死した後醍醐天皇の孫石見宮、三隅兼連の長子兼知、兼連の妹で石見宮の乳母胡篠局ら3者の遺品を埋葬したと伝えられている。向かって左から胡篠局、石見宮、兼知の墓と言われる。名称の由来は、前を通る人が笠を取って一礼したという言い伝えによる。

左右の石塔は、五輪塔の空・風輪のみであり、中央の五輪塔は、水輪を欠いている。中央の火輪は正面形が台形状、縦断面が長方形になり、通常の火輪を後に加工したと見られる。火輪には、ほぞが掘り込んであり、風輪の突起と組み合うようにしている。

参考文献(57頁の三隅自治区関連以外)

小都隆1996「波子式土器」『日本土器事典』雄山閣

国立歴史民俗博物館編1993『日本出土の貿易陶磁』

榊原博英2010「石見国の須恵器生産と出雲産須恵器」『出雲国の形成と国府成立の研究 - 古代山陰地域の土器様相と 領域性 - 』島根県古代文化センター

島根県立八雲立つ風土記の丘1998『八雲立つ風土記の丘』No.147・148・149合併号

大宰府市教育委員会2000『大宰府条坊跡 X V - 陶磁器分類編 - 』

益田市教育委員会1982『本片子遺跡・木原古墳』

松本岩雄1992「石見地域」『弥生土器の様式と編年』木耳社

第5章 史跡 石見国分寺跡(塔東側)の確認調査

第1節 調査の経過

地元自治会の防犯灯設置計画に先立ち、史跡 石見国分寺跡の塔跡付近の確認調査を実施することとなった。調査地の番地は 浜田市国分町1528番地2・1534番地2にあたり、史跡指定地内に含まれる。このため浜田市教育委員会は文化庁へ確認調査のための史跡現状変更申請をおこない、許可を受けて平成21年 6月22日~7月15日まで調査を実施した。調査面積は7.8㎡(3地点)である。

調査の結果、塔跡に直接関わる遺構は確認されなかったため、遺構のない場所(⑩調査区道路側)に防犯灯設置をおこなうこととなった。国分自治会より文化庁へ防犯灯設置のための史跡現状変更申請手続きをおこない、許可を受けて設置工事を平成21年9月29日~10月8日に実施した。工事には浜田市教育委員会職員が立会した。

石見国分寺跡の概要と、これまでの調査結果は以下の報告書に掲載されている。

浜田市教育委員会 1989『石見国分寺跡第 I 期調査概報』 第1~18調査区

浜田市教育委員会 2006 『史跡 石見国分寺跡・県史跡 石見国分尼寺跡』 ①~⑱調査区

第2節 層序と遺構

塔跡から市道を挟んだ南東の林に調査区を3地点設定した。これまでの調査では、昭和60年度に塔跡の西と北側で塔端と見られる磚列を検出しており、地山面は西側(第1調査区)で標高53.3m、北側(第3調査区)で標高約53.6mである。調査区周辺が塔跡の東側にあたる可能性もあった。

また、寺域内には古代瓦細片を少量含む赤褐色整地土 (A) と、古代瓦片を多く含む褐色整地土 (B)、古代瓦片から中世土師器片を含む灰褐色~褐色整地土 (C) が確認されていた。これまでの調査でそれぞれの整地土上面と地山面で遺構 (柱穴・溝など) が確認されているが、国分寺に関わる主要遺構は塔跡以外確認されていない。

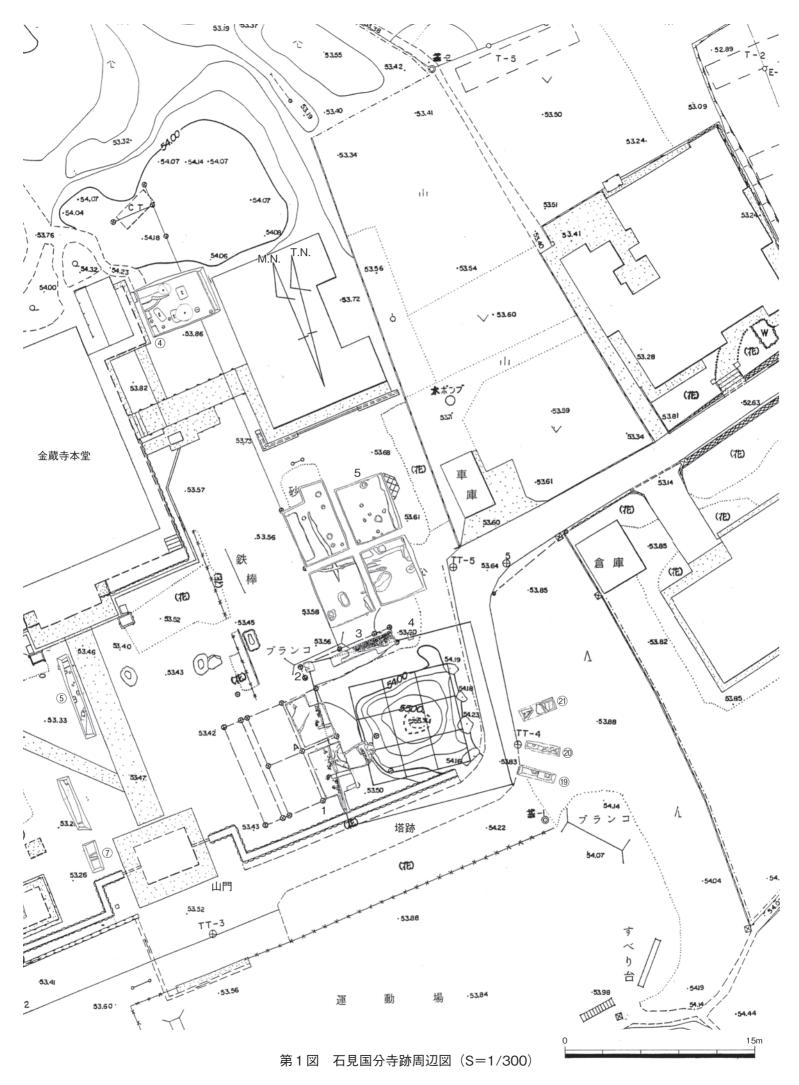
19調査区 0.8m×3m 現地標高53.9m

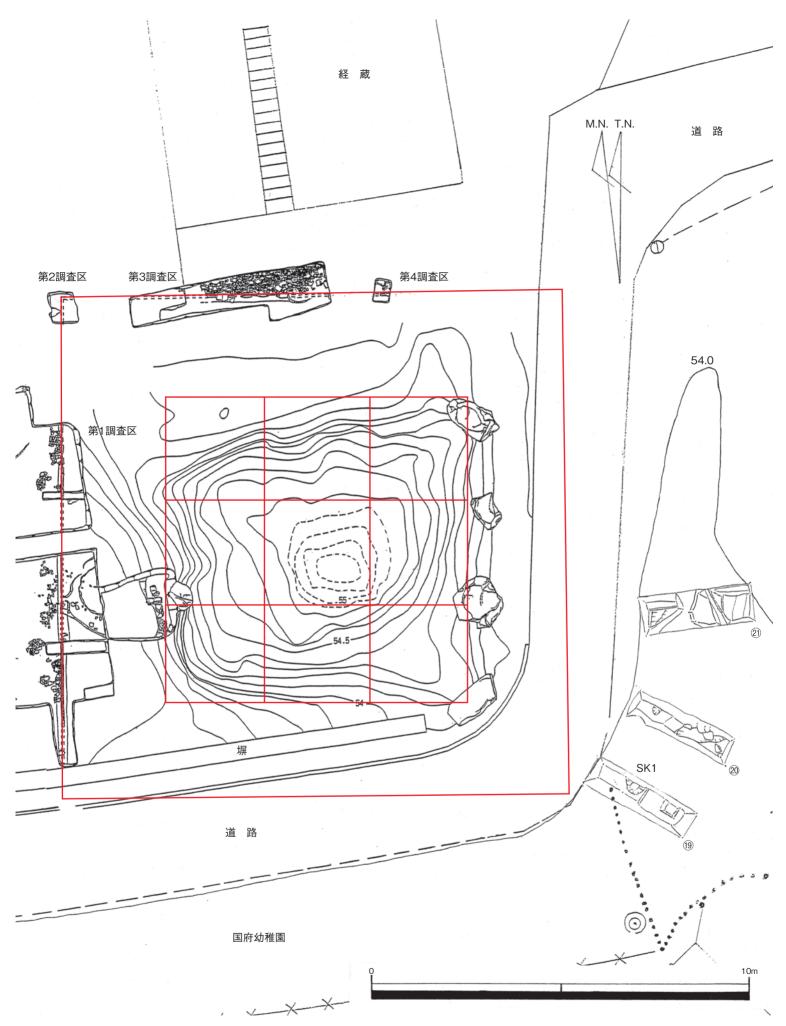
塔跡南東隅周辺と推定される位置である。磚列、雨落溝など直接塔跡に関する遺構は確認できなかった。

標高53.6mで古代瓦片を含む灰褐色整地土 (C) を確認した。さらに下層の標高53.45mには古代瓦片を含む赤褐色の整地土 (B) があり、調査区東側まで広がらない。地山面は標高53.3mで塔西側の第1調査区とほぼ同一である。

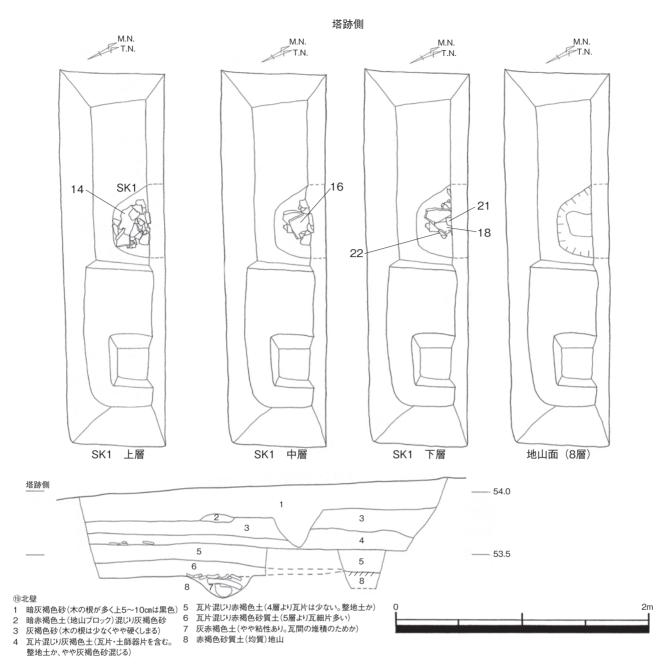
調査区西端から約70cm離れた地山面で直径約0.4m以上・深さ0.22mの瓦の入る土坑(SK1)を検出した。遺構検出状況の平面形では、調査区北側に続く土坑と見られたため、調査区にかかる範囲のみを遺構の性格と土層確認のために調査をおこなった。

土坑全体に瓦が入っており、大きめの瓦片が目立つ。柱痕は検出できず、穴全体に瓦が入っている。 埋土は地山に似ており、瓦を入れて埋めるまであまり時間差がないと見られる。土坑底面で石見国分寺 系軒瓦のうち最も新しいもの(軒丸31類)が出土し、およそ平安時代初期以降に瓦類をまとめて廃棄し たと考えられる。全体の状況は平成14年度③調査区の北側下層土坑に類似している。





第2図 石見国分寺塔跡周辺図(S=1/100)



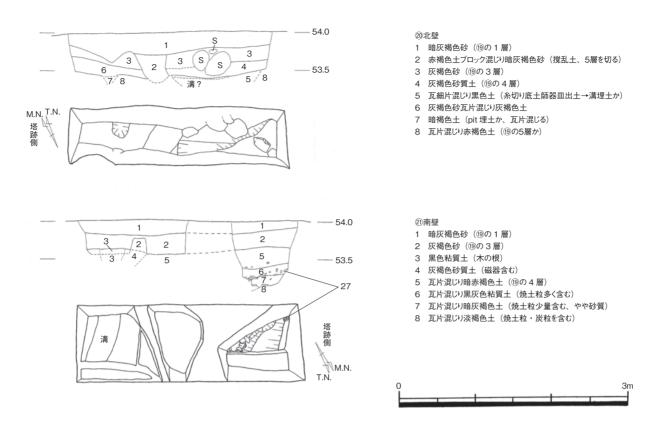
第3図 ⑲調査区実測図 (S=1/30)

20調査区 0.8m×3m 現地標高54.0m

標高53.4~53.5mで古代瓦片・中世土師器片を含む褐色の整地土 (C) を確認した。整地土上面付近では柱穴状遺構、溝と石列を確認した。石列はやや整地土上面より浮いており、近現代のものと見られる。調査区の東側には②調査区でも見られる近現代の遺物と古代瓦を含む灰褐色砂質土がある。整地土面で遺構が検出されたため、下層の調査は実施しなかった。

② 調査区 1m×3m 現地標高54.0m

標高53.65mで古代瓦片・中世土師器片を含む褐色の整地土 (C) を確認した。調査区の東側には⑩調査区でも見られる近現代の遺物と古代瓦を含む灰褐色砂質土がある。整地土面下には古代瓦片・中世土師器片を含む黒灰色土が厚さ0.1mみられ、特に上側に焼土状の粒が多く見られた。さらに下層に瓦片の混じる暗灰褐色土・焼土状の粒が混じる淡褐色土があるが、調査区が狭いため標高53.137mで掘下げを中止した。他の調査区の地山面が53.3m前後でそれより低いため、地山面まで掘りこまれた中世の土坑・溝など落ち込み状遺構の一部と見られる。遺構は幅0.65m以上・深さ0.25m以上である。



第4図 ②·②調査区実測図(S=1/50)

資間		j I	L L				平瓦			冶				須恵器				土師器			現代				総手
調 查 地 区	有段	無段	不明	軒丸	四無	凸砂	その他	不明	軒平	道具瓦類	不明瓦	蓋	杯	甕	その他	不明	杯	Ħ	不明	近現代陶磁器	近現代瓦	その他	その他	合計	総重量(kg)
19表土~表土下褐色土	0	0	13	1	13	2	1	3	1	0	42	0	0	0	0	0	0	0	3	1	1	0	4	85	7.02
19褐色整地土	1	0	32	8	30	2	0	0	4	0	240	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	318	12.02
19赤褐色整地土	1	0	10	2	7	0	0	0	3	1	107	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	132	3.24
19SK 1 (上層)	1	1	5	0	4	0	0	0	1	0	9	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	
⑩SK 1 (中層)	1	0	9	0	10	0	0	0	2	0	24	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	46	17.98
19SK 1 (下層)	4	0	2	3	1	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	13	
20	0	0	13	0	4	0	1	1	1	0	68	0	0	0	0	0	0	1	6	3	5	0	0	103	3.48
②表土~褐色砂質土	0	0	15	0	23	3	0	3	0	0	39	0	0	0	0	0	0	0	8	6	5	2	1	105	6.06
②1褐色整地土	0	0	15	0	16	1	0	0	0	1	112	0	1	0	0	2	0	3	24	0	0	0	13	188	3.98
②灰褐色整地土~黒色土	2	0	29	1	54	1	0	0	1	0	318	0	0	0	1	1	1	2	63	0	0	0	14	488	11.7
合計	10	1	143	15	162	9	2	7	13	2	961	1	1	1	1	3	1	6	104	10	11	2	33	1499	65.48

表 1 出土遺物集計表

第3節 遺物

[19]調査区包含層 (第7図 1~13)

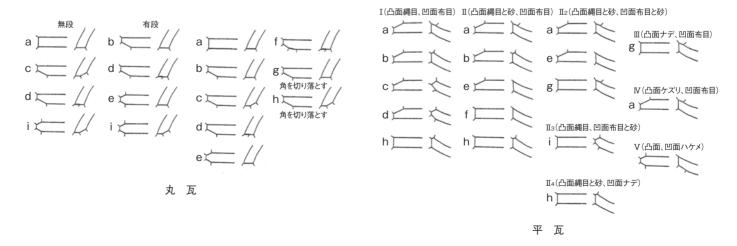
1は、軒丸瓦21類である(軒瓦の分類は第6図を参照)。中房には珠文が7つ残る。瓦当裏面にはナデの痕跡があり、瓦当部と丸瓦部の接合による製作技術が見てとれる。焼成は悪く、土師質で黒色を呈する。2は、軒丸瓦01類である。瓦当上部しか残存しないが、瓦当文様から01類と推定される。焼成は良好で須恵質である。3は、軒丸瓦である。残存部が少なく分類は不明である。4は、軒平瓦01類である。均整唐草文を瓦当面に配し、側面端部はケズリにより2面取りをしている。5は、軒平瓦である。瓦当文様から01類か02類と推定できる。6は、有段丸瓦である。風化により不明瞭だが、端部を2面取りしておりb類(丸・平瓦の分類は第5図を参照)と思われる。欠損面の観察から、平瓦に粘土を貼り付け有段部を形成したことがわかる。内面には布目が残り、布の重なった部分により2条の筋が入る。外面に縄目が見えるが、有段部は粘土接合のためかナデている。7・8は、端部2面、側面1面取りをおこなう丸瓦b類である。7の外面には炭化した表面が少し残り、全体に風化が著しい。9は、丸瓦c類である。端部2面、側部2面取りを行い、内面には布目が残り、外面はナデを施している。10は、丸瓦d類である。端部は2面取りを行い、側部外側には分割裁面を残す。焼成は良く青灰色を呈した須恵質である。

11は、土師器の皿である。内外面とも風化により調整は不明である。復元底径は4.8cmを測り、緩やかに立ち上がる。12は、須恵器の蓋である。輪状つまみを持ち、外面天井部周辺はケズリ後ナデである。内面は使用痕によるものか磨かれており円滑である。13は、須恵器の甕である。小破片であり、部位の特定は困難であるが内面には同心円文、外面にはタタキが残る。

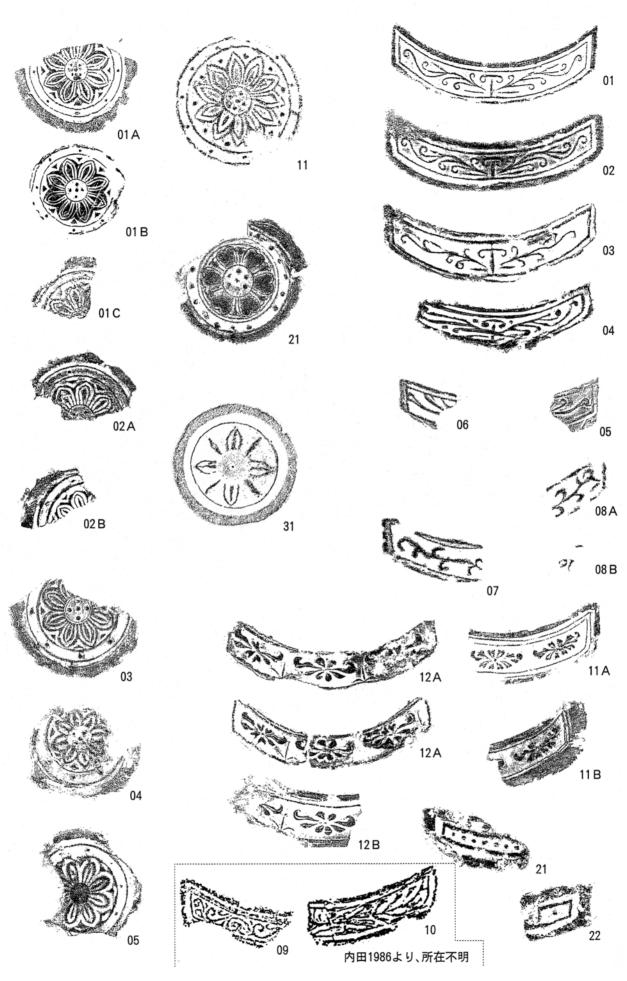
19調查区SK1 (第8図 14~22)

14は、丸瓦d類である。破片であり段部の形状は不明であるが、厚さが薄いことから無段であろう。 側部外側には、分割裁面を残す。15は、軒平瓦である。焼成は良く硬質。凹面は布目、凸面はケズリを 施している。小破片ではあるが、凸面ケズリの調整や縦断面の厚さから軒平瓦と判断した。14・15は SK1上層で出土している。

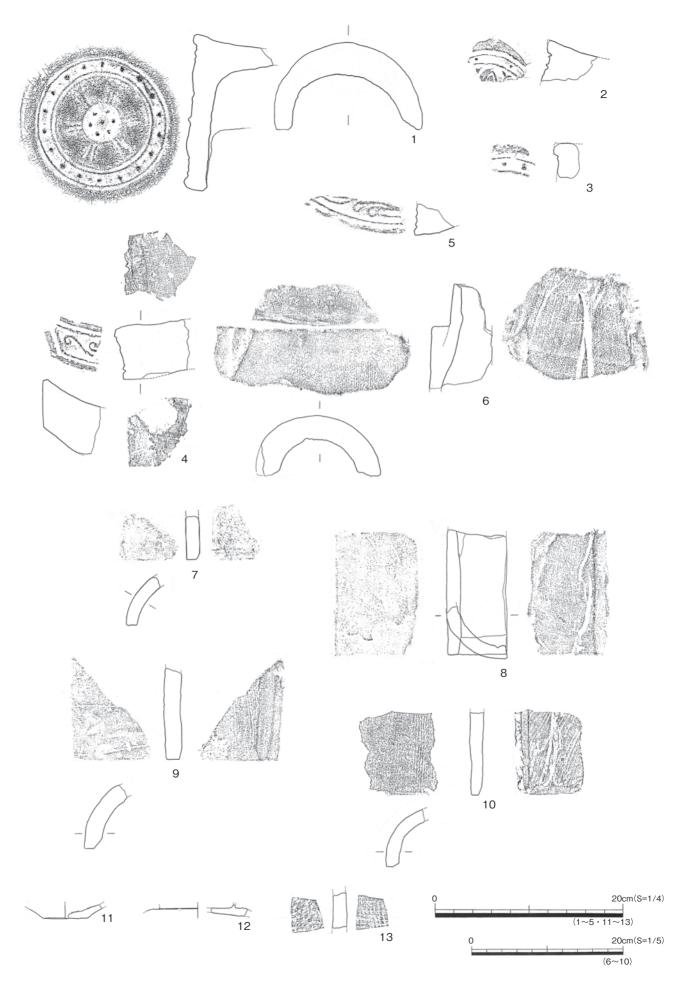
16は、軒平瓦である。顎の部分より欠損している。内面は布目が残り、外面は瓦当方向へのケズリを施している。17は、平瓦 I a類である。 $16 \cdot 17$ はSK 1 中層で出土している。



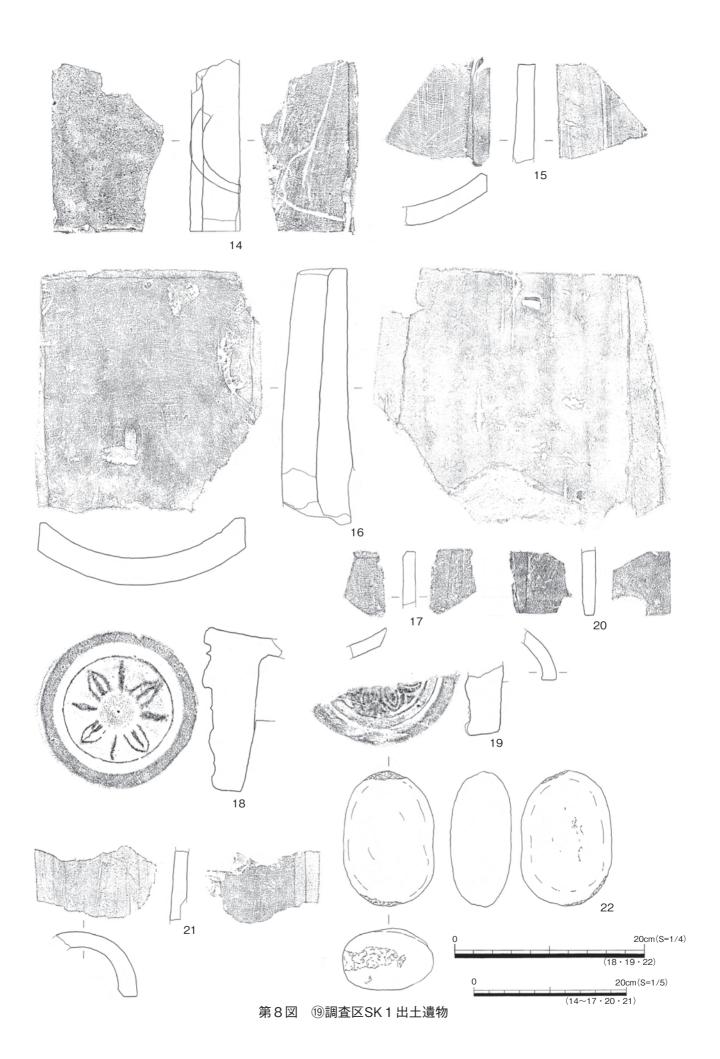
第5図 瓦分類表



第6図 石見国分寺系軒瓦(S=1/5)



第7図 ⑲調査区出土遺物

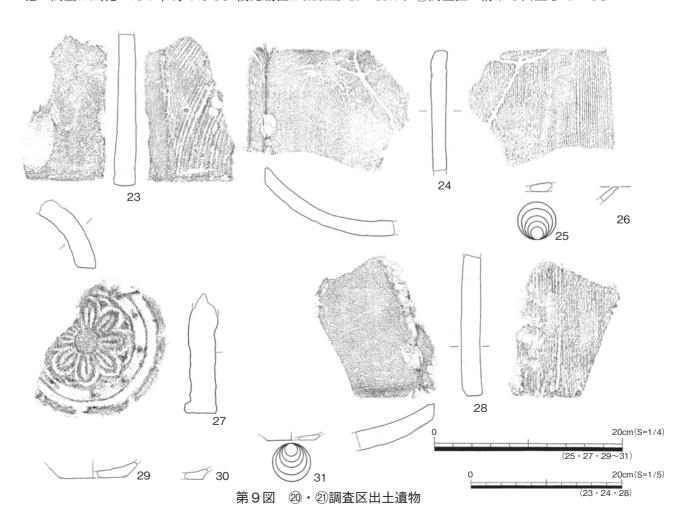


-83-

18は、軒丸瓦31類である。瓦当面には4葉単弁蓮華文を用いている。石見国分寺瓦窯跡などで同様の瓦が出土していたが、風化が著しく、今回の出土により瓦当面の詳細な観察が可能となった。その結果、軒丸瓦31類は、中房は平坦で、中央の蓮子は1個のみ配されていることがわかった。また今回出土品も、瓦当中心部を縦断する上方の弁の彫りが甘く、以前の出土遺物と同笵で作られていると考えられる。また瓦当が厚く、瓦当裏面の丸瓦部との接合部には型にあてたような明瞭な段が見られ、いわゆる1本作りにより成型したものである。19は、軒丸瓦01類である。瓦当面には、8葉単弁蓮華文を用いる。20は、丸瓦d類である。端部は2面取り、側部外側には、分割裁面を残す。21は、軒丸瓦である。端部は不明であるが、側部は2面取りをおこなっている。焼成はよく硬質である。凸面はケズリ、凹面は布目が残る。22は、円礫である。上・下端に敲打痕が確認できるが、その用途は不明である。重量は1.26kgを量る。18~22はSK1下層で出土している。

20 · 21調査区 (第9図 23~31)

23は、丸瓦b類である。外面は風化により調整は不明だが、内面は糸切痕が残る。②調査区出土である。24は、平瓦 I a類である。端部、側部 2 面取りをおこない、凹面は布目、凸面は縄目が残る。25は、土師器の皿。底部に糸切痕が残るが、残存部が少なく全体の器形は不明である。26は、須恵器の杯である。口縁部のみではあるが、内外面ともに回転ナデを施している。24~26は、②調査区包含層からの出土である。27は、軒丸瓦05類である。瓦当面には8葉単弁蓮華文を用い、中房には蓮子を持たない。焼成は土師質である。28は、平瓦 I a類である。29~31は、土師器の皿である。29は、内面に回転ナデの痕跡が残るが、全体に風化が著しい。復元底径では6.9cmを測り、緩やかに立ちあがる。30は、底部片。小破片のため復元はできなかったが、底部はくびれて立ち上がる。31は、底部に糸切り痕が見られるが、他の調整は風化のため不明である。復元底径は5.1cm。27~31は、②調査区の溝から出土している。



第4節 総 括

今回の調査では直接塔跡に関する遺構(溝・磚列など)は確認できなかった。塔跡の東端は調査区の 西側・現在の道路下になる。塔跡東側もこれまでの調査同様に古代~中世に整地がおこなわれているこ とがわかった。地山面が最も高い場所は現在の塔跡周辺から北側の④調査区周辺である。

塔跡の現状は側柱の礎石が真北方向に4個並び、石の上面の標高は54.2~54.4mである。磚列のある地山面が標高53.3mのため塔基壇の高さは0.9~1.1mと見られる。なお、これまでの塔跡測量図では礎石よりさらに0.8mほど高い方墳状の高まりが見られた。心礎の位置にある大木の根の影響範囲と見られ、その高さを差し引くと礎石より約0.4m上あたりが現状の高さである。礎石が元位置に近いと仮定しても、より高い位置に土盛がある点は後世の改変も含めて今後の検討課題である。塔跡は復元規模からみるとほぼ塔身の範囲が残存しており、礎石列の残る東辺は現在の道路幅に拡幅した際に礎石が割られたり、基壇が削られたりしたようである(註1)。

⑩調査区で塔に関わる遺構が存在しなかったため、基壇の最大幅が想定できる。雨落溝の幅を考慮すると、より小さい数値に近いと見られる。軒の出は遺構が確認できなかった⑩調査区と基壇復元ラインの間が最大1.5mしかないため柱間を加えると4.2m以内である。中国である石見国の国分寺では一案として次のとおり塔跡を復元できる(第10図)。一列の礎石と北・西辺から推定し、塔身の東辺を礎石列に合わせ完尺で合わせている。

塔の柱間1間2.7m (9尺): 塔1辺8.1m (27尺)

基壇1辺13.5m(45尺)以上:基壇出2.7m(9尺)以上

全国の国分寺塔跡では柱間 1 間 $10\sim12$ 尺のものが多く、三間等間が多いとされている(坪井1985、濱島2001)。基壇出は柱間と同じか $1\sim3$ 尺程度広いものが多く、淡路国分寺(下国)では柱間 8 尺の塔跡が確認されている(宮本1993)。

塔の規模を石見国内の他の古代寺院と比較すると、下府廃寺(石見6C~7期・註2)・天王平廃寺(石見7~9A期頃か・島根県教育委員会1970・註3)に比べやや大きい。石見国分寺は石見9A期頃が創建期にあたる。規模は下府廃寺が柱間1間 2.4m(8尺):塔1辺 7.2m(24尺):基壇1辺 13.2m(44尺):基壇出3m(10尺)とやや小さく、天王平廃寺は基壇1辺12m(40尺)とさらに小さい。規模の差は基壇1辺で概ね1.5m(5尺)、塔1辺でも0.9m(3尺)ほどである。塔基壇の外装は下府廃寺(改修あり、石・瓦)・天王平廃寺(石)・石見国分寺(磚)と寺院ごとに違いがある。地盤も下府廃寺は一部で掘込地業(版築)をおこない、天王平廃寺も範囲は不明確だが掘込地業をおこない基壇も版築で築かれている。石見国分寺は掘込地業をおこなわず磚で基礎を区画した可能性がある。時代の差もあるが、石見国内でいわゆる官寺と私寺で塔規模の差はあまり見られない。

なお、浜田市国府地区の主な遺跡は古墳時代終末期の片山古墳(石見6B期・註4)、白鳳期の下府 廃寺(石見6C~7期・註2)、奈良時代の石見国分寺(石見9A期)となる。

昭和60年度の塔跡北・東側の調査では塔基壇に関連する磚列が確認されており、地山を溝状に掘り磚を立てている。上面と周辺は削平されているが、掘り込み地業のような基壇の版築は確認されていない。第3調査区(北側)では立てた磚列の上に北側に約1cm張り出した状態で別の磚が横にして置かれ、3点残存していた。通常の形の磚が断面「字状に配置されている(註5・第10図)。

いわゆる基壇の地覆石は基盤となる石や磚を「敷く」点を重視すると、北側の磚列の上に置かれて残っていた3点の磚が地覆石にあたる。立てられていた磚列は地覆石の下に置かれた延石あるいは雨落溝の区画を兼ねたものと考えられる。雨落溝は掘込が確認されていないため存在も不明確だが、⑲調査区と基壇復元ラインの間は0.5m程しかないため、簡単な瓦敷きなどが想定される。また、磚列は方形に一周するように復元でき基壇の外形を示しているが、礎石配置の復元から見ると北辺では側柱の中央1間分よりやや狭い範囲で撹乱などもあるが磚列が確認されていない(註6)。階段等の施設が存在した可能性も残る。これまで見つかった磚には小口に段を造り突起状にするもの(浜田市教育委員会2006 第

16図65)や、平面に突起をつくるものがある(註7)。地覆石の上に立てる羽目石、基壇上縁に置く葛石などの可能性があるが現在確認されている量は少ない。磚はこれまで完形の出土例がなく、法量や全形は未検討である。

⑩調査区で確認された土坑(SK1)は今回の塔の復元東端から約1.5m離れている。地山面で検出されたこと、中に大きめの軒丸・軒平瓦などが見られること、土坑が埋まるまでの時間差があまり見られない点が特徴である。土坑下層からは石見国分寺瓦窯跡で1点採取されていた最も新しく残りの良い軒丸瓦31類(18)が出土し、中層から創建期の軒平瓦01類の可能性がある平瓦(16)が出土した。塔跡の南東隅に掘られた平安時代初期以降の瓦廃棄土坑と考えられる。状況から塔に葺かれた瓦を廃棄した可能性が高く、周辺の整地土や迎調査区の溝に含まれる瓦も蓋然性が高い。

このことから塔には軒丸 $01\cdot05\cdot11\cdot21\cdot31$ 類、軒平01類が葺かれていた可能性が高く、創建期から平安時代初め頃(表 $2\cdot I\sim III$ 期・浜田市教育委員会 $2006\cdot$ 註8)まで補修されながら維持されていたと見られる(註9)。塔跡には石見国分寺系軒瓦の主要な文様が継続して用いられている。地山は東側の塔跡周辺が最も高く安定し、西側は整地土で高さのバランスをとった可能性があることからも、寺域の中でも塔が一番重視されていたことが想定できる。

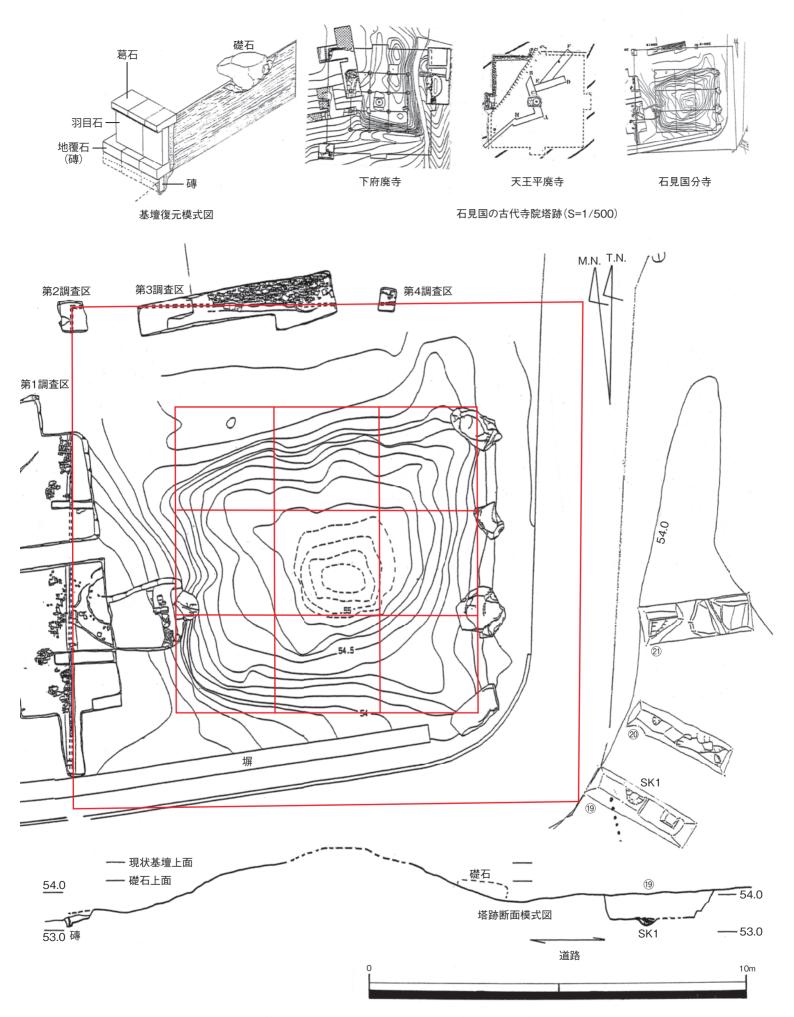
塔跡の南東隅付近で検出したSK1は、塔跡の最後の補修がおこなわれた後(Ⅲ期新~Ⅳ期)に作られたと考えられる。その上には瓦細片を少量含む赤褐色土(A)による整地がおこなわれている。この整地土は⑬調査区東側までは広がらない。また、寺域南西側(平成15年度 ⑫調査区・現在の砂利敷駐車場下)で見られた大きめの瓦片を含む暗灰褐色ブロック混じり赤褐色粘質土(B・Ⅲ期新)とも異なる。これまでは整地土を地山に近い色調(赤褐色→褐色→灰褐色)と含まれる瓦片の量(細片少→大きめの瓦片→瓦片多量)を参考に時期をみていたが、単純に古い整地土ほど瓦片が大きく地山に近い色調ということにはならない。最も大規模な整地は、瓦細片を含み地山に近い整地土(A)で寺域西側(平成16年度⑰調査区・現在の庫裏下)において確認された。現段階で最も古く創建期に近い時期と考えられるが、調査結果と併せると単に前述の特徴では整地土と時期は分類できない。

各調査区で確認された古代瓦片・中世土師器片を含む灰褐色~褐色整地土は金蔵寺本堂北側(平成14年度③調査区など)でも確認されている。塔跡北から寺域北東側はこれまでの調査(昭和61・63年度調査)で整地土は確認されていないが、塔跡東側では中世以降に整地が行なわれたことがわかった。②調査区に落ち込み状の遺構もあることから、塔基壇の東辺も既に削平されていた可能性がある。この溝状の落ち込みは出土する土師器細片からⅣ期新~Ⅴ期と見られ、焼土粒を少量含む。時期と火災の可能性から、約50m北側の昭和63年度に誕生仏が出土した12調査区の溝との関連も考えられるが、距離と方向から直接は繋がらない。また、焼土粒を含む層は南側の⑩・⑳調査区では確認されておらず、焼土や炭粒の量も12調査区に比べ非常に少ない。

今回の調査では、塔跡東側の状況と古代~中世の整地土の分布についての基礎情報を得ることができた。

註

- (1) 塔跡の旧状は『島根縣史』第4巻に道路拡幅前の礎石列の写真が掲載されている。礎石上面と 現状基壇上面の高さが合わない点は、塔の東辺が削られたことにより礎石列がやや東へ動いた り、ずり下がった可能性もある。現状で柱を載せる平坦面がある礎石は南東隅の石のみで道路 の屈折部にあたる。
- (2) 下府廃寺の調査では、寺院地造成以前の旧表土より石見5・6A期以降の小型化した杯H(浜田市教委1993・第24図5~8)が出土し、6C期の可能性がある大きめの杯B蓋(第22図3・4、蓋のかえりは欠損)がある。また、出雲産須恵器の可能性がある蓋(第22図1)も出土しており、石見では7~8期にあたる(榊原2010)。



第10図 石見国分寺塔跡復元図 (S=1/100)

- (3) 天王平廃寺の塔跡は基壇と心礎しか確認されていない。他に柱座を造りだす礎石がある(大国 1981)。心礎は基壇上面から48cm程下にあった。基壇には幅2.12mの階段がつき、柱間寸法の参 考にすると柱間 1 間2.1~2.4m(7~8尺)の塔と見られる。心礎の柱穴を比較すると下府廃寺が直径86cm・天王平廃寺が93cmとなる。
- (4) 大谷2010では石室形態から飛鳥Ⅱ期併行としており、石見6B期にあたる。
- (5)昭和60年度調査で塔跡北辺に2個の磚がΓ字状に配置されている状況は平面図と写真・報文があるが、断面図がないため、今回復元模式図を掲載した。磚の下や周辺に版築や裏込土があったかは不明瞭である。浜田市教育委員会1989第4図には西辺磚列の土層図が掲載されている。
- (6) 昭和60年度調査の原図を見ると、第3調査区(北辺)は試掘坑の深掘があるが磚列や溝掘形は確認されていない。第1調査区(塔西辺)の土層図では磚列が想定される場所に深い撹乱の掘込みがあり、磚の抜取痕のようにも見える。ちょうど復元柱間にあたる位置に撹乱が入っているようである。また平面図では塔西辺の磚列掘形は南側の磚列周囲で検出しているが途中で途絶えている。製図後に各報告に掲載された図面には掘形が北へ延びるように書き足されている。北辺も同様で、調査時の写真を見ると掘形らしき土層の違いが直線で見られる。
- (7) 浜田高校所蔵の磚の中に平面に突起がつくものがあると原裕司氏にご教示いただいた。
- (8) 浜田市教育委員会2006の表 5 を基にしているが、その後石見の須恵器編年(榊原2010)を考慮し平成14年度調査⑥調査区土坑の須恵器をやや古くしてⅡ期の古相(石見9A期)と変更している。また、陶磁器片を含み 2 次堆積の可能性がある 9 調査区土坑の須恵器(浜田市教育委員会1989 第14図)を主にⅡ期の新相(石見9B期)と考えている。
- (9) 軒丸01・21・31類、軒平01類は⑩調査区の状況から塔に葺かれていた可能性が高いと考えた。 軒丸05類は⑪調査区の古代~中世の溝から出土し、軒丸11類(浜田市教育委員会2006 第18図 72) は昭和60年度第1調査区の瓦溜(塔跡西側)から出土している。さらに組みあう軒平瓦を 考慮すると、塔跡周辺の出土例はないが軒平12・04類も可能性がある。

		丸瓦(廃棄時期)					<u> 1</u>	瓦(廃棄時期)	軒瓦	関連遺跡	
推定	時期		遺構	無段	有段	不明(有段か)	Ⅰ(縄叩き) Ⅱ1・Ⅱ2・Ⅱ4(離砂)		丸瓦 平瓦		
8C中頃	創建	I							01A 01		
00 90	AT ALL	1	塔の磚列 (1・2・3調査区)						02A 02	T 国 所 房 尼 表 寺 寺	
			⑥須恵器 ③南側下層土坑			c(3) d(2) f(1)	a(12) b(3)	II 1a(1)	03 03	寺 寺	
8C後半 ~9C	補修	П	③北側下層溝			C(3) d(2) f(1)			05 04		
									04 11A		
			古			i i	i i		04 11A		
9~10C	瓦窯	Ш	(0.8614. ±	a(1) d(1)	d(1)	d(1)	a(1) b(2)	$ \begin{array}{ c c c c c c c c c c c c c c c c c c c$	21 12A	瓦窯跡	
	補修		①整地土 新 ⑪SK 1	a(1) d(1)	a(1)	G(1)				┊ 跡 ¦	
	_						a(2) c(1)			, i	
10~11C	部火災?	IV	12溝(誕生仏出土)			a(1) b(3) c(2) d(1)	b(1)			溝	
	?		③整地土 19整地土				d(1)				
11~15C						d(1)	a(7) b(4)	II 1b(1)			
11~150		V	古 ③北側上層溝 ③南溝上層溝			a(1)	d(2)	II 1h(1)			
16C~			新 ⑪銭貨								
金蔵寺 (1665~)	金蔵寺建立	VI	⑪大型土坑								

※軒瓦は製作想定時期、丸・平瓦は廃棄時期以降を示す。括弧内は破片数。

表 2 石見国分寺・尼寺の変遷 (浜田市教育委員会2006 表 5 を基に今回の調査結果を加えた)

参考文献(石見国分寺跡·尼寺跡関係以外)

島根県教育委員会1970「天王平廃寺跡」『島根県埋蔵 文化財調査報告書』第Ⅱ集

大国晴雄1981「島根県大田市域の遺跡」『松江考古』 第3号 松江考古学談話会

坪井清足 1985『古代日本を発掘する 2 飛鳥の寺と 国分寺』 岩波書店

宮本長二郎 1993「諸国国分寺塔と淡路国分寺」『淡 路国分寺』三原町教育委員会

濱島正士2001『日本仏塔集成』中央公論美術出版 大谷晃二2009「山陰の終末期古墳」『前方後円墳の終 焉とその後』第12回中四国前方後円墳研究会(広島大会) 資料集

石見国分寺跡・尼寺跡関係文献

朝枝誓實1919『金蔵寺由緒記』

野津左馬之助1925『島根縣史』第4巻 島根縣内務 部

国府町文化財審議会1963『国府町の文化財』 石田茂作 1966『東大寺と国分寺』至文堂

山本清1968「第四節 律令制度の時代」『新修島根県 史』通史編一 島根県

大島幾太郎 1970『那賀郡史』 旧那賀郡教育会 P381~382

山本清1972「第四章古代(二)奈良・平安時代」『仁 摩町誌』仁摩町

森郁夫1974「平城宮式軒瓦と国分寺造営」『古代研究 三』元興寺文化財研究所 のち 森郁夫1991『日本 の古代瓦』雄山閣 に収録

奈良国立博物館1980『特別展 国分寺』

島根県立八雲立つ風土記の丘1982『特別展 島根の 古代

内田律雄1986「石見国分寺瓦について」山本清先生 喜寿記念論集『山陰考古学の諸問題』 同記念論集刊行 会

内田律雄1986「石見国分寺瓦窯跡」『島根県生産遺跡分布調査報告書』島根県教育委員会

桑原韶-1986「金蔵寺境内(石見国分寺址)発掘に たずさわって」『郷土石見』No17 石見郷土研究懇話 会

前島己基1986「山陰における初期造寺活動の一側面」 山本清先生喜寿記念論集『山陰考古学の諸問題』 同記 念論集刊行会

浜田市教育委員会1987「石見国分寺跡発掘調査概報」 『季刊文化財』第58号 島根県文化財愛護協会

浜田市教育委員会1989『石見国分寺跡第 I 期調査概報』

岩町暁1989「「石見国国司襲撃事件」研究ノートー僧 一道の身分について-」『益田高等学校研究紀要 17号』 島根県立博物館1990『島根の文化財-仏像彫刻篇』 亀田修一1990「瓦から見た国分寺の造営-中国・四 国地域 - 」『考古学ジャーナルNo318』ニュー・サイエンス社

原裕司1990「石見国分寺と誕生仏」『亀山第17号』浜 田市文化財愛護会

児島俊平1992「馬の骨を探る」『郷土石見』No.31 石 見郷土研究懇話会

亀田修一1993「朝鮮半島から見た出雲・石見の瓦」『八 雲立つ風土記の丘 No.118・No.119合併号』島根県立八雲 立つ風土記の丘

江津市教育委員会1993『宮倉遺跡』

浜田市教育委員会 1993 『下府廃寺跡』

島根県教育委員会1995「久本奥窯跡」『一般国道9号 江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書I(鹿 伏山・半田浜西・二宮C遺跡・久本奥窯跡)』

三辻利一1995「江津市周辺の窯跡および遺跡出土瓦と須恵器の蛍光X線分析」『一般国道 9 号江津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査報告書 I (鹿伏山・半田浜西・二宮C遺跡・久本奥窯跡)』建設省浜田工事事務所・島根県教育委員会

内田律雄·江川幸子 1997 「石見」 『新修 国分寺の研究』 第7巻 補遺 吉川弘文館

浜田市教育委員会 1997『横路遺跡(土器土地区)』 岩町暁1997「石見国国司襲撃事件」『図説 島根県の 歴史』河出書房新社

林健亮2000「古代石見の瓦造り」『八雲立つ風土記の丘 No.161』島根県立八雲立つ風土記の丘

朽津信明2005「古代地方寺院の外装塗装の色について」『日本文化財科学会第22回大会 研究発表要旨集』 日本文化財科学会

梶原義実2005「国分寺系瓦の広域展開―日本海沿岸地域を中心に―」『名古屋大学文学部研究論集 史学51』のち 梶原義実2009『国分寺瓦の研究―考古学からみた律令期生産組織の地方展開―』名古屋大学出版会に収録

妹尾周三2006「中国地域の造瓦体制」『シンポジウム報告書 造瓦体制の変革―西日本―』帝塚山大学考古学研究所

浜田市教育委員会 2006『史跡 石見国分寺跡・県史跡 石見国分尼寺跡』

関 和彦2008「古代邇摩の世界と国分寺霹靂神社」『出 雲古代史研究』18号 出雲古代史研究会

白石純2008「中祖遺跡出土瓦の胎土分析」『一般国道 9号仁摩温泉津道路建設予定地内埋蔵文化財発掘調査 報告書1』

島根県立石見美術館2009『千年の祈り 石見の仏像』 榊原博英2010「石見国の須恵器生産と出雲産須恵器」 『出雲国の形成と国府成立の研究 - 古代山陰地域の土器 様相と領域性 - 』島根県古代文化センター

島根県立八雲立つ風土記の丘資料館2010『出雲国分 寺と山陰道の国々』



作業前(道路左:調査地 道路右:塔跡)



塔跡(東辺・礎石列)



塔跡西辺磚列(昭和60年度 第1調査区)



塔跡北辺磚列(昭和60年度 第3調査区)



調査区設定状況



⑲調査区 整地土上面



⑲調査区 SK1 検出状況



19調査区 SK1 下層



19調査区 SK 1 底面



⑩調査区(塔跡側より)



②調査区(塔跡側より)



20調査区 溝検出状況



②調査区(塔跡側より)



②調査区



②調査区 塔跡側落ち込み



調査終了状況



作業状況



作業終了状況







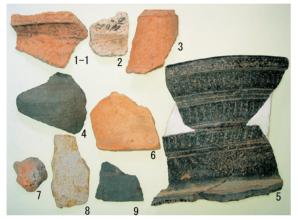












大谷遺跡



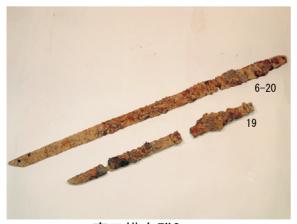
三隅歴史民俗資料館所蔵品



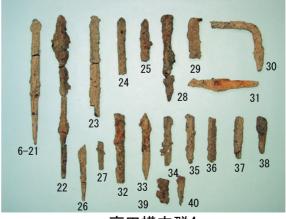
高田横穴群1



高田横穴群2



高田横穴群3



高田横穴群4

報告書抄録

ふりがな	しまねけんはがわわかくに			(みすみ	*じちく)	· [んじ	あと (と	うひがし		
書 名	島根県浜田市	島根県浜田市遺跡地図Ⅲ(三隅自治区)・史跡 石見国分寺跡(塔東側の確認調査)										
副 書 名	平成21年度市內遺跡発掘調查報告書											
巻次	1 // 1 /											
シリーズ名												
シリーズ番号												
編著者名	榊原博英・藤	田大輔										
編集機関	島根県浜田市	教育委員会										
所 在 地	〒697-8501島村	根県浜田市	殿町1番地	Tel0855	5-25-9731	bı	ınka@city.hamada.s	shim	ane.jp			
発行年月日	2011年3月											
ふりがな	ふりがな	コー	ード	北緯	東経		調査期間	部っ	生面積㎡	調査原因		
所有遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	0///	0///		四旦为旧 前		主国作 III	神		
いわみ こくぶんじあと 石見国分寺跡	島根県浜田市国分町	32202	L6	34° 46′ 42″	132° 11 ′ 52″	200	090622~20090715	7.8m²		確認調査		
所収遺跡名	種別	主な	<u> </u> 時代	主	な遺構	,	主な遺物		特語	 己事項		
石見国分寺跡	寺院跡	古代	・中世	土坑	・落ち込	み	古代瓦·須恵器· 世土師器	中	国分寺塔跡の東に隣接			
要約	史跡石見国分寺跡は浜田市国分町に所在し、現在の浄土真宗金蔵寺の境内とその周辺にあたり、 現状では塔跡と礎石が一部残るのみで様相は明らかにされていない。塔跡の東側隣接地の調査を実施し、塔の横に掘られた瓦の廃棄土坑を確認した。古代瓦片を中心に奈良時代~中世の遺物が出土した。 今回の調査で塔跡の基壇は確認できなかったが、以前の調査と併せ塔跡の規模を復元することが出来た。											

島根県浜田市遺跡地図Ⅲ(三隅自治区)・ 史跡 石見国分寺跡(塔東側の確認調査)

平成21年度市内遺跡発掘調査報告書

発行 島根県浜田市教育委員会 2011年3月 島根県浜田市殿町1番地 印刷 柏村印刷株式会社